

SHIZUOKA

JOURNAL

Vol.32 No.3 2023 (通巻216号)

目次

巻頭言	「公益社団法人と先義後利」 副会長(中部)佐藤 正明	1
告知	2023年度静岡県放射線技師会会費納入について	2
会告	第12回 公益社団法人静岡県放射線技師会定時総会の開催について(5/28)	3
	第27回 静岡県放射線技師学術大会の開催について(5/28)	4
	第27回 静岡県放射線技師学術大会プログラム(5/28)	5
報告	第15回静岡県MRI技術研究会(10/15)	7
	第5、6回告示研修(実技研修)(10/15~16)	8
	第79回超音波部会研修会(10/22)	10
	秋季公開講演会(11/3)	11
	第14回中部放射線医療技術学術大会(愛知県)(11/5~6)	13
	第55回アンギオ部会研修会(11/12)	14
	令和4年度原子力緊急時災害対策研修会(11/19)	15
	第36回乳腺画像部会研修会(11/26)	16
	第16回医療安全セミナー(12/10)	18
	第7、8回告示研修(実技研修)(12/10~11)	22
	新春公開講演会(1/14)	24
	公益社団法人化10周年記念式典(1/14)	25
	第49回放射線技師のためのセミナー(1/21)	26
	第63回東海四県放射線技師学術大会(静岡県)(2/11)	27
学術論文	第79回超音波部会研修会(10/22)	30
	第55回アンギオ部会研修会(11/12)	48
連載企画	突撃!! となりの放射線科	54
メッセージボード		57
本会の歩み		60
会員動静		65
本会への寄贈図書		66
議事録	令和4年度 第3回理事会議事録(12/17)	67
	令和4年度 第4回理事会議事録(2/18)	85
令和5年度静岡県放射線技師会事業計画(案)		101
行事予定カレンダー		102



『公益社団法人と先義後利』

(公社)静岡県放射線技師会 副会長(中部) 佐藤 正明



会員の皆様、本日はお日柄もよく、このしずおかジャーナルの巻頭言でお会いできたこと非常に嬉しく思います。申し遅れました、わたくし中部副会長を務めさせて頂いておりますJ A静岡厚生連清水厚生病院の佐藤と申します。いわゆるバブル世代の55歳、世間では老害と揶揄される昨今、「コロナ」や「ハラスメント」、「Z世代」、また「ゆるブラック企業」など難しい時代の中、もがきながら過ごしています。気がつけば我が病院では、あまり自覚していなかったのですが年齢は上から数えたらすぐに私でした。(医師を除き)まだまだアオハルの気持ちでいますがなにかと憂いていても始まりません。前置きはのくくらいにして本題に入りたいと思います。

令和5年の幕が明けた1/14に新春公開講演会及び公益社団法人化10周年記念式典が執り行われました。この一大イベントに携わり「公益社団法人」について少しばかり思いを馳せてみました。今暫くお付き合い下さい。

今まで気にも留めていなかったのですが、改めて公益社団法人を調べてみると「不特定多数が恩恵を受けるような公益性の高い事業を行う非営利の民間組織」とあります。志を同じくする人の集まりで社会全体の利益のために活動する組織だと言うことです。このような意味を知ったとき、ふと頭に思い浮かんだ言葉がありました。「先義後利」という言葉です。私の好きな言葉の1つです。この四字熟語と初めて出会ったのは忘れもしない私がまだ就職して数年たったバブルがはじけた頃、このままでいいのかと思い、大好きな儒学の本を読んでいたときのことでした。儒教の創始者である孔子の教えである五常(仁、

義、礼、智、信)

仁：人を思いやること、愛すること。

義：私利私欲に囚われずに己のなすべきことをなすこと。

礼：仁を具体的な行動として体现すること。人間の上下関係で守るべきこと。

智：学問に励むこと。

信：ウソをつかないこと、約束を守ること、誠実であること。

この五常の下、孔子の3,000人の弟子のひとり荀子の言葉が「先義後利」です。

利益よりもまず人としての道義・義理を最優先にしていれば、利益は後から勝手についてくる。という意味で、経営哲学でよく使われる言葉です。まさしく公益事業に通ずるのかなと妙に腑に落ち、最後のワンピースがはまったような心地いい瞬間でした。

私たちが人生の中で出会える人は、世界の人類の中でほんの一握りです。その中で日常的に付き合える人など本当に少数です。その方々に尽くし、その人たちから信用を得る。その結果、その人たちみんなから応援してもらえる。いいかえれば人との和(輪)ができて、人に助けてもらえる。それが「先義後利」の教えだと思います。他人に貢献できていると感じられたとき、人は自分に価値を実感し、最も質の高い幸福を感じることができるとされています。技師会の仕事、技師としての仕事を通じて自分が提供したことが不特定多数の恩恵になれば、こんなに嬉しいことはありません。もう少し続けたかったのですが終わりの文字数になりました。とりとめの無い思いにお付き合い頂き誠にありがとうございました。またの機会を乞うご期待。

告 知

2023年度静岡県放射線技師会会費納入について

公益社団法人静岡県放射線技師会 会員登録規定一部改訂に伴い、2023年度の会費納入金額を以下のようにする。

【内 容】

- (1) 会費額は、年間8000円とする。
- (2) 診療放射線技師籍登録初年度内の入会者に限り、初年度会費額5000円とする。
- (3) 本会会員のうち、当該年数に65歳に達する者は、会費額を年間4000円とする。
- (4) 本会会員のうち、当該年数に70歳に達する者で、
本会の35年勤続表彰を受けた者または日本放射線技師会に35年以上加入している者は翌年度以降の会費は終身にわたって免除される。

2023年度の該当生年月日は

該当年度に65歳に達する者→生年月日1954年 4 月 1 日～1959年 3 月31日の会員

該当年度に70歳に達する者→生年月日1954年 3 月31日以前の会員

会 告

第12回 公益社団法人静岡県放射線技師会定時総会の開催について

令和5年3月1日
公益社団法人 静岡県放射線技師会
会長 高橋 真

第12回公益社団法人静岡県放射線技師会定時総会を、定款第14条第1項に基づき下記のとおり開催いたします。

記

【日 時】 令和5年5月28日（日） 9：30～10：20

【場 所】 静岡県男女共同参画センター 「あざれあ」

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 Tel：054-255-8440

* 静岡駅から国道1号沿いに西へ（安倍川の方へ）歩いて9分

【申 込 み】 静岡県放射線技師会HPの会告の参加フォームよりお申し込みください。
(<https://shizuhogi.jp/i/seminar.html>)

【参 加 費】 無料

【次 第】 1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 表 彰

4. 報 告

令和4年度事業報告及び同附属明細書報告

令和4年度監査報告

5. 議長団選出

6. 議 案

第1号議案 令和4年度計算書類等一式承認の件

第2号議案 その他

7. 議長団解任

8. 閉会の儀

* 第27回静岡県放射線技師学術大会と同時開催です

* 議案集・学術大会予稿集は後日送付いたします

会 告

第27回 静岡県放射線技師学会の開催について

第27回静岡県放射線技師学会大会を下記の通り開催します。

会員研究発表20演題、ランチョンセミナーおよび公開講演と充実した内容にて行います。

多数の会員の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

【日 時】 令和5年5月28日（日）

【開催方法】 Hybrid方式（現地開催 + ZoomWebinarを用いたWEB配信方式）

【会 場】 あざれあ（静岡県男女共同参画センター） 6階大ホール
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 TEL: 054-255-8440

【内 容】

- | | | |
|-------------|------------------------------|----|
| 9:00～ | 受付 | |
| 9:30～10:20 | 第12回公益社団法人静岡県放射線技師会通常総会 | |
| 10:30～ | 第27回静岡県放射線技師学会大会 | |
| 10:30～11:50 | 会員研究発表 午前の部 | |
| | セッションⅠ X線撮影 | 3題 |
| | セッションⅡ MRI | 5題 |
| 12:00～13:00 | ランチョンセミナー | |
| | 『医療DX時代における読影支援ソリューション』 | |
| | キヤノンメディカルシステムズ株式会社 | |
| | 営業本部 EIS営業部 梅田 祐司 先生 | |
| | 『DLRを使用したCT・MRIの画像再構成の現状』（仮） | |
| | フィリップスジャパン | |
| 13:10～14:10 | 公開講演 | |
| | 『放射線技師を目指そう-大学教員からのメッセージ』（仮） | |
| | 名古屋大学 医学部保健学科 放射線技術科学専攻 | |
| | 准教授 小山 修司 先生 | |
| 14:20～16:20 | 会員研究発表 | |
| | セッションⅢ 放射線管理・情報管理 | 4題 |
| | セッションⅣ 放射線治療・核医学 | 3題 |
| | セッションⅤ X線CT | 5題 |
| 16:20～ | 閉会の辞 | |

【参加費】 正会員 1,000円、非会員 3,000円
賛助会員 1,000円、学生無料

※技師会員はIDカードをご持参ください。

第27回 静岡県放射線技師学術大会 プログラム

研究発表 午前の部

10:30~11:50

セッションⅠ X線撮影

10:30~11:00

座長 藤枝市立総合病院 放射線科 蒔田 鎮靖 (しげやす)

- 1、任意型検診における上部消化管X線検査の線量管理～技師ごとの差についての検討～
藤枝市立総合病院 放射線科 杉村 成矢
- 2、ERCP透視条件におけるHigh Resoの基礎的検討
磐田市立総合病院 放射線診断技術科 大石 哲也
- 3、透視装置CUREVISTA Open導入による使用経験
静岡県立総合病院 放射線技術室 澤口 文哉

セッションⅡ MRI

11:00~11:50

座長 静岡県立総合病院 放射線技術室 大石 恵一

- 4、T2 MappingによるLong T2 値の弁別
静岡県立こども病院 放射線技術室 佐野 恭平
- 5、Artificial Intelligence (AI) を用いた頸動脈不安定プラークの自動診断
静岡済生会総合病院 放射線技術科 山崎 敬之
- 6、当院腹部DWI撮影におけるb0画像の加算回数の検討
静岡済生会総合病院 放射線技術科 片山 皓正
- 7、頭部MRI検査における拡散強調画像での歪みの基礎的検討
磐田市立総合病院 放射線診断技術科 齋藤 太壱
- 8、無痛乳がん健診MRI (DWIBS) におけるIR delayの検討について
すずかけセントラル病院 放射線科 平間 晃平

ランチョンセミナー

12:00~13:00

座長 聖隷沼津病院 放射線科 坪内 秀生

テーマ：放射線診療におけるAI技術の現状

『医療DX時代における読影支援ソリューション』

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 営業本部 EIS営業部 梅田 祐司

『Deep Learning Reconstructionを使用したCT・MRIの画像再構成の現状』(仮)

フィリップス・ジャパン

公開講演

13:10~14:10

座長 JA静岡厚生連遠州病院 放射線科 筒井 亜季

『放射線技師を目指そう-大学教員からのメッセージ』(仮)

名古屋大学 医学部保健学科 放射線技術科学専攻 准教授 小山 修司 先生

セッションⅢ	放射線管理・情報管理	14:20~15:00
座長	静岡市立静岡病院 放射線技術科 千葉 和宏	

- 9、看護師の放射線に関する知識の現状と放射線防護教育
中東遠総合医療センター 診療放射線室 宮本 恭成
- 10、Cアーム型診断透視装置の表示値と実測値の比較
藤枝市立総合病院 放射線科 鈴木 康介
- 11、当院におけるCT検査被ばく線量管理の取り組み
藤枝市立総合病院 放射線科 鈴木 康介
- 12、STAT画像報告の当院での取り組みと課題
国際医療福祉大学熱海病院 放射線室 森田 祐介

セッションⅣ	放射線治療・核医学	15:00~15:30
座長	島田市立総合医療センター 診療放射線室 山崎 俊樹	

- 13、JASTROアンケート調査「治療計画用CTにおける被ばく線量に関するアンケート調査」を受けての検討
藤枝市立総合病院 放射線科 佐藤恵梨子
- 14、ルタテラ初期導入経験についての報告
磐田市立総合病院 放射線治療技術科 塚本 亮輔
- 15、冠動脈CTによる冠動脈狭窄と負荷心筋血流シンチの比較
聖隷浜松病院 放射線部 長屋 重幸

セッションⅤ	X線CT	15:30~16:20
座長	静岡徳洲会病院 放射線科 横山 和佳	

- 16、Silver Beam Filterを用いた低線量胸部CT検診の物理特性
藤枝市立総合病院 放射線科 角替 真樹
- 17、頭部CT撮影におけるガントリ傾斜角度ごとのCT-AEC設定値の検討
磐田市立総合病院 放射線診断技術科 宮本 涼香
- 18、上肢を挙上できない患者の腹部CT撮影におけるディープラーニング再構成の有用性
富士市立中央病院 中央放射線科 塩崎 博人
- 19、造影効果に影響する上腕の挙上角度における鎖骨下静脈の血管径変化
国際医療福祉大学熱海病院 放射線室 松本 圭司
- 20、新旧面検出器CTのシステム性能評価：装置が新しくなると線量低減が可能となるか？
沼津市立病院 放射線科 岡藤 康明

第15回静岡県MRI技術研究会 報告

令和4年10月15日(土)
Web開催

令和4年10月15日に第15回静岡県MRI技術研究会を開催いたしました。今回は部会初のHybrid形式での開催となりました。共催メーカーのゲルベジャパンのご協力もあり、問題なく配信作業を行うことができました。事前参加登録では97名の方々に参加登録していただきました。参加登録97名に対し、研究会当日の参加者は計84名（実参加率：約90%）であり、現地参加25名、Web参加59名でした。また地域別でみると県内47名、県外37名(21都道府県)という内訳でした。今回研究会より参加費を徴収することになったこともあり、参加者の傾向に変化がありました。前回研究会と比較し大幅に参加人数が減少した点、県内参加者の比率が倍増した点、磁気共鳴専門技術者の比率が倍増した点が大きな変化となります。これらの結果をふまえ、今後の企画や宣伝方法を考えております。

今回の研究会テーマは「小児のMRI検査」とし、会員発表2題、教育講演1題の構成で企画しました。

会員発表では、はじめに静岡県立こども病院の佐野恭平会員に小児MRIを撮像する際の検査環境についてご発表いただきました。鎮静方法の違いに対して、それぞれ検査の流れや検査中のモニタリングについてご説明いただいた上で、検査を安全に完遂するために我々技師が考えるべき点についてもお話いただきました。

続いて富士市立中央病院の鈴木健太郎会員に「備えあれば憂いなし！安全な小児MRI検査を目指して」というタイトルで、小児MRIを撮像する際の撮像技術についてご発表いただきました。ご発表の中でポジショニング・固定の重要性とその具体的な方法についてご説明いただきました。

教育講演では静岡県立こども病院放射線科の小山雅司先生に「小児中枢神経のMRI 一検査のためのヒントとポイントー」と題してご講演いただきました。小児の頭部MRIでみられる代表的な疾患について、どのような病態になっているのか？なぜ起こるのか？について実際の症例・画像を用いてわかりやすくご説明いただきました。またDWI・T2WI・FLAIRといったシーケンスがそれぞれどのような疾患や情報を見たい場合に必要とされるのか？についてもご説明いただきました。臨床・技術的なお話だけでなく撮像に臨む上での技師の心構えについてもお話いただき、大変参考になる講演でした。

一般病院において、小児MRIはその頻度の少なさ故に不得意と考える方々も多くいたと思います。苦手意識があるからこそ、こうしたテーマを研究会で扱う意味があると考えております。今後も有益な情報を発信できるよう努めて参りますので、引き続き当研究会をよろしく願いいたします。次回研究会は2023年3月11日（土）を予定しております。

最後に当研究会の開催に際してご尽力いただきました皆様、講師を引き受けて下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

MRI部会長 大石恵一



令和4年度第5、6回告示研修(実技研修) 報告

令和4年10月15日、16日
静岡医療科学専門学校

令和4年度第5、6回告示研修(実技研修)を令和4年10月15日、16日の2日間にわたり、静岡医療科学専門学校にて開催しました。

令和3年7月9日医政発0709第7号「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の公布について」が厚生労働省医政局長より発出され、診療放射線技師の業務範囲の見直し等が行われました。具体的には①静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為、②動脈路に造影剤注入装置を接続する行為(動脈路確保のためのものを除く。)及び造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為、③下部消化管検査のために肛門に挿入したカテーテルから注入した造影剤及び空気を吸引する行為、④上部消化管検査のために鼻腔に挿入されたカテーテルから造影剤を注入する行為及び当該造影剤の注入が終了した後に当該カテーテルを抜去する行為、⑤核医学検査のために静脈路に放射性医薬品を投与するための装置を接続する行為、当該放射性医薬品を投与するために当該装置を操作する行為並びに当該放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為です。以上の業務を行うための絶対条件として、医療の安全を担保することが求められています。そのため、日本診療放射線技師会が主催し各県で業務追加に伴う必要な知識、技能、態度を習得することを目標とした研修を基礎講習の修了者を対象に実施しました。受講者数は10月15日が46名、10月16日は43名でした。

午前中は動画視聴を行いました。1. 造影剤を使用した検査や核医学検査のために、静脈路を確保する行為、放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為を30分。2. 核医学検査

のために、放射性医薬品を注入するための装置を接続し、装置を操作する行為を40分。3. 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為、動脈に造影剤を投与するために造影剤注入装置を操作する行為を60分、4. 下部消化管検査(CTコロノグラフィ検査を含む。)のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為を45分。5. 上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する行為、造影剤の投与が終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為を20分おこないました。

午後からはシミュレーター、実習機材等を用いた静脈実技、動脈実技、上部下部消化管実技、核医学及び静脈(CT)実技の実習に入りました。医師1名、看護師1名、ファシリテータ6名のもと、受講生を6チーム(A～F)に分割し、2名1組として1チーム8名4組で実技研修を受講していただきました。

静脈実技では8ブースを準備して看護師とファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で穿刺役、患者役をそれぞれが担いました。その都度、講師からチェックが入りその場で指導を受けており、シミュレーション通りに終えないので刺激がある実習になりました。

動脈実技では4ブースを準備して医師とファシリテータが講師となり、1ブース4名2組で清潔役、補助役をそれぞれが担い、ガウンテクニック、造影剤注入装置に接続する行為について、講師からのデモンストレーション後に順次手順に沿って各人が実習を行いました。

上部下部消化管実習では、各4ブース準備をしてファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で行いました。下部消化管は肛門からカテーテ

ルを挿入、造影剤及び空気を吸入する行為の実習を、上部消化管では鼻腔カテーテルより造影剤を注入する、抜去する行為の実習をシミュレーターを使用して行いました。

RI実技及び静脈(CT実技)では、各4ブースを準備してファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で行いました。造影検査手技の操作手順、核医学検査の操作手順の実技を講師よりその都度指導を受けながら行っていました。

告示研修は厚生労働大臣が指定する研修であり、令和6年4月1日以前に診療放射線技師の免許を受けた者は、追加された行為を行おうとするときはあらかじめ受講が義務付けられています。

追加された行為を診療放射線技師が実施するか否かはそれぞれの施設の考え方によります。いつ何時、実施するように依頼されても良いように準備しておくことがこの研修会に参加する意義だと思います。この研修会をベースに、更に各施設において教育、研修を行い安全、安心な医療を提供するようにお願いしたいと思います。

生涯教育委員 曾我隆正

第79回超音波部会研修会 報告

2022年10月22日
静岡県立総合病院

新型コロナウイルスの影響で思うように開催ができなかった超音波部会研修会が2年ぶりに開催され、27名の参加がありました。

会員発表は4演題とも体表領域の症例報告が3題、心臓の症例報告が1題でした。放射線技師が携わる超音波検査としては“マイナー領域”でしたが、いずれも診断価値の高い画像記録と読影がされており、明日からチャレンジする意欲を高める発表でした。

特別講演は富士宮市民病院の嶋崎龍洋会員による「超音波検査に活かそう！救急撮影認定技師の視点」という演題でお話しいただき、重篤な状態になる前に患者の異変に気付くためには注意深い

観察が必要であることを学びました。

教育講演はSonogram Support Rayの奥川令会員による「プライマリーケアにおける超音波検査・めざすはソノグラファーゼネラル」という演題でお話しいただき、プライマリ医療での幅広い領域での知識と技術を持ったソノグラファーの重要性を学びました。

静岡県では超音波検査に携わる放射線技師は少数であり、個々の技術を高めることが難しくなっていると感じます。超音波部会を通して知識を共有し、静岡県内の放射線技師の超音波検査の技術を高め、プライマリ医療の需要に応えることのできる人材育成が重要と思われました。



県民公開講演会報告

秋季公開講演会『がん検診受診率向上を目指して』

令和4年11月3日(木・祝) 13:55~16:30
静岡県産業経済会館 大会議室+Web配信(Hybrid開催)
主催：静岡県放射線技師会 後援：静岡県、静岡新聞社・静岡放送

静岡県放射線技師会は、公益事業として県民の皆様が健康で過ごせるよう健康増進を推進するために、がん撲滅、そして、がん検診受診率向上と会員の資質向上を目的とした講演会を毎年企画しています。昨年は、新型コロナウイルス感染症感染拡大を鑑みてWeb開催となりました。今年は、公益事業として一般県民の参加目的と静岡県放射線技師会の知名度向上のため11月3日(木・祝)に静岡県産業経済会館にて会場+Web配信でのハイブリッド開催をいたしました。今回も、前回に引き続き静岡県放射線技師会の公開講演であるという事を全面に出すため、会員から3演題の講演をしていただき、今回の公開講演会では、「静岡県の肺がん検診の実情と胸部X線写真の読影」について検診の必要性をお話していただきました。

1 演題目は、聖隷沼津健康診断センターの山崎洋和会員から胃がん検診を受診する前に受診者の方々に知っておいて欲しい情報として、対策型検診と任意型検診やピロリ菌について、胃がん検診の内視鏡検査と胃X線バリウム検査の比較、バリウムの誤嚥についてまで詳しくお話があり、ピロリ菌除去後も定期的に胃がん検診を受診することを推奨すると言葉がありました。



2 演題目は、聖隷三方原病院の中村陽子会員から乳がんについて、乳がん年齢別罹患率では40歳代後半がピークであり、乳がん罹患数は2014年より第1位となっています。そして2020年では92,300人となっており、増え続けています。今や9人に1人が乳がんになる時代とのこと、乳がんは早期に発見・治療をすれば治る病気である。乳がん検診のマンモグラフィとエコーのメリット・デメリットを分かり易く説明していただき、プレスト・アウェアネス=自分で自分の乳房の状態を知ることの大切さを教えていただきました。意識することにより乳がんの早期発見に役立つのではないかと感じました。



3 演題目は、すずかけセントラル病院の佐藤好将会員からDWIBSによるがん検診について、まだ一般的に認知度が低いDWIBSとはDiffusion-weighted Wholebody Imaging with Background Suppressionの略になりMRIを使用した検診とのことです。

脂肪抑制にSTIR法を用いて自由呼吸下に撮影された広範囲MRI拡散強調画像を用いて診断いた

します。DWIBSの特徴としては広範囲のがん病巣の検出ができます。造影剤を必要とせず、放射線被ばくが無く、基本的に前処置が不要で検査時間が40分程度で全身検査ができるそうです。また、DWIBSでがん検出能が低い部位があります。そこを補うため人間ドックススペシャルコースを組み合わせたDWIBSドックを導入、DWIBSだけでは見逃しがちな癌は、胃カメラや低線量胸部CT等を併用してダブルチェックをすることにより癌発見率を高める工夫をされていました。



最後に、「静岡県の肺がん検診の実情と胸部X線写真の読影」について検診の必要性、肺がん検診の目的、静岡県の肺がん検診の精度管理、胸部X線写真読影のコツ、読影前に知っておくこと、読影の実際の内容で、聖隷福祉事業団保健事業部精度管理センター長の丹羽宏先生よりお話をいただきました。

静岡県の肺がん検診、がん発見率は全国平均とほぼ同等で、精度管理的にも問題が無く安心して受診していただける根拠や、我々診療放射線技師が撮影時に念頭に置いておくこと、胸部X線写真を読むコツ、などを分かり易く・ご丁寧にお話しいただきました。一般参加者だけでなく診療放射線技師の知識の向上にも大いに役立ったのではないかと思います。



今回の参加者数は、事前登録68名に対し、web参加者は会員43名、非会員5名、一般10名、会場参加者は講師医師1名、会員17名の計76名であった。

今後も、本講演会が静岡県放射線技師会の重要な公益事業の一つとして、多くの県民の皆様、また会員の皆様に関心を持って頂けるような企画や広報活動を工夫し、参加者数を増やし診療放射線技師の認知度アップを図りたいと思いますので、会員の皆様のご協力お願い申し上げます。

(報告) 広報担当 菅原和仁

第14回中部放射線医療技術学術大会 報告

2022年11月5日～11月6日
ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

第14回中部放射線医療技術学術大会が、令和4年11月5日(土)、11月6日(日)の両日、名古屋市にあります「ウインクあいち」において開催されました。新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、一昨年は延期、昨年は金沢にてオンラインでの開催となりました。今回は会場型での開催となり、会場は多くの参加者で活気のある大会となりました。4会場に渡り、特別講演、特別企画、委員会報告、教育セミナー、ランチョンセミナーが開催され、一般演題数は110を超えるエントリーがありました。参加者は720名にのぼり、現地参加者は635名、オンデマンドのみが85名で、初日の朝の受付前は大変盛況な状況でした。

開会式では國友大会長より、3年ぶりに現地開催ができたことに対する関係者へのお礼とともに、今回の大会テーマであります「実践知への探求：放射線技術学のリテラシー」について、この大会に対する思いを語られておりました。また、水口副大会長からは、新興感染症の収束が見えない中、現地開催にも関わらず、多くの一般演題の登録をいただいたことに謝辞を述べておられました。また、多くの企画を準備していることから、学会参加者の皆様には楽しんでいただきたい、との趣旨のお話がありました。

初日にJART検査説明委員会企画「検査説明のリテラシー」を聴講いたしました。JART江端理事から診療放射線技師がそもそも検査説明について積極的に関わる、というより患者へ説明を実施していかなければならない、という視点でお話をいただきました。2010年の医政局通知を受け、タスクシフトの流れを受けながらも、診療放射線技師が臨床の現場で検査説明を実施することの意

義や必要性について理解することができました。また、患者経験価値(Patient experience: PX)の視点から、ということで、PXをツールとして活用して患者および医療機関がwin-winの関係になるご経験をされた小林先生の発表も大変興味深く聴講させていただきました。

2日目はJART業務改善委員会企画を聴講いたしました。社会保険労務士であります横井先生の特別講演により、育児、介護に関する休暇制度について、最新の情報を交えて学ぶことができました。その後、3名の先生から実際に職場で、またご自身が経験された育児、介護の状況について詳しく解説をいただきました。

CCRTは全国学会とは違い、地元だからこその集まりができ、参加者各々が情報交換できたことは間違いないことでしょう。また、多くの学会参加者が会場型での学会を待ち望んでいたことが参加された方の笑顔や高揚感からも伝わってきました。来年は福井でみなさんとぜひお会いしたいと思います。



副会長(西部) 小林秀行

第55回静岡県放射線技師会 アンギオ部会研修会

令和4年11月12日(土)

Web開催

令和4年11月12日(土)に、第55回静岡県放射線技師会アンギオ部会研修会をweb型にて開催いたしました。

今回の研修会は、「アンギオ時の工夫と緊急アンギオの症例」をテーマとして企画し、メーカー講演を2講演、会員発表を3演題、特別講演を1講演、演者に発表を賜りました。

まず、バイエル薬品株式会社様より造影剤について情報提供をしていただきました。

メーカー講演では、PHILIPS様より最新のアンギオ装置技術について、講演いただきました。Full System APC機能により同じ場所での再撮影・透視位置合わせが不要となること、被ばく・造影剤使用量の低減につながることで、その他マーカーツールやエコー画像と透視画像のリアルタイムフュージョン機能など、最新の機能を説明いただきました。

会員発表では、静岡県立総合病院の小田幸佑会員、聖隷浜松病院の河口昂平会員、順天堂大学医学部附属静岡病院の野口伸弘会員に、「アンギオ時の工夫と緊急アンギオの症例」というテーマで発表していただきました。小田会員からはTACEにおけるIVR-CTを使用した診断および術中画像支援を中心にお話いただきました。IVR-CTを使用し、画像支援することで治療の質が上がることを実際の症例を提示いただきながらわかりやすく発表していただきました。河口会員からは、自施設の血管撮影部門で行っている様々な工夫を発表していただきました。物理的に装置故障を防ぐ工夫や、3D画像による画像支援、透視・撮影条件の検討、外傷IVRにおける移動のシミュレーションなど、紹介いただきました。野口会員からは自

施設で行っている血管撮影での画像支援を、領域ごとにわかりやすく発表していただきました。各領域で画像支援に使用されている質の高いVR画像やMIP画像、血管撮影装置のアプリケーションを駆使した術中ナビゲーションなどを紹介いただき、非常に興味深い内容でした。

特別講演では、浜松医療センター 脳神経外科医の平松先生より「脳血管内治療について」というタイトルでご講演賜りました。脳血管内治療の歴史から、血管内治療の手技の流れ、使用デバイスの特徴、実際の症例紹介まで、脳血管内治療専門医を育成するため、日々尽力されている先生だからこそ目線でご教授頂き、非常に勉強になることばかりでした。ご自身の成功体験だけでなく失敗体験を交えて、手技中に気を付けるべきことをご教授いただいたことについては、非常に説得力があり、改めてリスクのある治療に携わる責任を感じた技師も多かったと思います。「脳血管内治療において合併症を起こさず成功させるには、7割がstrategy(治療戦略)、2割が技術、1割が運」という先生からいただいた言葉から、技師も治療戦略を理解しそして予測し、医師を支援していく責任があると強く感じました。

最後にwebにて参加いただいた会員の皆様、快く発表をお引き受けいただいた会員の皆様、貴重な講演を賜りました平松先生、ご協力いただいたメーカーの皆様、この場を借りまして心より御礼申し上げます。

アンギオ部会長 萩原雄三

令和4年度 原子力緊急時災害対策研修会(公開) 報告

令和4年11月19日(土)
中部電力浜岡原子力発電所

令和4年11月19日(土)に「令和4年度原子力緊急時災害対策研修会」を中部電力浜岡原子力発電所において開催しました。今年度は、前半はスクリーニング実習等を公開ZOOM視聴形式で行い、後半は施設見学ツアーを行いました。新型コロナウイルス感染拡大第8波が迫る時期ではありましたが、感染対策に万全を期すよう問診票の提出をお願いし、実技ではフェイスシールド等を義務とし、会場参加者21名ZOOM視聴参加者13名の合計34名の参加を得て無事開催できました。

開会にあたり高橋会長より挨拶を頂き、ZOOM公開で千葉管理士部会長より「GM管取り扱いとスクリーニング」と題して講義が行われました。講義では、原子力災害医療の体系、GM計数管の取り扱い、スクリーニング検査について説明がありました。スクリーニングは一人を3分間で行うことを目的としたセグメント法について解説を頂きました。講義に引き続き、参加者が2名でペアを組みGM管を使い、実際にセグメント法で走査しました。最後に線源を隠した被験者役の方をスクリーニングし、見事線源を見付けました。実習の終わりにはタイベックスーツの着脱も体験し、これらの様子は、カメラ2台でZOOM共有して視聴参加者も模擬的に体験して貰えました。前半



の最後には、浜岡原子力発電所総括・広報グループの生田グループ長から「浜岡原子力発電所の概要と安全性向上対策」と題して、日本のエネルギー政策から原子力発電所の役割、安全管理を中心とした浜岡原発の取り組みなどについてご講義を頂き、ZOOMによる公開研修はここまでで終了しました。

会場参加者の見学は、2班に分かれバスで構内を巡り、それぞれ2名の職員の方が説明に付けてくれました。発電所構内では、より厳重なチェックを受け、原子炉建屋内への浸水を防ぐ取水、開閉弁、原子炉を冷やすための電源、注水、徐熱設備や、5号機原子炉建屋内では、核燃材料が原子炉プールに収まる様子が十分想像できる場所まで案内してもらえました。防波壁は、海拔22mの壁が1.6km続き、その風景は圧巻でした。また、研修センターの「失敗に学ぶ回廊」には、たゆまぬ安全努力の姿勢に、我々にもこんな取り組みが必要ではないかと考えさせられました。

参加者の皆さんお疲れ様でした。そして、浜岡原発の皆様には見学のみならず、GM管やタイベックスーツ、ZOOM資器材など多大なご支援を頂きました。非常に貴重な体験ができました。大変ありがとうございました。

文責 災害対策委員長 牛場克明

第36回乳腺画像部会研修会

『医師が望む技師の姿 ～乳がん診療における画像診断の役割～』

2022年11月26日(土)
Web開催

第36回乳腺画像部会研修会がweb開催されました。テーマは『医師が望む技師の姿 ～乳がん診療における画像診断の役割～』で、35名の県内会員の方が参加してくださいました。

『講習会的標準ポジショニング (CC) をやさしく解説&コツを伝授』では、昨年度のMLO撮影のポジショニングに引き続き、今回もライブカメラを使用してCC撮影のポジショニングの解説を行いました。

CC撮影は、MLO撮影のブラインドエリアになりやすい内側領域の乳腺組織を欠かさないこと、乳腺組織の多い外側乳腺組織もできるだけ入るようにすることが重要です。

内側アプローチでは、最重要である乳房内側領域を目視で直接確認できること、受診者の表情が確認できること、ポジショニングの際の手の返しがMLO撮影と似ていることが利点とされています。



事前の質問に対して解説もあり、円背の受診者の撮影方法、支持台の高さの設定、乳腺上部・深

部が入りにくい、乳腺外側領域が入りにくい、乳腺組織が硬くて乳腺後隙が入りにくい、外側に皮膚のしわができるなど、日常遭遇しやすい状況に対して撮影のコツが実機を使って解説されました。



次に、教育講演として聖隷予防検診センター諏訪香医師より『乳がん診療におけるよい画像とは』を講演していただきました。

現在、日本人女性が生涯に乳がんにかかるリスクは9人に1人で、罹患数は第1位です。死亡数は第4位であり、早期発見が重要になり、画像診断が大きな役割を果たします。乳房の画像診断にはマンモグラフィ、超音波検査、造影MRI、CT、PET-CTがあります。

検診における『よい画像』とは、病変の存在がきちんと認識できる画像です。



マンモグラフィではブラインドエリアを極力少なく、乳腺組織の重なりを少なくする。なるべく多くの範囲を描出する。超音波検査では乳腺の正常組織を認識して走査し、アーチファクトの少ない画像を撮る。ガイドラインの診断樹に沿った画像を撮るなどポイントを教えていただきました。

また遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の解説もありました。

診断・治療においては総合評価の中で各画像の役割が求められ、他の画像の情報を十分把握したうえでの撮影が必要です。

症例をもとに各画像検査、生検、手術までの流れを具体的に教えていただきました。私達が普段見ることのできない手術のやり方等も解説していただき、とても興味深い内容でした。

術前検査、手術、術後まで各画像検査が行われ、画像検査が果たす役割の重要性を理解しました。

最後に、今回の研修会の開催に際してご尽力いただきました関係者の皆様、会場を提供していただきました富士病院の皆様、参加者の皆様ありがとうございました。

乳腺画像部会 廣澤和美

第16回 医療安全セミナー 報告

令和4年12月10日(土) 15:00~17:00

Web開催

プログラム	
15:00~15:50	● 講演1「知って納得、備えて安心。技師会JARTの保険について」 ～JARTの保険について実際の事例、想定されている事故、紛争などから学ぶ～ 講師 東京海上日動火災保険株式会社 医療・福祉法人部 谷口 凛人 様 株式会社 メディックプランニングオフィス 加藤 真弓 様 株式会社 メディックプランニングオフィス 加藤 真弓 様 株式会社 メディックプランニングオフィス 加藤 真弓 様
15:50~16:20	● 講演2「放射線部門における安全文化醸成に向けた取り組み」 講師 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院 横石 吉記 様 院長 聖隷三万寿病院 渡本 康太 様
16:20~17:00	● 会員発表「各施設におけるインシデント・アクシデント対策～事例もまじえて～」 発表 共立瀬原総合 楠木 孝雄 様 ● バス機部のリスク対策 発表 共立瀬原総合病院 健康診断センター 鈴木 敦 様 ● 静岡県済生会総合病院におけるインシデント・アクシデントの現状と対策 発表 静岡県済生会総合病院 加藤 隆史 様

令和4年12月10日(土)第16回医療安全セミナーを行いました。昨年同様、今回もWEBセミナー(ZOOM)としました。今回のテーマはJART保険を知り、各施設での取り組みや情報を共有することによって医療安全対策に役立てていただくことを目指すこととしました。

「知って納得、備えて安心。技師会JARTの保険について」
～JARTの保険について実際の事例、想定されている事故、紛争などから学ぶ～

(本日説明： 東京海上日動火災保険株式会社、
株式会社メディックプランニングオフィス)

2022年12月10日(土)

講演1で東京海上日動火災保険(株)谷口凛人様、(株)メディックプランニングオフィス 加藤真弓様より技師会JARTの保険について実際の事例、他職種の事例、想定されている事故、紛争などを示しながら説明して頂きました。技師個人を保証する保険の必要性については3点示しました。・放射線技師業務での責任は原則として病院や施設が使用者責任を負うことになるが、施設が

責任を認めず、技師個人に求償することがあり技師個人が責任を負うケースがある。・施設は保険加入しているがあくまでも施設として加入していて個人の保証は対象外になっている。・過去の判例において事故における施設と個人の過失割合は8:2となっており、高額賠償の一部を個人が負担しなければならない可能性がある。このようなことから技師個人が自身の賠償責任を保証する保険に加入する重要性について示されました。JARTの保険は医療従事者技師個人を保証する制度ですが、そこでの事例を紹介していただきました。対人事事故では医療者個人が注意していたにもかかわらず防げなかった事故や不注意(注意義務違反、過失)で起こした事故。「CT撮影時、車いすからベッドへの移乗時、手がすべって転倒してしまう。レントゲン撮影時、目を離したすきに転倒し骨折」対物事故では技師の過失で起こしてしまった事例。MRI吸着など患者様のもの(例えば補聴器)だけでなく病院のもの(パルスオキシメーター)を壊してしまった事例やPHS水没などの事例を紹介していただきました。こうした事例に対しても施設が技師個人に求償する場合もあり、そうした時には報告相談してよいそうです。

そしてタスクシフトにより気になるところでは、静脈路確保時の神経損傷などの事故、造影剤投与時のアレルギー歴、確認不足による誤薬事故も他職種の事例を照らし合わせながら示していただき、このような業務も補償の対象となっているとのことでした。注意しておきたいのは、造影剤アレルギーの患者様に誤った造影剤を投与した場合、アレルギー情報のチェックをおこなっていたりすると、たとえ医師からの造影剤の指示があっても

我々放射線技師は注意義務を負っていて注意義務違反があると認定されれば罰せられることもありうることをあげておきます。

我々、放射線技師も医療従事者としておぼえておきたいこととして事故発生時の初期対応の重要性も喚起していただきました。初期対応を誤ると訴訟などに発展する可能性も高まるため、患者様に丁寧に対応することが重要であるとされていました。

任意保険部分 ご加入方法～



任意保険部分 ご加入方法～

①プランの選択
右記画面に必要な事項を入力いただき、資料をご請求ください。

②書類を送信
パンフレットをご確認いただき、加入申請書および口座振替依頼書に必要な事項をご記入いただき同封の返信用封筒に入れご返送ください。
申込書送付時にご加入希望月の翌月25日必要

③加入申込の受理
ご加入日までにご加入希望月に「診療放射線技師賠償責任保険 加入申込」を
ご送付させていただきます。

④保険料の支払い
ご加入月の翌月23日にご登録の口座より、保険料が引き落とされます。

■お問い合わせ先
「診療放射線技師賠償責任保険」事務代行会社
東京海上日動火災保険(株)代理店
(株)メディアプランニングオフィス
〒104-0033 東京都中央区新富12-22-6 5階ビル 2F
フリーダイヤル: 0120-226359 9:00～17:00 (土・日・祝日を除く)

我々技師会会員は、自動的にJART保険全員加入部分には加入することになりますが、全員加入部分だけでは、静脈路確保時の神経損傷などに対しては保証が足りない場合もあるかもしれないことでしたので、JART保険の上乗せ部分もしっかり考慮の方がよさそうでした。保険の上乗せはJARTホームページから資料請求し申し込みができるそうです。この講演を聞くと技師会に加入せず保険に入っていない人が心配でなりません。ぜひ技師会に入ってください、保険に加入していただきたいと思います。

放射線部門における 安全文化醸成に向けた取り組み

社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷浜松病院

放射線部 種石 吉記

講演2では、聖隷浜松病院 種石吉記様より安全文化醸成のための取り組みを講演していただきました。種石様たちはQCサークル全国大会の医療福祉部門の改善事例の発表大会において最優秀賞を受賞されました。大会ではヒヤリ・ハット事例の報告しやすい職場環境づくりに取り組まれた発表をされたということでその内容を中心にお話をさせていただきました。

一般的にハイインリッヒの法則では、1件の大きな事故（アクシデント）の裏には29件の軽微な事故（インシデント）300件のヒヤリ・ハットがあるといわれていることから、ヒヤリ・ハット報告を習慣化し、報告件数を増加させて事故の芽を摘むという活動をされていました。インシデント・アクシデント報告件数と比べ、ヒヤリ・ハット報告件数の割合を増やすための要因を解析し対策したことを紹介していただきました。・過去事例を共有するため、事例参照システムを新規作成し見やすくした。・報告したことがわかるように表を掲示することにより、入力促進を呼びかけた。・月初にヒヤリ・ハットメモを配布し、報告忘れを防いだ。こうした取り組みは、手法を標準化し定着させ、また継続することが難しいと思いますが、みんなが負担にならないような手法を考え確立して安全文化の醸成に役立てているところは皆様の施設でもヒントにしていただけるのではないのでしょうか。

バス健診のリスク対策

共立蒲原総合病院健康診断センター 鈴木敦 敬

施設発表①では、共立蒲原総合病院健康診断センター 鈴木敦様よりバス健診のリスク対策について発表していただきました。バス検診での医療安全対策について多くの対策を経験や知見に基づき実施しておりました。目から鱗のような対策まで紹介していただき、とても参考になりました。ここでは紹介しきれませんが、いくつか挙げておきます。・旧型の検診バスでは、技師と健診補助員が撮影室の前後に分かれてコミュニケーションがとりにくかったが、新型車の設計段階からアイデアを取り入れ技師、補助員、受診者が同じ空間でコミュニケーションをとることができるようにし、互いに近くにいるのでダブルチェックも容易に行えるようにした。・バス出入口について新型車の出入口では、階段の段数を増やし段差を小さくしたり手すりを車外にも取り付けたりした。・車内危険箇所として、新型車では引き出しの持ち手を押せば出てきて、押せば引っ込むものにした。・室内の角にアールをつけたりクッションをつけたりして転倒時の影響を小さくした。・撮影時の転落防止では、胃透視台の手すりにテニスラケット用のグリップテープを巻いて滑り止め効果を高めた。・高齢者メインの撮影時は、圧迫枕を使用し逆傾角度を減らすようにしている。・加齢による嚥下に必要な筋力の低下、認知機能低下による誤嚥予防のため一部の自治体で85歳以上の方にバリウム検査の卒業を促す。・誤嚥防止目的に、喉頭口の広がりを抑え、喉頭蓋の働きを高めるためにストローを使用しうづむき加減でバリウムを飲んでもらう。・向精神薬による薬剤性嚥下障害から誤嚥をまねくことがあるので、

問診にてうつ病がある場合には注意が必要。等々なかなか気づきにくいところまで医療安全面からみた対策について紹介していただきました。

当院における インシデントの現状と対策

静岡済生会総合病院 放射線技術科

○加藤隆史

片山皓正

施設発表②では、静岡済生会総合病院 加藤隆史様より済生会病院におけるインシデントの現状と対策について紹介していただきました。

事例の紹介では患者間違い、転倒、患者様を長時間待たせてしまった、ルート抜去、造影剤誤投与など、たくさんの事例や対策を紹介していただきました。患者様を長時間待たせてしまった原因に机の上が散らかっていることを挙げ5S（整理整頓）の重要性を訴えていました。

医療安全対策で見えてきた課題としては、レポートが少ない、インシデントについて話し合う機会がない、情報共有が不十分、コミュニケーション不足などを挙げていました。工夫している点として、部署内のインシデントの情報共有のために紙のレポートを提出し、部署内に掲示して他の人からのアドバイスを書き込んでもらうという取り組みを紹介していただきました。情報共有に関してはこちらの施設でも気を使っているようでした。

KYT活動では、写真を見てどういった危険がありそれをどう対処するのかを話し合うなどしていたのは参考になりましたが現在は行っていないとのことでした。とてもいい取り組みだと思うのですが、企画し実行すること、継続する難しさがあるのでしょうか。これも皆さんの施設でも感じていることかもしれません。

見えてきた課題に対する今後の取り組みでは、

紙レポートの名前欄の廃止を考えていました。これもレポート提出数を増やす工夫なのでしょう。他に5Sの徹底、コミュニケーションの重要性、KYT委員会でまとめた内容をメールで回覧など今後の対策についても紹介していただきました。

今回のセミナーで技師会保険の技師個人への保険加入の意義を、それから他施設の取り組み、現状、課題、アイデアなど工夫している点など多くの情報を提供していただきました。他施設での様子を知ることで自施設への取り組みに生かしていただければと思います。

セミナー参加者は42名でした。参加していただいた皆様、講演していただいた皆様に感謝いたします。

医療安全推進委員長
(静岡済生会総合病院) 中村英明

令和4年度第7、8回告示研修(実技研修) 報告

令和4年12月10日、11日
藤枝市立総合病院

令和4年度第7、8回告示研修(実技研修)を令和4年12月10日、11日の2日間にわたり、藤枝市立総合病院にて開催しました。

令和3年7月9日医政発0709第7号「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令等の公布について」が厚生労働省医政局長より発出され、診療放射線技師の業務範囲の見直し等が行われました。具体的には①静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為、②動脈路に造影剤注入装置を接続する行為(動脈路確保のためのものを除く。)及び造影剤を投与するために当該造影剤注入装置を操作する行為、③下部消化管検査のために肛門に挿入したカテーテルから注入した造影剤及び空気を吸引する行為、④上部消化管検査のために鼻腔に挿入されたカテーテルから造影剤を注入する行為及び当該造影剤の注入が終了した後に当該カテーテルを抜去する行為、⑤核医学検査のために静脈路に放射性医薬品を投与するための装置を接続する行為、当該放射性医薬品を投与するために当該装置を操作する行為並びに当該放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為です。以上の業務を行うための絶対条件として、医療の安全を担保することが求められています。そのため、日本診療放射線技師会が主催し各県で業務追加に伴う必要な知識、技能、態度を習得することを目標とした研修を基礎講習の修了者を対象に実施しました。受講者数は12月10日が45名、12月11日は47名でした。

午前中は動画視聴を行いました。1. 造影剤を使用した検査や核医学検査のために、静脈路を確保する行為、放射性医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為を30分。2. 核医学検査

のために、放射性医薬品を注入するための装置を接続し、装置を操作する行為を40分。3. 動脈路に造影剤注入装置を接続する行為、動脈に造影剤を投与するために造影剤注入装置を操作する行為を60分、4. 下部消化管検査(CTコロノグラフィ検査を含む。)のため、注入した造影剤及び空気を吸引する行為を45分。5. 上部消化管検査のために挿入した鼻腔カテーテルから造影剤を注入する行為、造影剤の投与が終了した後に鼻腔カテーテルを抜去する行為を20分おこないました。

午後からはシミュレーター、実習機材等を用いた静脈実技、動脈実技、上部下部消化管実技、核医学及び静脈(CT)実技の実習に入りました。医師1名、看護師1名、ファシリテータ6名のもと、受講生を6チーム(A～F)に分割し、2名1組として1チーム8名4組で実技研修を受講していただきました。

静脈実技では8ブースを準備して看護師とファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で穿刺役、患者役をそれぞれが担いました。その都度、講師からチェックが入りその場で指導を受けており、シミュレーション通りに終えないので刺激がある実習になりました。

動脈実技では4ブースを準備して医師とファシリテータが講師となり、1ブース4名2組で清潔役、補助役をそれぞれが担い、ガウンテクニック、造影剤注入装置に接続する行為について、講師からのデモンストレーション後に順次手順に沿って各人が実習を行いました。

上部下部消化管実習では、各4ブース準備をしてファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で行いました。下部消化管は肛門からカテーテ

ルを挿入、造影剤及び空気を吸入する行為の実習を、上部消化管では鼻腔カテーテルより造影剤を注入する、抜去する行為の実習をシミュレーターを使用して行いました。

RI実技及び静脈（CT実技）では、各4ブースを準備してファシリテータが講師となり、1ブース2名1組で行いました。造影検査手技の操作手順、核医学検査の操作手順の実技を講師よりその都度指導を受けながら行っていました。

告示研修は厚生労働大臣が指定する研修であり、令和6年4月1日以前に診療放射線技師の免許を受けた者は、追加された行為を行おうとするときはあらかじめ受講が義務付けられています。

追加された行為を診療放射線技師が実施するか否かはそれぞれの施設の考え方によります。いつ何時、実施するように依頼されても良いように準備しておくことがこの研修会に参加する意義だと思います。この研修会をベースに、更に各施設において教育、研修を行い安全、安心な医療を提供するようにお願いしたいと思います。

生涯教育委員 曾我隆正

新春公開講演会

令和5年1月14日(土)
ホテルグランヒルズ静岡

令和5年1月14日(土)にホテルグランヒルズ静岡において「新春公開講演会」が開催されました。当日はあいにくの雨でしたが、各医療機器メーカーや学生を含む一般の方が多く出席され盛大に開催されました。通年の新春公開講演会では、県民に向けて放射線に関する病気や検診について企画されていましたが、今回は少し趣向を変え、対象を中高生やその親御さんにあてる企画をいたしました。また、今年度より静岡県放射線技師会の会長に新たに就任した高橋真会長より診療放射線技師全般にもメッセージを発信する事もふまえて『社会の変化における診療放射線技師の変遷と将来像および県民への熱いメッセージ』と幅広い内容をお願いしてご講演いただきました。

多くの方が懸念を抱いている「放射性物質の人体への影響」を説明するにためには、放射線の量や強さ、すなわち線量に関する説明が欠かせませんが、内容が専門的なため、つい難しくなりがちです。高橋会長は、レントゲンによるX線の発見から現在に至るまで、放射線の研究の歴史的な背景や、単位名称の由来となった人物のエピソードも織り交ぜながらなるべくわかりやすい形で説明されていました。今後の展望として、医師の働き方改革を推進するため、他の医療従事者に業務を移管するタスクシフトの動きについて述べられました。法改正により診療放射線技師の業務範囲も広がっており、これまで以上の業務を行う必要も出てくると思われます。そのためにはタスクシフトを担う診療放射線技師の医療知識や技術力アップをすすめる必要があります。そして、いつ実施を依頼されても対応できる準備が必要です。そのために、放射線技師会が中心となって多くの

方の協力のもと、すべての診療放射線技師が告示研修を終了するよう進められています。

最後に、高橋会長のメッセージである患者さんに対して「心をこめて」接し、「真心をもって医療を提供することが大切である」という言葉を念頭に日々業務を行っていききたいと思います。

学術委員 早坂みさを



講演する高橋会長



司会の早坂会員



会場の様子

公益社団法人化10周年記念式典 報告

令和5年1月14日
ホテルグランヒルズ静岡 5F センチュリールーム

令和5年1月14日（土）15時より、静岡県放射線技師会 公益社団法人化10周年記念式典をホテルグランヒルズ静岡で挙行了いたしました。式当日は新型コロナウイルスも収まらない中でしたが、会員をはじめ衆議院議員・各医療団体から来賓が出席し開催されました。

式典は初めに、静岡県放射線技師会 高橋真会長より「本会は昭和23年8月に、32名の参加により静岡県放射線技師会として誕生し、そして平成24年4月1日に公益社団法人格を取得し、今年で10年という節目を迎えることができました。本日ここに、日ごろより格別のご指導ご支援を賜っております関係各位とともに、記念式典を挙行できますことは無上の喜びであり、改めまして静岡県放射線技師会の将来にわたる限りない発展を皆様方とともに誓い合いたいと思います。今後更なる飛躍を誓い、県民の皆様に診療放射線技師が必要不可欠と言われ続けるよう会員一同、一層の努力を致す覚悟でございます。」との挨拶をいただきました。

続いて、ご来賓の上川陽子衆議院議員、畦元将吾衆議院議員、深澤陽一衆議院議員秘書 遠藤敏郎様、静岡県健康福祉部 八木敏裕部長、静岡県医師会 紀平幸一会長、静岡県病院協会 毛利博会長、静岡県看護協会 渡邊昌子会長、日本診療放射線技師会 富田博信副会長より心のこもったご祝辞をいただきました。

その後、功労者表彰に移り、多年にわたり公益社団法人化にご尽力いただいた和田健顧問、延澤秀二様に会長より表彰状の授与を行いました。

最後は、静岡県放射線技師会 牛場克明副会長の挨拶をもって閉式となりました。



第49回放射線技師のためのセミナー 報告

令和5年1月21日
Web開催

令和5年1月21日（土）に「第49回放射線技師のためのセミナー」を静岡県放射線技師会事務局にてWeb開催致しました。

昨今、日本各地で自然災害が発生しており、静岡県内でも昨年の台風15号の影響により大規模停電や断水等発生し、多くの施設や会員の皆様におかれましても苦しい時間を過ごされた方も多いかと思います。また、南海トラフ地震や原子力災害にも十分な備えが必要です。今回は「災害対策」をテーマに、災害発生時の運用や課題などを共有し、今後の取り組みに役立てて頂ければと思います企画致しました。

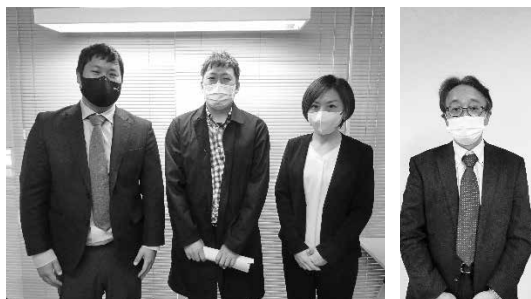
企業講演では、株式会社大林製作所とアンフォースレイセイフ株式会社の2社よりご講演頂きました。大林製作所からは、オールラウンダー軽量ポータブルX線撮影装置「Comfy」をご紹介頂きました。病棟だけではなく介護施設や在宅診療など活躍の場は広く、災害発生時の撮影装置としても活用できる装置でした。アンフォースレイセイフからは、GM計数管式サーベイメータと半導体式サーベイメータのハイブリッド式である「RaySafe452」をご紹介頂きました。片手での操作や三脚に固定しての操作が可能であり、PCと接続することで自動的に測定値を記録することができ、スクリーニングだけではなく機器の線量測定にも活用できるとても有用な線量計でした。

会員発表では、各施設における災害対策の取り組みと経験について3施設の会員よりご発表頂きました。中東遠総合医療センターの黒田紗弓会員からは、実際に管理区域周辺で発生した火災についての対応と連絡システムの課題、緊急被ばく医療に備えた訓練についてご報告頂きました。静岡市立清水病院の大瀧篤志会員からは、昨年の台風15号

によって静岡市清水区内で発生した断水被害について、病院の災害対策本部の対応と給水、院内計画断水についてご報告頂きました。国際医療福祉大学熱海病院の秋津賢太会員からは、2021年に発生した熱海土石流災害における病院の対応とDMAT隊員としての活動について、放射線室内での研修会についてご報告頂きました。3名の会員の発表を通して日頃の備えや訓練、災害発生時の記録、そして振り返りの重要性を学びました。

特別講演では、富士宮市立病院の深澤英史会員より「施設におけるDMAT隊員としての経験と静岡県における南海トラフ地震と原子力災害への備え」をテーマにご講演頂きました。DMAT隊員としての活動では、地域住民への啓発活動として市民によるトリアージの出前講座があり、住民同士の共助への支援の大切さを学びました。静放技としては、原子力災害時のスクリーニングや被ばく相談に対応すべく啓発活動の継続の必要性和人員確保の課題を確認しました。

本セミナーは38名（静放技会員29名、その他11名）の方にご参加頂きました。ご参加・ご講演頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。今後も皆様の業務の一助となるようなセミナーを開催していきたいと思っています。



管理士部会 千葉和宏

第63回東海四県診療放射線技師学術大会 報告

2023年2月11日(土・祝)

アクトシティ浜松コンgresセンター (浜松)

第63回東海四県診療放射線技師学術大会が、令和5年2月11日(土・祝)、浜松市「アクトシティ浜松コンgresセンター」において開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、昨年までは、WEBでの配信開催となりましたが、今回は会場型開催となりました。本大会は4年ぶりに本県での開催となり、当会が主催となり、準備を進めて参りました。久しぶりの会場型での開催ということもあり、会場には多くの参加者が集まり、ロビーでは久しぶりの再会を喜ぶ会員の姿も見受けられました。会場ロビーでは、協賛企業の展示も行われ、活気のある大会となりました。参加者は156名(会員:148名、非会員8名・内学生1名)で、県内会員108名、県外会員より40名来場いただきました。



会員発表4演題、ランチョンセミナー、教育講演が開催され、シンポジウムでは大会テーマである「肝臓疾患に迫る画像診断」について、シンポジスト4名が発表後、ディスカッションが行われました。

教育講演では浜松医科大学放射線診断学講座教授 五島 聡先生をお迎えし、「肝臓MRIの再考」というテーマで講演されました。講演では日本医学放射線学会が編集する「画像診断ガイドライン2021」に記載されている内容を中心に紹介がなされ、肝臓MRIの役割や活用法、撮像におけるポイ

ント、画像診断医が知りたい情報について解説をいただきました。肝臓疾患の診断における造影MRI検査の診断能の高さについてあらためて理解を深めることができました。また、先生の非常に熱心に講演をされる姿に、聴講する会員が引き込まれている姿を見ることもでき、大変勉強となる時間を過ごすことができました。



東海四県の会長会議も行われ、来年実施の本大会の確認、各県の状況について情報共有が行われました。最後に次回当番県となります愛知県診療放射線技師会 水口 仁会長より来年の開催について多くの方の参加が呼びかけられておりました。

本大会は全国学会とは違い、地元で現場の最前線で活躍されている会員、先生方の声を間近で聴くことができる数少ない機会でもあります。本大会での発表の方たちはとても素晴らしい講演の内容ですぐにでも活用できる、生の情報を収集することができました。来年の愛知での開催では、またみなさんとお会いし、情報交換ができることを楽しみにしております。

その他のセッションについては、座長集約をいただいております。どうぞ、ご一読いただけましたら幸いです。

副会長(西部) 小林秀行

座長集約

☆会員発表

テーマ：医療放射線の安全利用について

静岡県立総合病院 平井 健太

本大会の会員発表のテーマは「医療放射線の安全利用」についてであった。CT、核医学、血管撮影、安全利用の教育に関して4名の会員から発表があった。高井会員はCT撮影に関して放射線線量管理システムを用いて線量過多症例を後ろ向きに見直し、放射線科医師と協議の元、撮影プロトコル出力線量設定の編集を実施していた。山田会員は核医学に関して岐阜県の核医学検査機器保有施設へアンケート調査を実施し、核医学検査の実施記録方法や、放射線被ばく線量管理などについての情報を集約した。井上会員は血管撮影に関して手技ごとの出力線量を解析し、その原因考察を実施していた。堤会員からは放射線過剰被ばく等の有害事象に該当するインシデント報告を抽出し集計を行った結果、「検査実施の誤り」に分類される事例が半数以上を占めるとのことであった。

線量記録及び管理の方法は施設により様々である。本発表がより最適な方法を探索するための一助となれば幸いである。



☆ランチョンセミナー

造影MRIの定量解析

磐田市立総合病院 八重樫 拓

ランチョンセミナーでは、バイエル薬品株式会社 シニア サイエнтиフィック スペシャリストの水内宣夫先生をお招きし、「造影MRIの定量評価」と題し講演を頂きました。講演ではまずMRI検査装置開発の歴史、定量的イメージングバイオマーカーの実用性を向上させるQIBAについて解説していただきました。次にT1値、T2値においてGd造影剤がコントラストにどのような影響を与えているか、Gd造影剤を用いた検査において一定の定量評価を得られるDSC、DCE、K-trans、Permeabilityなど臨床画像を提示してわかりやすく解説していただきました。

最後にT1 map、T2 mapを用いた膝関節軟骨や心筋の評価、肝特異性Gd造影剤（EOB）を用いたT1 mapの肝臓への応用を紹介していただきました。一般的なMRI検査で用いられている画像は強調画像であり、得られた信号は相対値として表示されます。また、多数のパラメータや静磁場強度など多くの条件が混在するMRI画像を定量評価するにはまだまだ課題が多いと思われていますが、本講演を通してMRI検査の定量化への可能性を感じることができました。

シンポジウム

テーマ：肝臓疾患に迫る画像診断

富士市立中央病院 増田 裕司

本シンポジウムはテーマを「肝臓疾患に迫る画像診断」と題して開催されました。

大垣市民病院の山中一輝 会員がCT、磐田市立総合病院の松芳圭吾 会員がMRI、三重県立総合医療センターの安本浩二 会員が超音波、愛知医科大学病院 伊藤ありさ 会員はIVRに関してご発表頂きました。

モダリティごとの基礎的な内容から各施設で

の取り組みや、創意工夫などを実際の症例と交えながらご発表くださり、非常に勉強になりました。

セッション後半では、画像診断領域における最新技術を検査の現場でどう活かすか、そのために技師として意識していることなどに関して各発表者の方からご意見をいただきました。その中で、どの発表者の方も放射線科医師、各診療科の医師としっかりとコミュニケーションをとることが大事だと強調されていました。日々進化する画像診断領域の技術と患者様に直接向き合う医師との間をうまく繋いでいくことが我々技師に求められている重要な業務の一つだと再認識できました。

最後に浜松医科大学の五島教授からご講評を頂き、無事シンポジウムを終えることができました。



第79回超音波部会研修会 めざせ！ Sonographer general ～プライマリーケアでの超音波検査～

Sonogram Support Ray 代表 奥川 令

はじめに

フリーランスで診療放射線技師の仕事をしている奥川です。開業医、診療所を中心に超音波検査を行っています。Sonogram Support rayと言うのは会社名で、税金を支払うに当たり登録した、屋号です。社員は私ひとりの個人事業主です。

病院を辞めてこの仕事を始めたきっかけをお話しします。40代後半になった頃、上司に無能不要の烙印を押され、将来のことを考えていました。その時、フリーランスで浜松をベースに超音波検査を行うA氏、岐阜でフリーランス放射線技師を始めた同級生のN氏など、フリーランスで活躍する技師について興味を持ちました。しかしこの後、放射線技師としては無能の烙印は押されましたが、超音波検査の拡充と後身の育成を院長より命じられ、病院勤務を継続し超音波検査の拡充と後身の育成に励んで参りました。私一人の力だけではありませんが、お陰様で後に超音波科として診療技術部の一つに組織化されました。50代後半になり今一度人生について考えてみました。その時、以前に考えていたプライマリーケアでの超音波検査の仕事への興味がぶり返してきました。そのような折、大垣市民病院のK氏より励ましの言葉を頂き、プライマリーケアでの超音波検査の事業を始めることを決意しました。

プライマリーケアでの超音波検査

プライマリーケア (Primary care) とは、大きな病院での専門医療に対して、普段から何でも診てくれ相談に乗ってくれる身近な医師（主に開業医）による総合的な医療です《国立国語研究所より》。昔の開業医の医師の多くは専門分野の診療

を前面に出して行ってきました。今もその名残は残っていますが、基本は初期の総合診療です。それにプラスで専門分野の診療をするのが現在の開業医の多くです。個人の意見ですが、コロナ禍でプライマリーケアと病院の医療が棲み分けされた事はその一例です。昔の医療は、お腹が痛い時、頭が痛い時など、開業医に行くのも、総合病院に行くのも、個人が選択して、自由に診療を受けることが出来ました。しかし現在の医療は、原則として、総合病院は開業医などの紹介状が無ければ、診てもらえないことになっています。総合病院での医療負担軽減のため、軽傷などの患者さんは開業医や診療所の先生が診てくださいと言うことになっています。但し、救急車で運ばれる場合は別です。

それではプライマリーケアでの診療はどのようなのでしょうか。問診、視診、聴診、触診など基本診察にインフルエンザなどの簡易検査、外注の血液検査、血圧計、心電図などの生理検査、画像診断ではX線撮影検査と超音波検査くらいが基本的な診療となっています。それに加え専門診療をすることで内視鏡検査、簡易CT、MRなどをする施設があります。しかし、画像診断の基本は、X線撮影検査と超音波検査です。X線撮影検査は病院で使われている物と大きな違いはありません。超音波検査はどうでしょう。画像診断装置としては安価で、電源さえあればどこでも使え、患者さんへの侵襲も少なく、プライマリーケアでの医療に持ってこいの検査です。しかし、医師が行うことが多く、その医師が診療の合間に行うことで十分な検査時間が無いこと、医師の超音波検査技術レベルの問題などが挙げられます。さらに、プラ

イマリーケアでの超音波診断装置は安価装置な事が多く、病院で行われている超音波検査に比べ劣っていることは必然です。このような状況下、超音波検査を改善するためには、やはり超音波検査の技師が必要です。この様な必要性を感じつつ、フリーランスの超音波技師として、仕事を始めました。

現在の仕事の内容は、7施設と契約をし、それぞれ、週1、隔週などの間隔で半日の勤務で、超音波検査を集中的に行っています。診療科別では、消化器系3施設、循環器系3施設、救急、脳外科表記1施設で超音波検査を中心に仕事をしています。検査の内容は、どの施設でも腹部、心臓、頸動脈、体表臓器、ほぼ全領域に渡り行っています。消化器系の施設でも心臓の依頼はありますし、循環器系の施設でも腹部の依頼はあります。

超音波検査は、プライマリーケアに於いてこれから益々広がりを見せていくと思います。次にプライマリーケアの超音波検査について各領域に於けるポイントとなる事について、私の考えを綴ります。

*腹部領域で重要なんです！

腹部領域に於いて超音波検査は欠かすことの出来ない検査の一つです。肝機能異常、腎機能異常など血液検査で異常があった時の第1選択検査。腹痛、食欲不振、血尿などの時も行われます。しかし、もっと普段から血液検査と並列で行われるべきと考えられます。図-1はがんセンター調べによる、5年生存率の男女別グラフです。肝胆膵領域に於いて、非常に成績が悪いことが解ります。特に膵臓は深部に位置し、初期は症状がなく、症状が出てきたときは周囲に浸潤し、手遅れになっていることが多いです。肝臓、胆嚢も症状が出にくい臓器で、早期に画像診断で腫瘍を見つける、又は、膵管、胆管などの拡張を指摘し異変を見つけることが重要です。近年、人間ドックなどでの超音波検査が行われることが多くなっています。

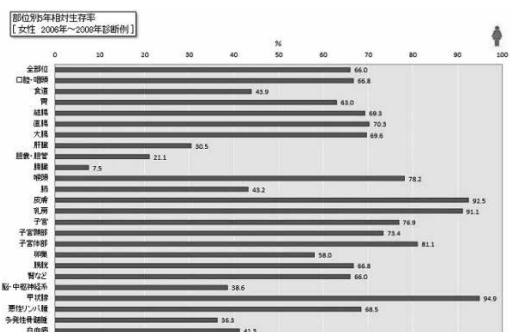
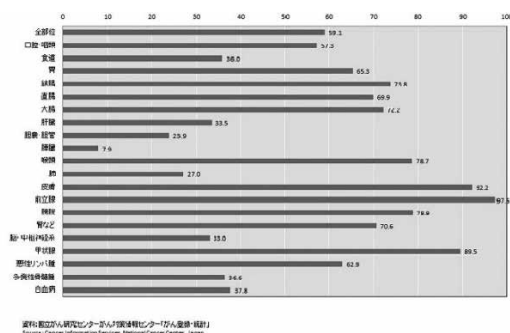


図-1

その一因としてやはり肝胆膵領域の癌の発見を目的にしている意味もあるかもしれません。しかし、人間ドックなど検診に於ける超音波検査だけでは十分ではありません。図-2は検診に於ける超音波検査の年齢別受診者数を占めています。ピークは50代で60代、70代と減少していきます。ところが、癌の罹患年齢はそれに反比例して、60代70代と増加していきます。検診での超音波検査は主に企業検診で行われることが多く、退職すると行

図18 性・年齢階級別受診者数 (平成26年度)

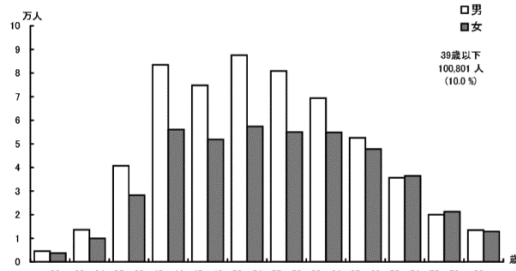


図-2

われなくなることが一因のようです。一方、プライマリーケアに於いては、加齢とともに受診機会が増えています。加齢とともにいろんな疾患に罹患する可能性が高いためです。以上より、プライマリーケアで超音波検査を積極的に行うことで、肝胆膵領域の癌を初期に発見する、又は癌の兆しを指摘する可能性があり、早期癌発見の一役を担う可能性があります。

*** 心臓の超音波検査も重要です！**

『心エコー検査』と言うと、超音波検査を行っている診療放射線技師でも馴染みが少ないかもしれません。しかし、プライマリーケアに於いて心エコー検査も重要です。

心不全という病態は心臓の機能が著しく低下した状態のことですが、高齢化が進む中、心不全になる人が増えており、大きな問題となってきています。心不全は多くの人の死亡原因になっているだけでなく、重症の場合はガンよりも生命予後が良くありません。心不全をきたす、心疾患はいろいろあります。不整脈、高血圧、心筋梗塞、心筋症、弁膜症、先天性疾患などがあります。ここでは、弁膜症について記します。

弁膜症は、心臓の弁の疾患で、狭窄症と閉鎖不全症（逆流症）があります。心臓には弁が4つありますので、8個の病態があります。大動脈弁狭窄（AS）、大動脈弁閉鎖不全（AR）、僧帽弁狭窄（MS）、僧帽弁閉鎖不全（MR）、三尖弁狭窄（TS）、三尖弁閉鎖不全（TR）、肺動脈弁狭窄（PS）、肺動脈弁閉鎖不全（PR）です。心臓弁膜症の推計患者数は現在200～300万人といわれており、年々増加しています。その弁膜症の中でも代表的なものが大動脈弁狭窄症です。65歳以上の2～4%が罹患しており、日本国内の潜在患者数は100万人に達すると推定されています。ところで、弁膜症の診断とは？心エコーの独壇場といって良いかもしれません。テレビのCMでは、お医者さんの聴診で異常を指摘されて検査となるように思われてい

るかもしれませんが、聴診は医師個人の能力に依存するため、問題点が多々あります。聴診が得意な医師がいるのも事実ですが、軽度の弁膜症を指摘するのは困難です。弁膜症の発見から、程度の診断まで心エコーはなくてはならない検査です。大動脈弁狭窄の診断については、心エコー検査で一般的には、弁口面積AVA（ $<1.0\text{cm}^2$ ）、圧格差maxPG（ $\geq 40\text{mmHg}$ ）が重度の目安となり、手術適応が検討されます。心臓弁膜症の手術ですが、従来は開胸手術による弁置換手術が第1選択となっていました。開胸手術は患者さんの年齢や全身状態が考慮され、高齢の方、他の疾患がある方などは敬遠されていました。しかし、近年、IVR（Interventional Radiology）技術の発展に伴い、弁膜症の治療にも行われてきています。TAVI（Transcatheter Aortic Valve Implantation）は、重症の大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療で、2013年10月より公的医療保険で手術可能となりました。開胸することなく、また心臓を止めることなく、鼠径部などの血管からカテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓まで運び、留置する手術です。傷口が小さく、人工心臓を使用しなくて済むことから、体への負担が少なく入院期間も短いのが特長です。TAVIにより、高齢者、体力的な問題がある患者さんにも大動脈弁狭窄症の治療が可能となりました。大動脈弁狭窄症だけでなく、重度僧帽弁閉鎖不全についても、MitraClipと言うカテーテル治療が行われつつあります。

このように、弁膜症については年齢に関係なく治療が出来るようになったわけで、あとは弁膜症の患者さんをいち早く正確に発見することが重要となってきているわけです。そのためには、プライマリーケアでの心エコー検査の普及が有用であると思われます。

弁膜症以外にも心疾患に超音波検査は重要な検査です。最近注目を浴びているのが、収縮能が保たれた心不全（拡張能不全の心不全）=HFpEF（heart failure with preserved ejection fraction）

の診断です。HFpEFは予後不良の心疾患でしたが、近年、有効な薬物療法が確立され、早期発見で予後良好となってきています。HFpEFの診断は超音波検査が重要です。

***頸動脈の検査も重要です。**

プライマリーケアの診療に於いて、生活習慣病は最も関わる疾患と言って良いかもしれません。高血圧、糖尿病、脂質異常など加齢とともに罹患する患者さんが増えていきます。私の周囲の高齢者では、何れかの生活習慣病に罹患する、又は兆しがあるという方が大勢います。特に脂質異常については、最近増えており、30～40代の比較的若い世代から罹患する人が増えています。脂質異常に関わらず、糖尿病などでも動脈硬化の病態把握が重要となります。動脈硬化の診断には、ABI（Ankle-Brachial Index）の他、頸動脈超音波検査も重要です。日本超音波医学会によりますと、生活習慣病に於ける超音波検査は、推奨度A、エビデンスレベルI、無侵襲、簡便に実施でき、低コスト、普遍化が可能な検査とされています。欧米に於いても推奨される検査となっています。頸動脈の検査は、超音波医学会の超音波による頸動脈病変の標準的評価法 2017準じて行っています。また、私の場合、頸動脈検査時は頸動脈だけでなく、甲状腺をはじめ首全体を見るように努力しています。

***その他**

その他。プライマリーケアでの超音波検査では、体表臓器領域では、乳腺、甲状腺、唾液腺、皮下腫瘍、リュウマチ、整形領域での筋損傷、関節嚢胞、筋腫瘍、肋骨骨折などに用いられています。下肢血管領域では 静脈血栓症、静脈瘤などの評価に用いられています。

***まとめ**

プライマリーケアでの超音波検査は、初期の総

合診療において、重要な画像診断（唯一の画像診断）として、病気の存在診断、病気の程度の診断、病気の経過観察、健康管理など多岐に渡り有用性があり、今後さらに広がりが期待できると思われます。私も諸先輩方に習い、可能な限りプライマリーケアでの医療に貢献できれば幸いと思います。

おまけの症例提示。

【はじめに】 コロナ感染の広がりで杞憂される今日、コロナ感染初期、コロナワクチン接種後などに、急性心筋炎罹患の報告が相次いでいます。急性心筋炎は多彩な症状を呈するため診断が困難な疾患の一つである。そのため診断が遅れて死に至ることもある。今回私は以前に経験した、消化器症状を訴えて来院された患者さんについて、超音波検査を起点として診断された急性心筋炎を経験したので報告する。

【症例】 50歳女性。4日前より、発熱嘔吐の症状があった。その後近医を受診し、解熱はしたが、嘔吐は改善されず、また下痢など消化器症状は軽減されなかった。翌日別の消化器医院を受診したが症状は改善されなかった。そこで当院救命センターに受診となった。バイタルは正常範囲であった。腹部所見として、腹部に自発痛を認め、聴診音は腸蠕動音聞こえず、心窩部・左下腹部に圧痛及び反跳痛を認めた。血液検査でCK 1008U/L、GOT 216U/L、GPT 135U/L、LDH 577U/L、 γ GTP 79U/L、クレアチニン 0.92mg/dl、尿酸 7.2mg/dl、尿素窒素 29mg/dl、血糖 139mg/dl、CRP 0.905mg/dl などが高値を示した。他は正常範囲であった。CTにて胆のう壁肥厚と周囲に滲出液の貯留を認めた。そこで急性胆のう炎が疑われ超音波検査となった（図－1）。

CT検査と同様に胆嚢壁肥厚と滲出液の貯留を認めた（図－2）。しかしながら胆嚢腫大、胆石、胆泥などは認めず急性胆嚢炎とは同定できず、他の疾患も考慮しながら検査した。そして肝静脈の拡張と下大静脈の拡張所見に気づいた（図－3）。



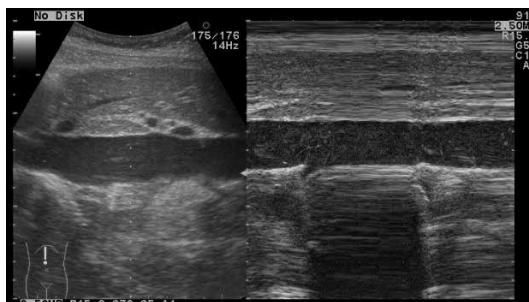
図－１：CT画像 胆嚢壁肥厚

さらに下大静脈の拡張原因を検索するため心臓を走査すると、左室壁運動が低下していることが確認できた（図－４）。すぐに担当医に連絡し心臓超音波検査を行い、左室壁運動低下及び軽度の心嚢液の貯留を認めることから、心筋炎、心膜炎などが疑われる事を報告した。再度CT画像を検討し心嚢水の貯留を確認し、血液検査にてCKが高値であることから心疾患が疑われ、心臓カテーテル検査となった。心臓カテーテル検査時に心筋組織を採取し、心筋炎の診断となった。

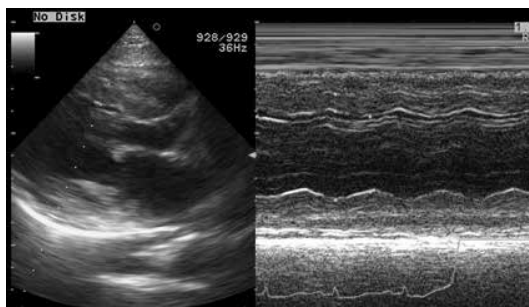
【まとめ】私は、以前に消化器疾患の症状を呈する急性心筋炎の症例を経験した。そして急性心筋炎は様々な症状を呈することを改めて理解した。急性心筋炎以外の心疾患についても、腹部症状を呈することが報告されており、急性腹症の超音波検査時には、心疾患も念頭に置いて検査することも重要であると思われた。



図－２：US画像 胆嚢壁肥厚



図－３：US画像 下大静脈拡張



図－４：US画像 左室壁運動低下EF 0.32

*さらに余談ですが。

私は技師会に於いて、以前教育委員を任命されており、超音波検査の教育に於いても些かの見識を拝していると思っております。

超音波検査に於いての教育は個人の研鑽はもちろんですが、教育の環境も重要です。環境要因の一つが勉強会です。施設内の勉強会については施設個々の物があると思います。私は施設外の勉強会への参加を推奨します。まずは勉強会に出席し、自分の知らないことを学ぶ、珍しい症例の疑似体験、自分の技術レベルを確認など参加する事は重要です。次に勉強会で発表をして、自分の技術に自信を持つ。そして、勉強会で講義などして、技術を人に伝えることで、更なる技術の研鑽になります。この勉強会ですが、静岡県は超音波検査を勉強する上で、恵まれた環境にあります。東に東京、西に名古屋がある、地理的な要因もありますが、私が働く静岡には、Shizuoka Sonographers Communityと言う静岡市を中心とした地域の勉強会があります。更に、県放射線技師会超音波部

会、静岡超音波研究会（県内対象）、静岡心エコーセミナーなど静岡県単位の勉強会があります。更に、その上（中部地域）には、東海超音波研究会、超音波医学会、超音波検査学会の地方会などがあり、段階的に勉強会をする環境が充実しています。奮って参加して、自己研鑽をしてください。特に私どもが代表しております静岡超音波研究会への参加をお願いします。今はコロナ禍で開催が出来ない状態ですが、コロナ感染が落ち着いた暁には、再開致しますので、是非参加してください。静岡県の超音波検査レベルの向上の為に一緒に頑張りましょう！

第79回超音波部会研修会

超音波検査に役立てよう！救急撮影認定技師の視点

富士宮市立病院 嶋崎 龍洋



今回超音波部会より「救急」というお題をいただき、超音波検査に携わっていない自分としてどんなお話ができるか正直戸惑いましたが、救急撮影認定技師の認定取得に際して体験した「視点」の変化がフィットすると思ってお引き受けいたしました。

救急撮影認定技師は、救急撮影認定機構が認定する認定であり機構は2010年に発足しています。私は、第1期認定ですので、既に12年の経過があります。12年前の衝撃が今の仕事への姿勢に与えている影響は大きく、きっかけは救急ですがそれ以外の業務にも応用でき昨年の法改正後に認められた業務にも反映されており、我々診療放射線技師に求められている「スキル」ですので、共有させていただきます。

最初に、救急撮影認定機構の定める定款より、救急撮影認定技師の役割をfig 1に抜粋しました。ある言葉を隠していますが、いかがでしょうか？いずれも我々が通常行っている業務そのものです。隠れている言葉は、「救急診療」です。では、通常診療と救急診療ではどんな違いがあるのでしょうか？

災害の研修では、fig 2を用いて災害と救急の違いが説明されますが、通常診療と救急診療でもfig 3の様な危うい状況に容易に陥ります。夜間帯には、不慣れな装置を用いて検査をすることは少なくないでしょう。そこに対して患者さんは紹介状を持たない初診であり、情報が圧倒的に少ない事も珍しくないでしょう。

(定義)

救急撮影認定技師とは、本機構が実施する認定試験に合格し、所定の講習および実習を済ませ、手続きを終了した者とする。

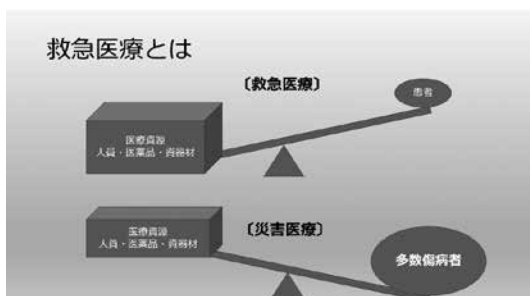
2 救急撮影認定技師を継続するために、本機構が定めた更新手続きを済ませなければならない。

(役割)

第7条 救急撮影認定技師の役割は次のとおりである。

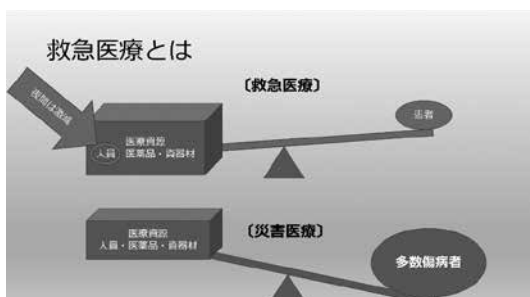
- (1) において、各種画像検査を適切に実施すること
- (2) を行うチームの中で、放射線診療の専門的な知識と技術を高め普及し、円滑に業務が遂行されるように努めること
- (3) における放射線診療の安全を確保し実施すること
- (4) において、科学的根拠に基づく放射線診療のあり方を理解し、画像情報を提供すること
- (5) に用いる医療情報を正しく管理し、運用することが出来ること
- (6) における画像診断機器、および関連器具等の品質を保証し管理を行うこと
- (7) 各種の感染や中毒など、 の危険性を理解し安全な診療を担保できること
- (8) その他

〈fig 1〉



(fig 2)

少し話を戻しまして、救急撮影認定技師になるには、試験に合格した後に、救急外来の実習があります。これは他の認定と大きく異なる点だと思います。その理由もfig 3に関わっています。



(fig 3)

実習では、放射線診療よりも救急診療に重きが置かれます。医師・看護師の情報収集方法やカンファレンスへの同席により他職種連携を学びます。その中で、画像検査に求められている事や画像検査で得られた情報がどのように使われているかはもちろんですが、他職種が求めている事や他職種の視点（考え方）を知ることができます。そこで、重要と感じたキーワードが「共通言語」と「患者観察」です。共通言語とは、医療の場では専門用語や略語が飛び交います、ワンチームで診療するには言葉が理解できないと同じ方向を向くことができないことは容易に想像できると思います。ですので、相手の使う言葉は覚えなくてはいけませんし、こちらの説明場面は通じる言葉に言い換える事も重要です。では、患者観察はというと、初対面の患者さんから情報を集める手段に問診がある

かと思いますが、問診の取れない方も少なくないです。そこで、生体モニターの数値だけでなく、呼吸状態や皮膚に触れた感触など、他にもJCS・GCSといったスケーリングを行います。

救急撮影認定機構では、山田らによってワーキンググループにて「CTSS」というスケーリングが発表されました。スケーリングの方法は、fig 4・fig 5に示します。

CT検査において脳卒中を予測する方法ですが、まさに患者観察により評価を行います。通常業務を逸脱することなく、視点を変えるだけで行えることが秀逸な点です。私も何度も助けられました。是非、一度実践してみてください。こちらは、2019年に臨床救急医学会において論文化されています。

CTSSフローチャート

①名前・生年月日(症状)を聞く

- ・正確に答えられるか、質問を理解しているか。
- ・構音障害が無い(しゃべりづらそうではないか)(Speech)を聞くだけではなく、顔面の左右差(口角の下垂等)(Face)も評価する。

②ポジショニング

- ・レーザーが目に入らないよう目を閉じてもらい、顔の表情から左右差(Face)を評価する。
- ・同時に共同偏視などがないかのチェックを行う。
- ・安全帯を巻く際に指示をして両手を患者自身でお腹の上ののせてもらい、上肢(Arm)の麻痺や左右差を評価する。

(fig 4)

CTSSチェック項目

- ・顔面の下垂(Face)・・・話した時の口の動き、目を閉じたときの左右差
正常・・・両側が等しく動く
異常・・・片側がもう一方のように動かない
- ・上肢の動揺(Arm)・・・お腹の上に両腕を乗せてもらうように指示
正常・・・左右とも同じように挙がる。または左右とも挙がらない
異常・・・片方が挙がらないか、もう一方と比べてふらふらと挙がるもしくは下がる
- ・言語の異常(Speech)・・・名前、生年月日を答えてもらう。構音障害も評価
正常・・・正しい言葉を明確に話す
異常・・・不明瞭な言葉、間違った言葉、またはまったく話せない
- ・CTSSにおけるその他の所見
 - ・共同偏視
 - ・失語・・・運動性失語(ブローカー野)、感覚性失語(ウェルニッケ野)
 - ・半盲

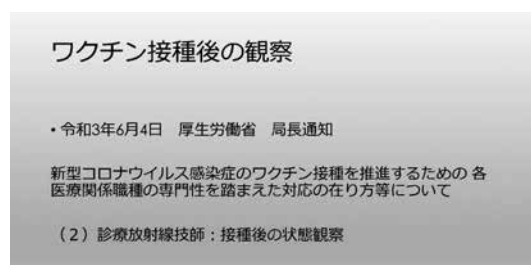
(fig 5)



(fig 6)

では次に、急変時の対応についてお話しします。急変時対応と言うと、何を思い浮かべますか？fig 6の左のポスターの様にCPR（胸骨圧迫）でしょうか。丁度今年アナフィラキシーガイドライン2022が発表されましたので、アナフィラキシー管理のページを見てみるとCPRは最後になっています。救急撮影認定技師実習では、もちろん①番から行います。特に③番の患者観察が重要となり、呼吸状態・皮膚症状などから状況を把握し治療へ結びつけCPRの必要な状況を避けなければならないからです。つまり、早く対処できればCPRは、必要なくなるのです。しかし、CPRが必要な場面はどうしても避けられないのが医療ですので、2015年の法改正により養成校でもCPRを履修するようになり既卒者も2015統一講習会により必修スキルとなりました。そして、昨年6月に厚生労働省局長通知としてfig 7に抜粋しましたが、COVID19の蔓延に伴い行われているワクチン接種において、患者観察が認められました。これは、造影剤を使った検査において行っている患者観察が業務と認められただけでなく、ガイドラインに沿って早期の症状認知と医師・看護師と連携した治療が出来ると認められた事に他ならないと言えます。まさに救急撮影認定技師実習の実践が、通常業務となっ

たと言えるでしょう。また、昨年の法改正により、訪問超音波検査が診療放射線技師に認められました。これは、医師の指示を受けて在宅療養している患者さんの自宅へ訪問し検査を行うというものです。災害時には、避難所へエコノミークラス症候群のスクリーニングのために下肢静脈超音波検査に訪問する取り組みもあります。医師・看護師の居ない現場で検査を行うには、患者観察は必須スキルではないでしょうか。



(fig 7)

最後に、救急撮影認定機構の住田らのワーキンググループ活動「RtARS」を、紹介させていただきます。RtARSは、ラースと読みます。RtARSは、富士市立中央病院の田中医師により構築された看護師向け心停止回避講習「INARS」を基に、診療放射線技師向けに改編した心停止回避＝患者観察スキルを強化する講習会です。この講習会は、

対面実習形式ですので現在自粛していますが、住田氏の講演は各地で行われていますので機会がありましたら聴いてみてください。

まとめ

救急撮影認定技師の視点としてお話させていただきましたが、既に実践されている方も多いと思います。日々進歩する医療現場の中で、告示研修のように我々に求められる事も変化しています。思い立ったその時が、ブラッシュアップのタイミングです。このお話が、皆さんのタイミングになれば幸いです。ありがとうございました。

第79回超音波部会研修会

頸部腫瘍の一例

富士宮市立病院 玉田 宏一

【症例】 38歳、女性。

【主訴】 頸部の違和感。

【現病歴】 数年前から体調が悪い時に頸部の違和感を自覚。20XX年6月17日に開業医を受診され、本人の希望により甲状腺エコーを実施。甲状腺左葉の腫瘍を認めたため、6月23日に当院耳鼻科紹介受診となり甲状腺エコーが依頼された。

【既往歴】 特記すべき既往歴なし。

【検査データ】 甲状腺機能は正常。

【超音波所見】 甲状腺左葉背側に、約19×16×7mmの形状整、境界明瞭平滑、内部に高エコーと低エコーが混在する腫瘍を認めた。高エコーの背側はやや不明瞭に描出された。血流は認められなかった。今回の超音波検査では、甲状腺外の腫瘍のように描出された。

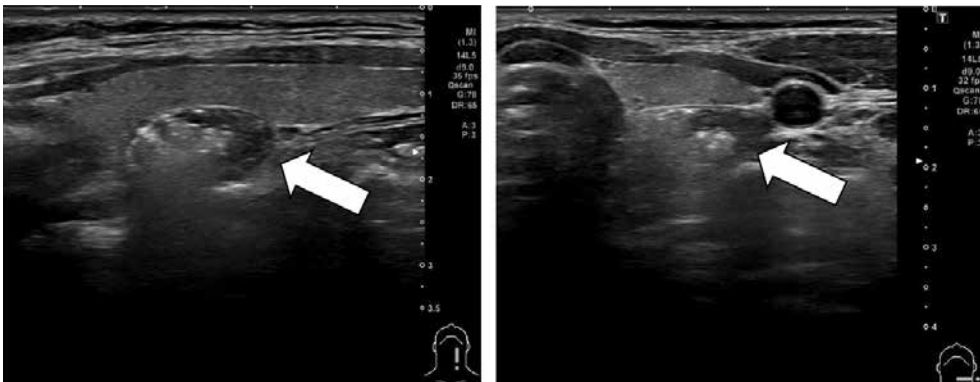
【CT所見】 甲状腺左葉背側に10mmの腫瘍像を認める。内部には軟部構造やair像が混在しており、憩室等が考えやすい所見である。

【食道造影所見】 食道左側に突出する囊状構造を認め、バリウムの流入を認める。

【診断】 咽頭食道憩室。

【まとめ】 今回、初めて咽頭食道憩室の症例を経験した。稀な疾患であり、甲状腺腫瘍と間違えやすい疾患であるが、一度経験すれば鑑別に挙げることができる疾患であると考え。超音波検査では食道との連続性の観察が重要であると考え。

【超音波画像】



【CT画像】



【食道造影画像】



診断に苦慮した乳腺腫瘍の一例

菊川市立総合病院 辻村 唯

【症例】 28歳、女性

【主訴】 検診異常

【現病歴】 2021.11.11当院検診の乳腺USにて右1時半方向に低エコー腫瘤を指摘された。

【既往歴】 特記すべき既往歴なし

【超音波所見】 精査時US画像にて、右一時半方向に充実性、形状不整形、内部エコー低エコー均一、境界不明瞭、後方エコー減衰、縦横比が1.22の腫瘤を認める。周囲にスピキュラ様の構築の乱れを伴っており、US上は悪性を疑う。境界断裂やHaloは認められなかった。

【乳腺所見】 MMGでは乳房構成が極めて高濃度であり、はっきりとした腫瘤像は指摘できないため、健診USから位置を推測し、右U領域とO領域にFADを認めるとし、カテゴリ3とした。

【MRI所見】 T1強調画像では所見認めず、T2強調画像では高信号。

造影MRIでは、早期から造影される腫瘤があり、

周囲に結節状造影効果が集簇している。

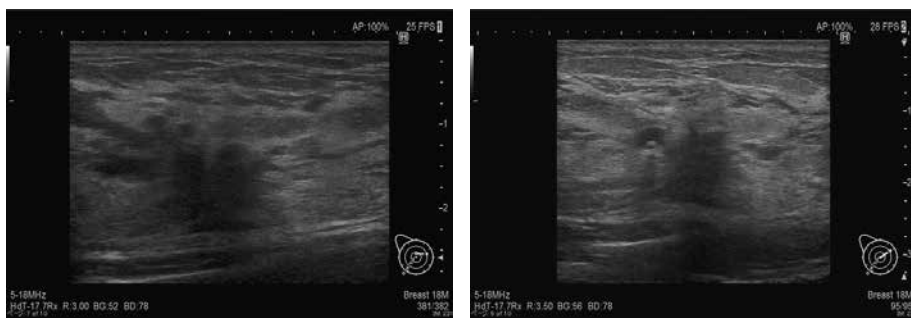
TICは早期相でrapid、遅延相でwashoutのパターンを呈し、浸潤癌成分を有するDCISが疑われた。

【病理診断】 Fibroadenoma（線維腺腫）

【まとめ】

US・MRIで悪性を疑う所見を認めたが、病理診断では、Fibroadenoma（線維腺腫）と診断された。今回の症例では炎症性細胞浸潤による線維化と血管増生で瘢痕化が進み、US・MRIにて悪性所見として画像に描出されていたと考えられる。今回の症例は、USだけでは良悪性の判断は難しいため、生検にて悪性除外ができて良かった症例と考える。考察を通して今後は類似所見に遭遇した際は鑑別診断のひとつに加えることが可能となった。生検でも良悪性の鑑別が困難な症例もあり、現在は念のため半年後USでのフォローとなっている。引き続きサイズアップなどの変化がないか精査に努めたい症例となった。

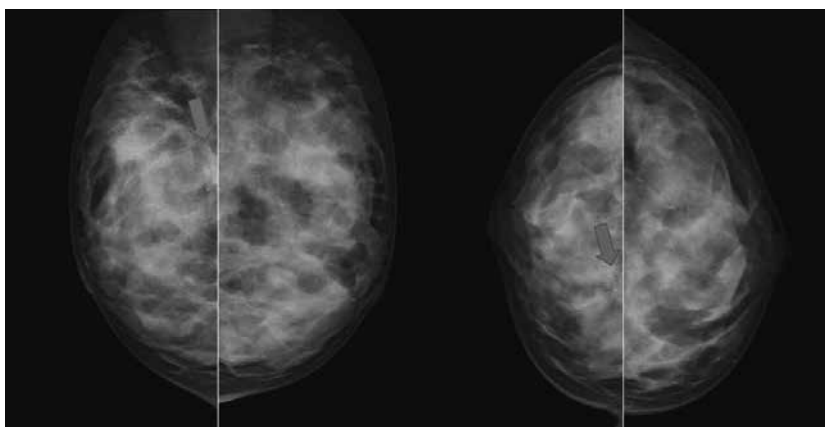
【超音波画像】



【MMG画像】

MLO

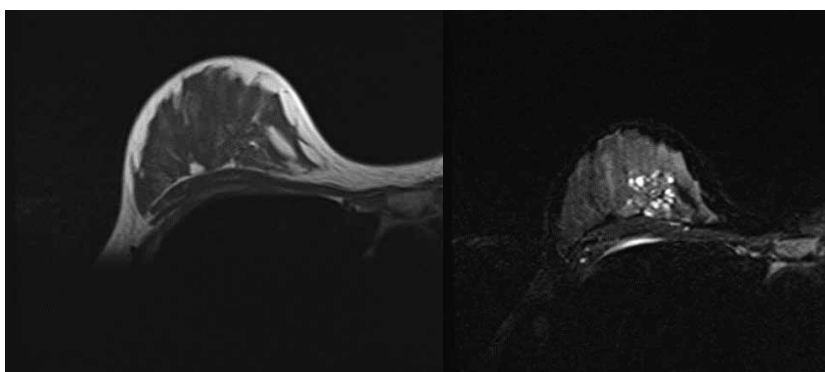
CC



【MRI画像】

T1WI

T2Wifs



心室中隔穿孔の判断に苦慮した一例

静岡済生会総合病院 樋口 翔也

【症例】 86歳 女性

【既往歴】 ASO、F-Fバイパス術後

【主訴】 20XX/7/17 11時頃 心窩部痛・嘔気を自覚し救急外来受診

2～3日前から頸部～肩～背中にかけて筋肉痛の様な痛みを自覚していた。

【現病歴】 心電図、前胸部誘導でST上昇、ERエコーにて前壁運動低下を認め、急性心筋梗塞疑いにて緊急CAGを施行

#2-50% #6-100% (RCAよりcollateral flowあり)

#6-100%を責任病変と判断しPCI施行

7/18 嘔吐繰り返しあり。胸部症状なし。血圧90-100mmHg

心尖部収縮期雑音あり

7/19 肝機能・腎機能悪化。IABPは状態悪く困難。心エコー施行

【超音波所見】

胸骨左縁長軸像にて心中部～心尖部の前壁中隔にアシナジーを認める。EFは68%だが、心基部はやや過収縮な印象。軽度の左室肥大を認める。アシナジー部位の心筋は薄くなっている。心尖部4ch、3ch像にて前壁～前壁中隔の心筋は破綻し、心室瘤を形成している。カラードブラにて心室瘤内に血流信号を認めますが、右室内に流入する血流信号を確認することが出来ない。プローベを回転させるなど断面を変えていき、多方向から観察したがシャントは確認できない。MRはtrivial程。左室の心拍量は2.3L、右室の心拍出量は5.6L、肺体血流量比は2.5となり明らかな異常値を示している。心尖部短軸像をやや崩したビューからカラードブラを表示させたままゆっくりA弁側にブ

ローベを倒していくと右室内に流入するシャント血流を確認することが出来た。右室内の駆出血流手前にあるモザイク血流出口付近を欠損孔と判断した。孔の大きさは6.6mm。

【診断】 前壁MI + 左室瘤形成 + VSP

Trivial MR

軽度左室肥大

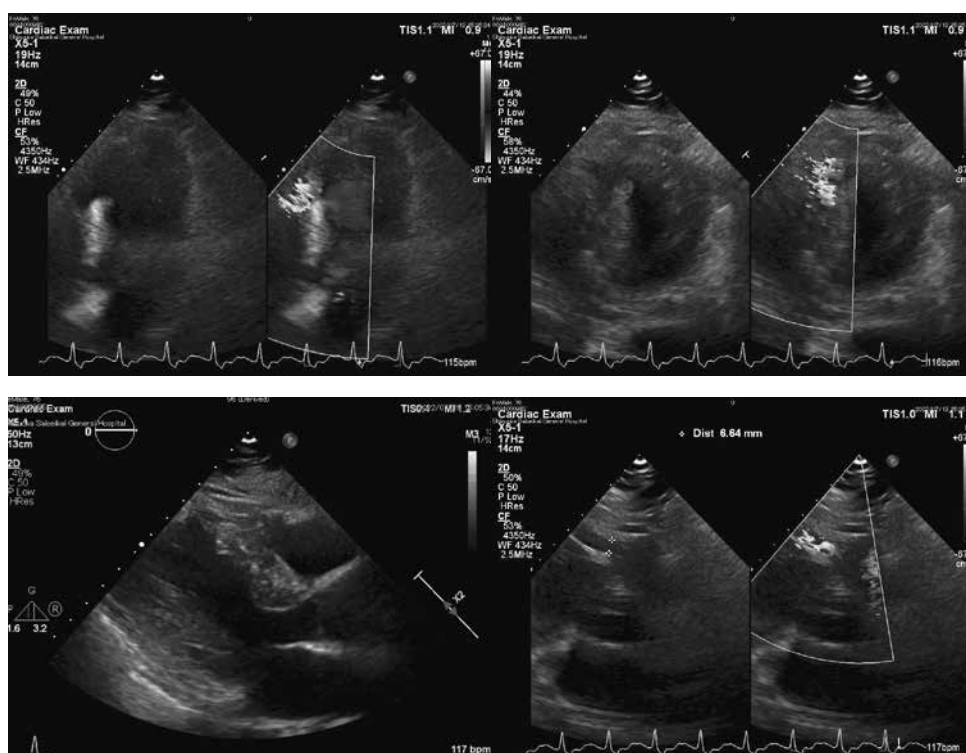
左房拡大傾向

IVC拡大 *呼吸変動あり

【まとめ】

- ・身体所見からVSPが疑われた場合、迅速に経胸壁心エコーを行って診断を確定させる。
- ・断層像で確認が出来るのは欠損孔が大きいもののみである。小さな欠損孔の場合は断層像だけでは確認が難しい。
- ・欠損孔を確認するためにはさまざまな断面で描出を試みる事が重要で、特に傍胸骨左室短軸像および心尖部四腔像で確認できることが多い。ルーチン断面だけしか描出しないような検査をしていると見逃してしまう可能性がある。
- ・穿孔部位に収縮期に生じるモザイク血流を確認する。
- ・心尖部を最強点とする収縮期雑音はVSPとMRの鑑別を要する。
- ・短軸像では断面のレベルを少しずつ変えながらカラードブラで穿孔部位を探す。穿孔部分が断層像で描出できない場合でも、カラードブラで中隔を通過するシャントシグナルを検出することにより診断できる。

【超音波画像】



第79回超音波部会研修会

前頸部腫瘍の一例

島田市立総合医療センター 前島 由佳

【症例】 59歳 女性

【主訴】 前頸部違和感 腫瘍

【現病歴】

喉がイガイガし、前頸部を押さえるとしこりを触知した。数日後近医を受診し、数週間経っても右頸部違和感と、右鎖骨から正中のしこりが消失せず、翌月に単純CTを撮影した。CTで前頸部に結節性病変を指摘され、精査・加療のため当院耳鼻科に紹介された。甲状腺錐体葉の腫瘍や正中頸嚢胞の疑いで、頸部エコーが依頼された。

【検査データ】

甲状腺ホルモンの値は正常、サイログロブリンの値が軽度上昇していた。

【超音波所見】

前頸部正中に境界明瞭粗雑、内部エコーがやや不均質な低エコー腫瘍を認めた。腫瘍辺縁に石灰化があり、内部には血流信号を認めた。甲状腺との連続性は明らかではなかった。甲状腺内には嚢胞性腫瘍を認めたが、充実性腫瘍は認めなかった。両側の中内深頸リンパ節と右鎖骨頭内側のリンパ節に腫大があり、内部エコーは不均質でリンパ節門は描出されなかった。

【前頸部FNA】

甲状腺乳頭癌が検出された。

【CT所見】

喉頭レベルの前頸部左傍正中に長径1.6cm大の境界明瞭な腫瘍を認める。辺縁に石灰化を伴い、内部に造影効果を伴っている。甲状腺との連続性は認めず、甲状舌管由来と考えられる。右中内深頸領域に7mm大、右鎖骨頭内側に接して10×7mmのリンパ節を認める。

【リンパ節FNA】

両側中内深頸リンパ節、右鎖骨頭内側のリンパ節に、甲状腺乳頭癌の転移の所見が認められた。

【考察】

甲状舌管は、甲状腺原基が舌盲孔から下降し、最終的な甲状腺の位置に至る経路に存在し、通常は胎生8～10週で退縮する。しかし甲状舌管内に甲状腺組織が残存することがある。今回の腫瘍は、この残存した甲状腺組織から発生した乳頭癌と考えられる。腫瘍の境界の性状が粗雑で内部エコーが不均質な点や、所属リンパ節の転移がある点は、乳頭癌の特徴と一致している。しかし、腫瘍の辺縁のみに石灰化が見られ、典型的な乳頭癌で見られる微細多発の石灰化や粗大な石灰化とは異なった。超音波画像のみで甲状腺乳頭癌だと判断するのは難しい症例であった。

【診断】

甲状舌管内の甲状腺乳頭癌、頸部リンパ節転移

【まとめ】

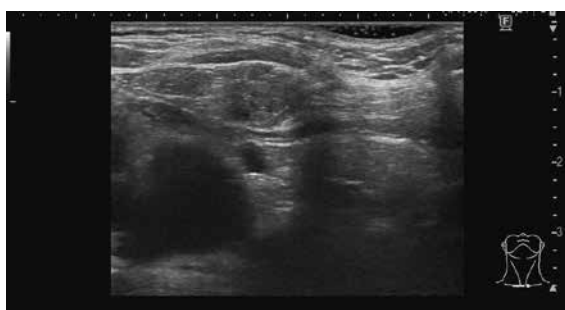
今回は甲状舌管内の乳頭癌の症例を経験した。甲状舌管内には発生学的に甲状腺組織が残存する場合があります、そこに甲状腺癌ができる可能性があることを認識する必要があると感じた。

【超音波画像】

前頸部腫瘍

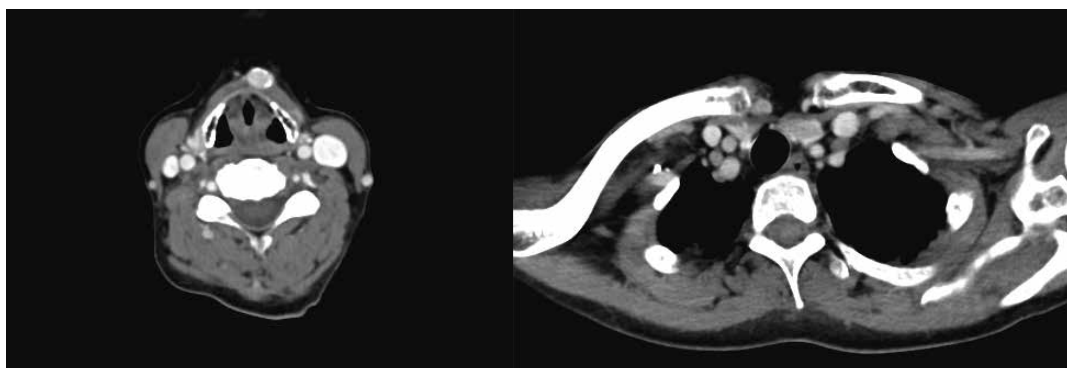


右鎖骨頭内側のリンパ節



【CT画像】

造影CT



第55回アンギオ部会研修会

当院における術中画像支援について

静岡県立総合病院 放射線技術室 小田 幸佑

当院はアンギオ室6室を所有しており、そのうち1室がIVR-CT、2室がハイブリッド手術室です。当院の過去5年の血管撮影検査数の推移は図1に示すグラフの通りです。2019年度～2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で検査数が減少傾向でしたが、2021年度は前年度と比較し増加傾向になり、新型コロナウイルス感染拡大前に戻りつつあります。

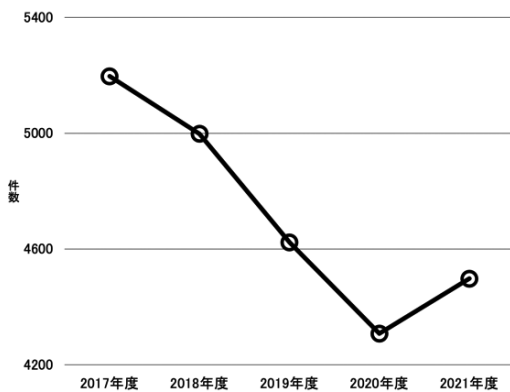


図1. 当院の血管撮影検査数の推移

アンギオにおける診療放射線技師による術中画像支援として、リアルタイムな手技支援、適切な画像の取得と画像処理や前回画像や術前検査の活用等が挙げられます。例えば、循環器内科によるPCI（経皮的冠動脈形成術）では、術前の心臓CTや過去に行ったCAG（冠動脈造影検査）の画像提示を行うことで手技がスムーズにできるようになっています。脳神経外科による検査、治療では3DRA撮影やCBCT撮影を行い、立体的に血管を捉えることで、治療時のWA（ワーキングアングル）の決定や術後評価に役立っています。心臓血管外科が行う胸部大動脈瘤に対するTEVAR（胸

部大動脈ステントグラフト内挿術）や腹部大動脈瘤に対するEVAR（腹部大動脈ステントグラフト内挿術）では、手術直前にCBCTを撮影し、透視画像と術前画像のfusion画像をモニターに提示させています。消化器内科によるTACE（肝動脈化学塞栓療法）ではIVR-CT（術中CT）を用いることで、術中に治療範囲を確認しながらターゲットに選択的もしくは超選択的に抗がん剤や塞栓物質を投与できるよう、術中支援を行っています。今回、緊急症例を含めたIVR-CTを使用し、有用であった臨床症例3例を提示いたします。

症例1は、近医にて膀胱炎に対する腹部超音波検査を施行した際に肝腫瘍が指摘され、加療目的に当院に来院された89才女性の症例です。アンギオで腹腔動脈造影、総肝動脈造影を行いました。腫瘍に明らかな濃染を認めませんでした。しかし総肝動脈、右肝動脈からそれぞれCTHA（肝動脈下造影CT）を施行するとS5に腫瘍を認めることができました。

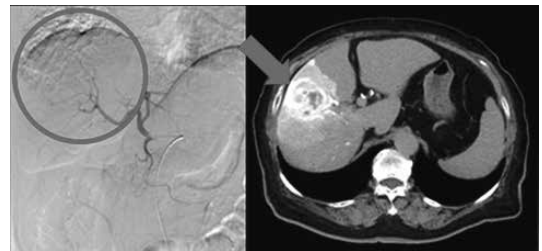


図2. 症例1 左：DSA 右：術中CT

アンギオのみでは肝腫瘍を同定することが出来ませんでした。CTを併用することで腫瘍を同定することができ、腫瘍の栄養血管を選択的にTACEができました。

症例2は、87歳女性の肝硬変の症例です。近医

で定期的検査を行っていましたが、今回超音波検査で肝細胞癌を疑う肝腫瘍が指摘され、当院に加療目的で来院されました。CTAP（経動脈性門脈造影下CT）を行うと、通常肝細胞癌であれば、defectとして描出されるはずの腫瘍像が描出されませんでした。腹腔動脈造影では症例1同様に腫瘍像を同定することが出来ませんでした。腹腔動脈からCTHAを行うと、明らかな腫瘍の濃染は認めず、淡いdefectを認めました。造影検査の結果と背景肝、超音波検査など複合的所見から今回の腫瘍は超早期肝細胞癌の疑いが強く、TACEの適応が認められず、後日RFA（ラジオ波焼灼療法）を施行となりました。

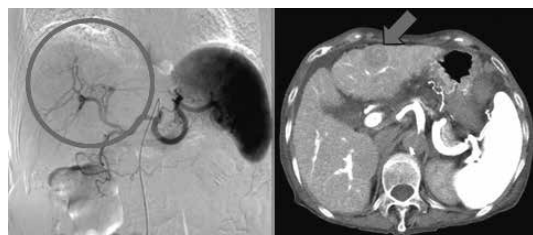


図3. 症例2 左：DSA 右：術中CT

症例3は、87才男性の肝細胞癌疑い腫瘍破裂症例です。肝切除術目的で来院された際に、季肋部痛を訴えたことで肝細胞癌破裂を疑いました。造影CT検査と血液検査では明らかな出血は認めなかったですが、入院中季肋部痛が改善されないため緊急アンギオを行いました。左肝動脈造影を行うと腹腔内へ突出した肝腫瘍の周囲に淡い濃染を認め、出血を疑う所見を得ることが出来ました。

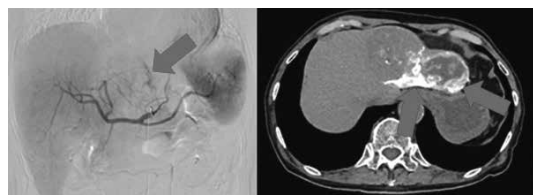


図4. 症例3 左：DSA 右：術中CT

しかしアンギオでは左肝動脈のどの部位から出血しているか同定することができなかったため、

左肝動脈からのCTA（肝動脈下CT）を行いました。最終的にA1、A2から出血していることが分かり、同部位を塞栓しました。この症例では、①患者の容体が安定していること②主訴が季肋部痛のみで、血液データや画像検査では明らかな出血の所見が乏しかったこと③肝切除術予定であるため、肝機能をできる限り温存していきたいという以上3点から緊急症例でしたが、術中CTを併用し、選択的塞栓術を施行した経緯になります。

今回、緊急症例を含めたIVR-CTを使用し有用であった臨床症例を提示いたしました。緊急症例ではあまりIVR-CTを使用することはないと思いますが、今回の症例の様に患者背景や医師の目的を理解し、コミュニケーションをしっかりと行うことで、患者に有益な診断、治療を行うことが出来ると考えます。また、IVR-CTがない施設でも今回のような症例であれば、CBCTで代替が可能であると考えられます。撮影方法、撮影範囲や造影剤の希釈率など違うことも多々ありますが、この場合でも医師と密にコミュニケーションを行うことで解決できるかと思います。当院では今回紹介したIVR-CTだけでなく、各診療科に合わせた術中支援を行っています。これらを有効活用することで、診断や治療の質を向上することで患者のQOL向上に努めています。

参考文献

- 日本IVR学会 IVR手技施行に関する診療体制についての提言 第1版 2017年
- 日本肝臓学会 肝癌診療ガイドライン 2021年度版 2021年
- 金子周一、松井修 Clinical Path Report 別冊-消化器におけるクリニカルパス 医療情報センター 2005一部改変

第55回アンギオ部会研修会

当院における血管造影での創意工夫と緊急アンギオ症例

聖隷浜松病院 河口 昂平

当院での血管撮影で行っている工夫をいくつか紹介する。一つ目は足台、保護アクリルといった備品について紹介する。当院では全てのカテ室で使用しているラージディスプレイ前面に破損防止の為に保護アクリルを付けている。過去にラージディスプレイ破損事例があり、今年度から再発防止のために保護アクリルを導入したが、実際に手技に入っている医師からも、画像の見え方は以前と変わらないとの声を頂いており、手技に影響を与えることなく使用できている。当院では脳血管のカテを行う際には足台を用いて検査している。足台を使用することで手技の時に、患者さんの足やモニタなどのコードが邪魔にならない。また、長いカテをまっすぐにでき、造影剤や生食などが入ったコップを安定して置くことができ手技のやりやすさにつながる。

次に術者被ばく低減の工夫を紹介する。術者被ばく低減の背景として、複雑心奇形の診断カテ、カテーテル治療では透視時間が長くなることがある。実際に、小児循環器科医師の被ばく線量が当院の規定する線量警告の上限を超えてしまうことがあった。小児での心臓カテーテル検査で使用する装置は通常、正面CアームのX線管球は下方向に、側面管球は術者側に配置されている。循環器用血管造影装置において、側面管球を術者の反対側に配置変更できる機能を有している装置である。当院では小児循環器の診断カテにおいて、側面管球を180°反転させ検査している。図1に側面管球反転時の画像を示す。



図1 側面管球反転

当院技師が過去に測定したデータであるが、床からの高さ1.5mの室内散乱線の測定結果を図2に示す。

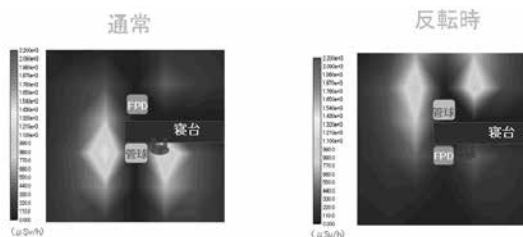


図2 室内散乱線分布図

分布図を見ると分かる通り、管球側で散乱線が多くなっている。従って、側面管球を反転させることで術者の被ばく低減につながるため、小児循環器科カテ時には側面管球を反転させて検査実施している。

次に硬膜動静脈瘻（以下、dAVFと記す）や脳動静脈奇形（以下、AVMと記す）といった脳血管疾患の治療時における、患者被ばく線量低減の工夫について紹介する。dAVFやAVMの治療は撮影回数が増え、透視時間、治療時間も長くなるため、患者さんの被ばく線量が多くなる傾向にある。被ばく線量が多くなると、一過性の脱毛、皮膚の発赤等放射線皮膚障害が発生する可能性が有

るため、撮影プロトコルの見直しを行った。dAVFやAVMはNBCAやオニキスといった液体塞栓物質を用いて治療している。治療の際は撮影時間が長いのが特徴であり、治療する箇所が多い人は何度も撮影を繰り返し、被ばく線量が多くなってしまう。よってNBCAやオニキスを用いる時に使用するプロトコルの見直しを行った。従来のモードでは画像表示のタイムラグを少なくする為に、ノイズ低減処理をしておらず1枚あたりの線量が高くなっていた。フィリップスのアプリと相談し、他の設定はそのままでFPDへの入射線量を低く設定した。またフレームレート2Fr/sで撮影していたところ、フレームレート1Fr/sで撮影するように変更した。撮影プロトコルを変えた事により、患者さんの被ばく量低減が期待できる。やはりフレームレート1Fr/sでは画像がガタガタした印象になるが、医師の了承も頂いており、指示が無い限りはフレームレート1Fr/sで撮影を行っている。dAVFやAVMの治療は治療時間が長くなる傾向にあり、被ばく線量が増加したならば、可能な範囲で医師に声かけし患者被ばく線量の低減に向け取り組んでいきたい。

次に透視で視認性が悪かったデバイスの視認性向上に向けた取り組みを紹介する。透視で視認性が悪かったデバイスとは、AMPLATZERピッコロオクルーダーというデバイスであり、新生児の動脈管開存症の動脈管閉鎖用デバイスである。このデバイスは新生児に用いるため非常に小さく、透視での視認性が非常に悪いのが問題点だった。実際に医師からも見にくいいため見やすくしてほしいとの声があり、キヤノンのアプリケーション、小児循環器医師立ち会いのもと視認性の検証を行った。協議の結果、ワイヤー、血管、デバイスといった高周波数画像のみ強調することでコントラストをさらに強調し、高周波数成分以外の背景である低周波数画像のコントラストを低減することでデバイスの視認性を向上させた。さらに高周波数画像を強調するとノイズも目立つようになる

ため、ノイズ低減処理を強くした。以上の処理によりデバイスの視認性が良くなり、より安全に治療できるようになった。図3に変更前と変更後の画像を示す。

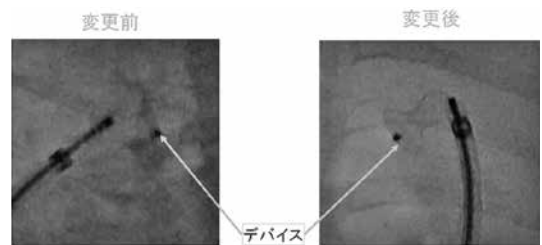


図3 パラメータ変更による視認性の比較

変更前は視認性が悪くノイズに埋もれてしまうような印象だったが、画像処理パラメータ変更後は容易にデバイス全体の視認ができるようになり、より安全に治療が行える様になった。

次にカテ室での取り組みとして、過去の事例を元に重症外傷のIVRシミュレーションを行ったので報告をする。外傷IVR時に、医療機器やルート類が多く、シース挿入までに入室してから30分かかった事例があった。緊急のIVR症例ではスムーズなカテ導入が求められるため、放射線技師、放射線科医師、看護師、臨床工学技師で事例の振り返りとシミュレーションを行った。シミュレーションは実際にあった重症外傷を想定し、患者入室から寝台移動、シース挿入前まで行った。高エネルギー外傷で、左右に胸腔ドレーン挿入中、輸血あり、末梢ルート数本ありといった状態で、実際にストレッチャーから寝台に移動させたが、寝台移動後ルートの整理だけで10分近くかかった。実際にシミュレーションした結果、ルート整理と胸腔ドレーンなどの医療機器の配置が課題と判明した。そこでルートの長さや点滴棒、医療機器の最適位置を話し合いで決め、重症外傷IVR用の配置図を作成した。図4に実際に作成した重症外傷IVR配置図を示す。

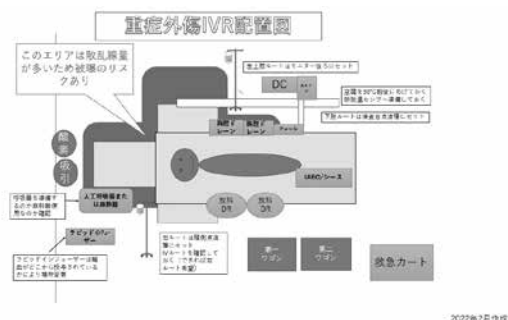


図4 重症外傷IVR配置図

課題として挙げたルートの長さはあらかじめ延長しておく、医療機器の配置は寝台の左側にまとめて配置する事になった。また、今後重症外傷IVR時には図4に示した配置図を室内のラージモニタに表示しておくこととした。今回のシミュレーションを通して、放射線技師一人ではできない事も多く、カテ室では他職種との連携が重要であると改めて分かった。

次に緊急アンギオの症例紹介として、血栓回収療法について当院での流れについて紹介する。急性期の脳梗塞に対して、血栓回収療法を行うが、造影CTまたはMRIで診断がついてから血栓回収を行う。当院ではMRIより造影CTで診断をつけるケースが非常に多く、CTの撮影プロトコルは、頭部単純CT、頭部CTアンギオ、頸から骨盤の動脈相を撮影している。撮影した造影CTから数種類の3D画像を作成しているため順に紹介する。始めに頭のCTアンギオから、脳血管の3D画像

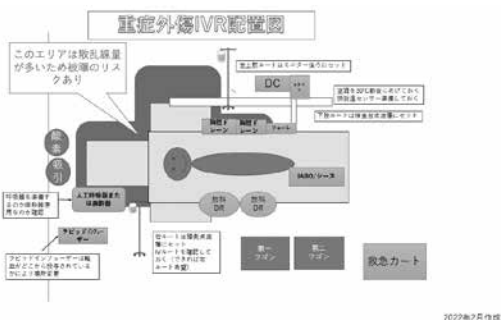


図5 脳血管3D画像

を作成している。左中大脳動脈が閉塞している画像を図5に示すが、3D画像を作成することで視覚的に閉塞部が分かりやすくなる。

また頸から骨盤の動脈相で、大動脈弓部から内頸動脈外頸動脈分岐部までの3D画像を図6に示す。カテーテルで鼠径から頭までアクセスするにあたり、血管の構造が視覚的に分かりやすくなる。3D画像を作成することで血管の蛇行や狭窄の有無、動脈瘤や解離の有無、石灰化の程度などが一目で分かりやすくなる。

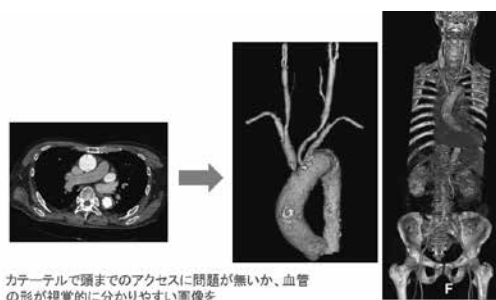


図6 体幹部血管3D画像

左中大脳動脈手前から閉塞していたが、ステントリトリバーで血栓回収し、良好な再開通が得られた。この症例はCT撮影後15分後にカテ室に入室し、ステントリトリバー1回で血栓回収でき、スムーズにいった症例だった。血栓回収は時間との勝負であり、少しでも早く再開通させるために、アクセスの時に役立つ様な3D画像を手技中に医師に提示している。患者さんがカテ室入室し実際に手技が始まる前までに、3D画像を作成しきれるよう血栓回収の時は努力している。

続いて血栓回収になるが、カテ室ではなくハイブリッドオペ室で血栓回収を行った症例があるので紹介する。この症例は2021年にStanford B型大動脈解離の診断で1-debranch TEVAR（胸部大動脈解離ステントグラフト留置）を行っている。翌年の2022年に急性期脳梗塞を発症し、血栓回収を行う形になった。経緯として朝起床後から右麻痺、失語の症状で救急搬送され、すぐに造影CT

を行い左総頸動脈起始部から閉塞していることが判明した。造影CTの3D画像を図7、8に示す。左総頸動脈起始部は閉塞し、途中造影される部分もあったが、左中脳動脈も閉塞していた。

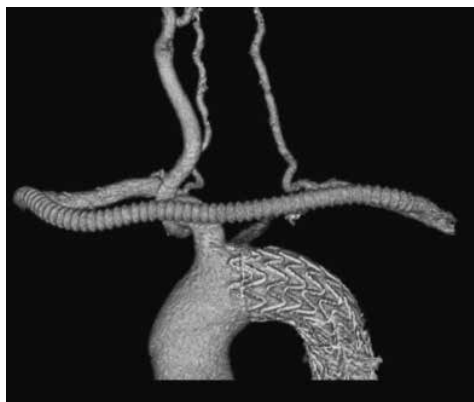


図7 左総頸動脈閉塞（3D画像）

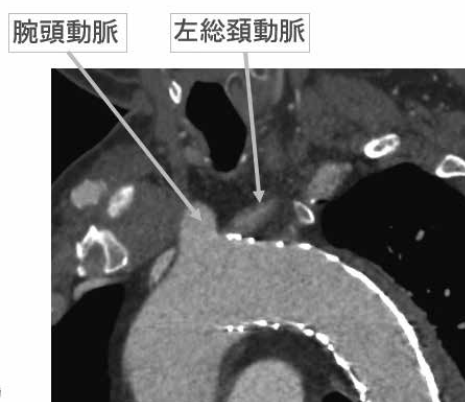


図8 左総頸動脈閉塞（MPR）

しかしTEVAR後のため左総頸動脈にステントグラフトがかかっており、単径部からのアプローチが難しいという大きな問題があった。単径部からのアプローチが困難のため、心臓血管外科のバックアップが必要と判断し、ハイブリッドオペ室で血栓回収を行う事になった。心臓血管外科にて、全身麻酔下で頸動脈をカットダウンし直接穿刺、シース挿入しカテーテルでのアクセスを可能にした。その後脳卒中科にて血栓回収が行われた。

左内頸動脈起始部から閉塞していたが、良好に再開通が得られた。再発防止のために心臓血管外科にて塞栓源となっている左総頸動脈は遮断、人工血管バイパス術施行し手術終了となった。この症例は心臓血管外科と脳卒中科で血栓回収を行った症例であり、ハイブリッドオペ室が活かした症例だった。

最後に緊急でカテを行う時に自分自身が意識していることとして、チーム医療の場であるため患者さんの情報共有など積極的に他職種とコミュニケーションをとることを心がけている。また円滑な検査、治療のために、緊急時は特に先読みを意識し一歩でも早く行動できるよう心がけている。



Work Life Balance 検討委員会 presents

第13回

連載企画

『突撃!! となりの放射線科』

ワークライフバランス検討委員会

川口 彩子

皆さん、こんにちは！ワークライフバランス検討委員 川口です。今回のテーマは「転職しました」です。

中部地区の病院2人の技師さんに寄稿して頂きました。では、どうぞ！

転職するという選択

静岡県立総合病院 中村 元哉

今回、私に与えられたテーマは「転職」についてです。私はこれまで3つの施設を渡り歩いてきました。藤枝市立総合病院には1997年～2010年の13年間、続いて浜松南病院では2010年から2015年の5年間、現在の静岡県立総合病院では2015年からお世話になり8年目を終えようとしています。これから、今まで歩んできた自分のキャリアを振り返りながら筆を進めていこうと思います。

これまで診療放射線技師（以下、放射線技師）として働いてきた中での印象としては、一つの施設で定年まで勤めあげの方が多くのように思います。これは公立の施設になるほど傾向が強くなると思います。放射線技師という職業は安定した職場が多く、取ってその環境を変えようという意志は持ちにくいのかかもしれません。転職する理由としては、自分のスキルアップやキャリアアップ、職場での人間関係、家庭の事情、さらにはヘッドハンティングなんて方も居るかもしれませんが、理由はひとつではなく求人のタイミングも含め複合的に影響し合い決断に至ると思います。放射線技師



の転職の選択としては放射線技師として働く施設（病院）を変える、メーカーで働く、放射線技師という職業そのものから離れるといったものがあります。私は働く施設を変えようという選択をしましたが、私の知る転職を選択した方々は、転職先でも活躍しています。その活躍している方々を思い浮かべると、それぞれがその時々で自分の将来像を考え、今必要なことや将来必要になるであろう事をしっかりと意識して行動していたように思います。

しかし、これまでのキャリアが全て順調とはい

えません。むしろ壁だらけでした。給与などの待遇では就職前に聞いていたことと違うという事がありました。これについては、事前交渉で聞いていたメモ書きなどから契約内容を確認し是正する必要があります。就労条件に関しては、交渉の時点から必ず書面やメモに残し、不明な点は交渉時に確認するなど隙を見せないことが重要です。そして、転職で大きな壁となったのが、自分のやりたい事や得意な事と、転職先で求められる事のギャップです。自分の事を主張する前に、求められることに応えることで実績を上げる必要があります。これを乗り越えるためにはプライドやモチベーション、自分の能力など様々な要素がありとても苦労しました。職場で辛い思いをした時に、気持ちを切り替えるための自分の趣味ややりたいことがなんなのか、わからなくなるほど精神的に追い詰められました。そのような時に、家族みんなで過ごす時間は自分の精神を保つうえでかけがえのないものでした。また、妻が同じ放射線技師なので、仕事の辛さを共有してもらうことができ、とても助けられました。転職することで人間関係がリセットされてしまうと前述しましたが、技師会や学会などの対外活動の積み重ねで転職でリセットされない人間関係の構築や、それぞれの就職先でお世話になってきた方たちや家族との絆の重要性を改めて認識しました。

昨今の情勢から一般企業では賃上げの圧力が大きくなりつつありますが、我々放射線技師の待遇は同様に改善されていくのでしょうか。医師や看護師と比較し、“辞めない職業”として病院経営者に認識されてはいないでしょうか。現場では一流のプレーヤーでもマネージャーには不向き、逆にマネージャーとして大きな能力を持っているという方もいると思います。放射線技師の流動性を高め、それぞれの能力を生かせるポジションで活躍の場が有り、転職をもっと気軽に選択することができれば放射線技師の報酬や労働条件など待遇改善につながるのではないかと思います。



大きな変化の中での転職

静岡済生会総合病院 服部 剛士

私は2021年10月に静岡済生会総合病院の放射線技術科に転職をしました。そんな私にワークライフバランス検討委員会から投稿依頼がやってきて驚いているのですが、今回のテーマが「転職しました」とのことで、いくつかある転職理由の中でワークライフバランス（仕事と生活の調和）に関係することや転職後の生活について書いてみようと思います。

とはいえ、転職活動をしていた頃はワークライフバランスなどという言葉を考えてもいなかったもので、こんなことを考えて転職した技師がいるんだなあくらいに読んでもらえたら嬉しいです。

私が転職をした2021年からこれを書いている2022年は、子供の誕生とそれに伴っての前々から考えていた新居への引っ越しという私生活での大きな変化がありました。その変化を前にして私は転職を考えていました。理由としては、①自宅に近く通勤時間の短い職場で家族と過ごす時間を多く作りたかったこと、②大きな病院に転職をして診療放射線技師としてより多くの経験と積むことができました。そんな思いがあったとはいえ、三十代半ばでの転職を応援してくれた妻には感謝しています。

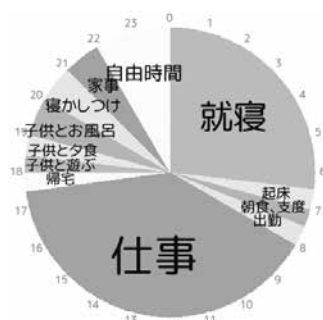
当時のことを妻に改めて聞いてみると、私「転職したいっていう話を聞いた時はどう思った？」妻「少し前からそんな話は聞いてたからビックリ

はしなかったけど、妊娠中だったしコロナ禍だし不安はあったよね。」

私「そうだね。こんな時に？って感じだね。」

でも、済生会の募集が出るって話をした時には行って来なよって言うてくれたでしょ？」

妻「そりゃ、チャンスがあるんだったら応援するよ！」



といった会話になりました。不安がある中で背中を押してくれた妻にはやっぱり感謝でいっぱいです。

私は転職したことにより、通勤時間と平日の就労時間が減ったことで仕事がある日に自宅にいられる時間が1時間半程度多くなりました（夜勤当直の日については例外として）。

横の円グラフはある日の私の1日のスケジュールですが、この多くなった自宅にいる時間を家族と過ごす時間に使えるようになったことが転職前との大きな違いだと思います。平日は子供と過ごす時間が取れない父親も多いと思いますが、夕食前から子供と一緒にいられることは大きなプラスになっています。

夫婦としても、子供が産まれてからは特に夜の過ごし方が変わりました。夕食から子供を寝かしつけるまではテレビを見ることも無くなりましたし、テレビのついていない時間の半分はNHKのEテレになりました。長時間見せるのは良くないとは思いつつも、Eテレの子供番組は神です！子

供が寝てからの自由時間が今までよりも貴重な時間になっています。

ここでもう1度、妻に話を聞いてみました。

私「転職前後で、家での時間の使い方は変わった？」

妻「1番は帰って来る時間が1時間くらい早くなった事じゃない？前は7時前くらいで今は6時前くらいには帰って来れるでしょ。夕飯作る時間に子供と遊んでてもらえると楽だよ。」

私「転職前の帰宅時間だと、夕食から寝かしつけまでの時間がもっと遅くなってたかもね。」

妻「そうだね。もしくは、私が1人で子供にご飯をあげて負担が増えていたかも。夕食の時だけでも大人の手が多いと助かるんだよ。寝かしつけが早くなれば、その後の自由な時間も増えるしね。」

といった感じでした。

世の中には夫が忙しくワンオペの時間が長いママさんが多くいるのは知っていますが、家にいる時間を少しでも増やし子育てや家事の時間を増やせたことは転職をした甲斐があったかなと思います。

子育てを始めて驚くことは、子供の成長はとても速く親が見ていないうちに出来るが増えていることです。約1歳半の娘ですら驚かされているので、これからの成長スピードは予測が出来ません。その成長の瞬間を少しでも多く見られるように子育ての時間を増やすことができるような転職になって良かったと思っています。

また、仕事の面でも今までよりも多くの技師に囲まれた職場で多くの経験を積み、ステップアップに励んでいます。



中村さん、服部さんありがとうございました。お二方に転職エピソードをお話して貰いました。転職は、まさにwork-life balance「仕事と生活の調和」を考える機会です。自分の生活を見直すという事はとても大事なことです。日々、仕事や家庭をこなす事で精一杯になってしまいがちですが、時々立ち止まって自分の一番大切なものは何か？を考える時間を持ちたいものです。今回の記事が、転職を考えている方の参考になったら嬉しいです。

メッセージボード

令和5年2月現在

東部地区

◎経過報告

2022.10.20(木) 19:00～

第3回幹事会 開催

「三島商工会議所」

2022.11.26(土)

第1回 放射線セミナー

第1回 胃がん検診X線撮影従事者講習会

メディメッセージ2022へ参加



2022.11.27(日)

メディメッセージ2022へ参加



2022.12.21(水)

東部地区だより vol.3 発行・配送

2023.1.28(土)

第2回 放射線セミナー

第2回 胃がん検診X線撮影従事者講習会

国際医療福祉大学熱海病院 会議室より

ZoomにてWeb配信

◎行事予定

2023.2.10(金) 19:00～

第4回幹事会 Web開催予定

「国際医療福祉大学熱海病院」

2023.2月中旬

東部地区だより vol. 4 発行予定

2023.3.11(土)

第61回東部地区会通常総会

ハガキ決済による開催予定



◎経過報告（10月後半～2月前半）

2022.11.18(金)

地区会ニュース秋号発行

2023.1.20(金)

第4回中部地区会幹事会開催、3/4の第2回放射線セミナー、胃がん検診X線撮影従事者講習会、令和4年度中部地区会総会について検討。

2023.2.3(金)

地区会ニュース(新春号)発行、総会資料(議案書)郵送

2023.2.17(金)

第5回中部地区会幹事会開催、3月の放射線セミナー胃がん講習会の直前打ち合わせ、総会の打ち合わせ

◎行事予定（4月～7月）

2023.3.4(土) 14時～

令和4年度第2回胃がん検診X線撮影従事者講習会、放射線セミナー、総会開催予定。

第2回胃がん検診X線従事者講習会、第2回放射線セミナー、プログラム

教育講演 「ピロリ陰性時代の胃がん検診のありかた」

焼津市立総合病院 消化器内科

渡邊幸弘 先生

施設発表 「静岡赤十字病院の胃検査数の現状について」

静岡赤十字病院 本村奈穂 技師

メーカー講演 「Aquilion Serveの御紹介」

キヤノンメディカルシステムズ社

清水真太郎 様

施設発表 「Aquilion Serveの使用経験」

焼津市立総合病院 岩倉圭佑 技師

2023.4.28(金)

令和5年第1回幹事会 年間予定について

2023.7

地区会ニュース夏号発行



◎経過報告

- ・社会活動 可美公園まつり(健康ブース)

日時：10月23日(日)

会場：可美公園総合センター

内容：健康ブースにて無料骨密度測定

参加人数：110名

- ・令和4年度西部地区会レクリエーション
スマホアプリを使用したウォーキング大会
「コロナに負けるな!スマホdeウォーキング」
開催期間：10月20日～11月20日
登録者：86名

- ・第1回西部地区会勉強会

日時：12月3日(土) 13:30～16:40

方法：WEBによるライブ配信

参加人数：140名

講演①胃がん従事者講習会 13:30～14:30
「ひと手間でレベルアップする胃部X
線検査」

社会福祉法人 聖隷福祉事業団

聖隷予防検診センター 放射線課 係長

朝比奈真一 先生

講演②放射線セミナー 14:35～15:35
「造影CT技術に関する最近の話題」

名古屋市立大学病院 診療技術部

放射線技術科 主査 大橋一也 先生

講演③西部地区会第1回勉強会

15:40～16:40

「明日からの診療のため我々放射線従
事者にできること～消化管病変は臨
床医にはわかりにくい～」

国立大学法人 浜松医科大学

放射線診断学講座 診療助教

川村謙士 先生

- ・第2回西部地区会幹事会

日時：12月12日(月) 17:30～18:30

方法：WEB会議(MS-Teams)

内容：事業報告

- ・勉強会報告
- ・社会活動報告
- ・レクリエーション報告

- ・西部Tips発行報告

検討事項

- ・次年度会費の変更について
- ・総会について

◎行事予定

- ・第2回西部地区会誌「西部TIPS」1月発行
予定

- ・第2回西部地区会勉強会

日時：3月4日(土) 14:00～16:10

方法：Hybrid

(会場+WEBによるライブ配信予定)

場所：アクト浜松・コンgresセンター

43・44会議室

講演①胃がん従事者講習会14:00～15:00

内容・演者未定

講演②放射線セミナー15:10～16:10

「造影剤のリスクマネジメント」

群馬大学大学院医学研究科

放射線診断核医学

教授 対馬義人 先生

- ・令和4年度西部地区会総会

日時：3月4日(土) 16:30～

場所：アクト浜松・コンgresセンター

43・44会議室

- ・第3回西部地区会誌「西部TIPS」3月発行
予定

本 会 の 歩 み

(令和4年10月1日～令和5年1月31日)

R 4 /10/ 1

中部地区 第1回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会及び放射線セミナー

(静岡県放射線技師会事務所：WEB参加者43名)

①放射線セミナー

・メーカー講演

「バリウム検査における副作用、偶発症について」

カイゲンファーマ株式会社 谷本 遼 様

②胃がん検診エックス線撮影従事者講習会

・「静岡済生会総合病院の胃がん検診業務の現状と課題」

静岡済生会総合病院 阿部 進 会員

・「JCHO桜ヶ丘病院の胃がん検診運用」

JCHO桜ヶ丘病院 望月 尚子 会員

R 4 /10/13

第13回常任理事会(技師会事務所)

高橋 牛場 佐藤 小林 河井 中村 福地
野沢 齋藤 常葉 菅原

協議事項

- ・会費徴収システムの進捗
- ・秋季公開講演会について
- ・新春公開講演会及び10周年記念式典の進捗
- ・東海四県学術大会の進捗
- ・企画申請書・報告書
- ・第3回理事会の内容について
- ・その他

R 4 /10/15

第15回静岡県MRI技術研究会

B-nest静岡市産学交流センター ペガサート

参加者84名

(会員66名 非会員17名 企業1名)

企業講演

・造影剤に関する情報提供

ゲルベ・ジャパン

会員発表

・「小児MRIの検査環境について」

静岡県立こども病院 佐野 恭平 会員

・「備えあれば憂いなし！安全な小児MRI検査を目指して」

富士市立中央病院 鈴木健太郎 会員

教育講演

・「小児中枢神経のMRI ー検査のためのヒントとポイントー」

静岡県立こども病院 放射線科

小山 雅司 先生

R 4 /10/15

令和4年度第5回告示研修(実技研修)

静岡医療科学専門学校 参加者 46名

R 4 /10/16

令和4年度第6回告示研修(実技研修)

静岡医療科学専門学校 参加者 43名

R 4 /10/22

第79回超音波部会研修会

静岡県立総合病院 新棟2階 講義室

参加者 27名

(会員24名 非会員3名)

メーカー講演

キャノンメディカルシステムズ

フィリップスジャパン

・症例報告

富士宮市立病院 玉田 宏一 会員

島田市立総合医療センター 前島 由佳 会員

静岡済生会総合病院 樋口 翔也 会員

菊川市立総合病院 辻村 唯 会員

教育講演

・「超音波検査に活かそう！救急撮影認定技師の視点」

富士宮市立病院 中央放射線科

嶋崎 龍洋 会員

特別講演

- ・「プライマリーケアにおける超音波検査・・
めざすはソノグラファーゼネラル」
Sonogram Support Ray 奥川 令 会員

R 4 /10/23

- 可美公園まつり 参加者 110名
- ・骨密度測定無料体験
 - ・診療放射線技師のお仕事紹介の掲示
 - ・コロナ禍での診療放射線技師の活躍の掲示

R 4 /10/25

- 編集委員会初校
常葉 遠藤 堀 三輪 杉山 福地

R 4 /10/27

- 第14回常任理事会(WEB)

R 4 /11/ 3

- (公社)静岡県放射線技師会
令和 4 年度秋季公開講演会：Hybrid開催
静岡県産業経済会館 大会議室 + Web配信
参加者 76名
(会員60名・非会員 5 名・一般10名・講師 1 名)

①会員発表

- ・「受診前に知ってほしい胃がん検診情報」
聖隷沼津健康診断センター
山崎 洋和 会員
- ・「もっと知ろう乳がん検診」
聖隷三方原病院 中村 陽子 会員
- ・「DWIBSによるがん検診について」
すずかけセントラル病院
佐藤 好将 会員

②公開講演

- ・「静岡県の肺がん検診の実情と胸部 X 線写真
の読影」
聖隷福祉事業団保健事業部地域・企業健診
センター副所長兼 聖隷福祉事業団保健事
業部精度管理センター長
丹羽 宏 先生

R/ 4 /11/ 8

- 編集委員会二校
常葉 遠藤 堀 杉山 福地

R/ 4 /11/10

- 第15回常任理事会(技師会事務所)
高橋 牛場 佐藤 小林 中村 福地 野沢
常葉 菅原

協議事項

- ・新春公開講演会及び10周年記念式典の進捗
- ・東海四県学術大会の進捗
- ・下半期決算報告について
- ・企画申請書、報告書
- ・第 3 回理事会の内容について
- ・その他

R/ 4 /11/12

- 第55回静岡県放射線技師会アンギオ部会研修
会：WEB

参加者26名

(会員23名 県外会員 3 名)

企業講演

- ・「バイエルの軌跡」 バイエル薬品株式会社
- ・「最新のアンギオ技術」
株式会社フィリップス・ジャパン

会員発表

- ・「アンギオ時の工夫と緊急アンギオの症例」
静岡県立総合病院 放射線技術室
小田 幸佑 会員
- 聖隷浜松病院 河口 昂平 会員
- 順天堂大学医学部付属静岡病院
野口 伸弘 会員

特別講演

- ・「脳血管内治療の基礎」
浜松医療センター 脳神経外科医
平松 久弥 先生

R 4 /11/19

- 「令和 4 年度 原子力緊急時災害対策研修会(ZOOM
公開)」
中部電力浜岡原子力発電所 + ZOOM公開
参加者33名 (会場20名 ZOOM13名)

研修内容

- ・ ZOOM公開「GM管取り扱いとスクリーニング」講義と実習
静岡県放射線技師会管理士部会 千葉部会長 勝浦部会員
- ・ ZOOM公開「浜岡原子力発電所の概要と安全性向上対策」
中部電力(株)浜岡地域事務所 総括・広報グループ長
- ・ 浜岡原子力発電所内の見学ツアー（発電所、地震・津波対策状況等）

R 4 /11/24

第16回常任理事会(WEB)

R 4 /11/25

ジャーナルVol.32 No.2 2022(通巻215号)発行
常葉 遠藤 堀 三輪 福地 河井 野沢

R 4 /11/26

第36回乳腺画像部会研修会：WEB

- ・ 講習会的標準ポジショニング(CC)をやさしく解説&コツを伝授！！
- ・ 乳がん検診における「よい画像とは」？
聖隷予防検診センター 諏訪 香 医師

R 4 /11/26

東部地区 第1回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会及び放射線セミナー
(三島商工会議所：WEB参加者57名)

①胃がん検診エックス線撮影従事者講習会

- ・ 『胃がん検診一次読影の再検討』

国際医療福祉大学熱海病院 放射線室
望月 直人 会員

- ・ 『How to 胃・内視鏡』

国際医療福祉大学熱海病院 病院教授
消化器内科部長 坂本 康成 先生

②放射線セミナー

- ・ 「精神科単科での放射線技師」

沼津中央病院 佐々木 巨 会員

- ・ 「外傷撮影で診療放射線技師が知っておくべきこと」

順天堂大学医学部付属静岡病院

内藤 泰匡 会員

- ・ 「外傷時における上肢X線撮影～機能解剖を理解し撮影法の引き出しを増やそう～」

下田メディカルセンター 鈴木 義曜 先生

R 4 /11/26 27

メディメッセージ2022

会場：キラメッセ沼津

- ・ 診療放射線技師、放射線って？
技師の紹介(パネル・動画)放射線(パネル)
- ・ マンモグラフィー検査
マンモ装置(実物大パネル)乳がん検診、検査説明 画像解説
- ・ CT MR検査
検査の説明
MRI装置検査音体験
- ・ 画像ワークステーション
3D画像作成、解説
- ・ 画像診断
臨床画像の読影体験、解説

R 4 /12/ 3

第1回西部地区会勉強会・放射線セミナー・胃がん検診エックス線撮影従事者講習

(アクトシティコンgresセンター：WEB参加者140名)

①胃がん検診エックス線撮影従事者講習会

「ひと手間でレベルアップする胃部X線検査」

社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター 放射線課 係長

朝比奈真一 先生

②放射線セミナー

「造影CT技術に関する最近の話題」

名古屋市立大学病院 診療技術部 放射線技術科 主査 大橋 一也 先生

③地区会勉強会

「明日からの診療のため我々放射線従事者にできること～消化管病変は臨床医にはわかりにくい～」

国立大学法人 浜松医科大学 放射線診断学診療助教 川村 謙士 先生

R 4 /12/ 8

第17回常任理事会

高橋 牛場 佐藤 小林 河井 中村 福地

野沢 斎藤 常葉 菅原

協議事項

- ・新春公開講演会及び10周年記念式典の進捗
- ・東海四県学術大会の進捗
- ・下半期決算報告
- ・第3回理事会の内容について
- ・企画申請書、報告書
- ・その他

R 4 /12/10

第16回医療安全セミナー

静岡県放射線技師会事務所：WEB配信

参加者 42名(会員39名 一般3名)

講演

- ・「知って納得、備えて安心。技師会JARTの保険について」～JARTの保険について実際の事例、想定されている事故、紛争などから学ぶ～

東京海上日動火災保険株式会社 医療・福祉法人部 谷口 凜人 様

- ・「放射線部門における安全文化醸成に向けた取り組み」

聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院 種石 吉記 様

会員発表

- ・「各施設におけるインシデント・アクシデント対策～事例もまじえて～」

- ・バス検診のリスク対策

共立蒲原総合病院 健康診断センター

鈴木 敦 様

- ・静岡済生会総合病院におけるインシデント・アクシデントの現状と対策

静岡済生会総合病院 加藤 隆史 様

R 4 /12/10

令和4年度第7回告示研修(実技研修)

藤枝市立総合病院 2階 講堂

参加者 45名

R 4 /12/11

令和4年度第8回告示研修(実技研修)

藤枝市立総合病院 2階 講堂

参加者 47名

R 4 /12/17

第3回理事会(技師会事務所+WEB)

高橋 牛場 佐藤 小林 中村(真) 河井

福地 野沢 斎藤 常葉 菅原 大倉 和田

山本 大多和 中村(英) 神谷 寺田 廣澤

報告事項

- ・会長報告
- ・副会長報告
- ・常任理事報告
- ・地区選出理事報告
- ・監事報告

協議事項

- ・上半期決算報
- ・新春公開講演会及び10周年記念式典の進捗
- ・県知事表彰推薦者について
- ・東海四県学術大会の進捗
- ・静岡県学術大会テーマについて
- ・NTRT全国X線撮影技術読影研究会について

R 4 /12/22

第18回常任理事会(WEB)

R / 5 / 1 /12

第19回常任理事会

高橋 牛場 佐藤 小林 河井 中村 福地

野沢 斎藤 常葉 菅原

協議事項

- ・新春公開講演及び10周年記念式典
- ・東海四県学術大会の進捗
- ・第26回静岡県放射線技師会学術大会
- ・企画申請書、報告書
- ・次年度事業計画(案)、スケジュール
- ・その他

R 5 / 1 /14

2023新春公開講演会

ホテルグランヒルズ静岡 5F

センチュリールーム

参加者 65名(会員28名 一般37名)

公開講演

「社会の変化における診療放射線技師の変遷と将来像－県民へのメッセージ－」

講師 公益社団法人 静岡県放射線技師会 会長
医療法人弘遠会 すずかけセントラル病院
診療技術部放射線科 課長 高橋 真 会長
座長 静岡県立総合病院 早坂みさを 会員

R 5 / 1 / 14

公益社団法人化10周年記念式典

ホテルグランヒルズ静岡 5F
センチュリールーム

参加者 63名(会員28名 一般35名)

- ・開式の辞
- ・会長挨拶
- ・来賓挨拶
- ・祝電披露
- ・表彰
- ・設立功労者紹介
- ・閉会の辞

R 5 / 1 / 14

教育講演

ホテルグランヒルズ静岡 5Fセンチュリー
参加者 63名(会員28名 一般37名)

「国政活動報告～国会議員唯一の診療放射線技師として～」

講師 講衆議院議員 畦元 将吾 先生
座長 JA静岡厚生連 清水厚生病院
佐藤 正明 会員

R 5 / 1 / 21

第49回放射線技師のためのセミナー

静岡県放射線技師会事務所：WEB参加者38名

- ・企業講演
「災害発生時に活用できる装置・機器について」
株式会社大林製作所
アンフォースレイセイフ株式会社
- ・会員発表
「各施設における災害対策の取り組みと経験」
(火災)中東遠総合医療センター
黒田 紗弓 会員
(断水)静岡市立清水病院 大瀧 篤志 会員
(土砂災害)国際医療福祉大学熱海病院
秋津 賢太 会員

・特別講演

「施設におけるDMAT隊員としての経験と静岡県における南海トラフ地震と原子力災害への備え」

富士宮市立病院 診療技術部長

深澤 英史 先生

R 5 / 1 / 26

第20回常任理事会(WEB)

R 5 / 1 / 28

東部地区 第2回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会及び放射線セミナー

(国際医療福祉大学熱海病院

会議室：WEB参加者39名)

①胃がん検診エックス線撮影従事者講習会

- ・「背景粘膜と胃X線検診のためのカテゴリー分類の紹介」

三島総合病院 中村 洋介 会員

- ・「胃X線検診におけるピロリ感染評価の重要性」

聖隷沼津健康診断センター

山崎 洋和 会員

- ・「これからの胃がん検診」

伊豆保健医療センター 秋山 洋 会員

②放射線セミナー

- ・「被ばく低減への取り組み」

富士宮市立病院 酒井 洋和 会員

- ・「放射線被ばく相談窓口を開設して」

聖隷沼津病院 勝浦 拓也 会員

教育講演

「医療被ばくリスクコミュニケーションの考え方とその実践」

国際医療福祉大学成田病院

放射線科技術部 副部長

五十嵐 隆元 先生

会 員 動 静 (敬称略)

(令和4年9月8日～令和5年1月31日)

【入 会】12名

東部：佐伯 歩 伊豆保健医療センター
 中部：池田 安澄 島田市立総合医療センター
 梶山 晃資 島田市立総合医療センター
 春谷 舜也 静岡赤十字病院
 野村 朋矢 清水厚生病院
 柴田 萌 静岡市立静岡病院
 西部：小澤 明剛 磐田市立総合病院
 細田 友行 磐田市立総合病院
 井沢 彩乃 聖隷三方原病院
 近藤世吏加 聖隷健康診断センター
 清水 卓 浜松医科大学医学部附属病院
 小粥 守 浜松医科大学医学部附属病院

【再入会】0名

【転 入】1名

東部：松崎 翠 聖隷三方原病院
 ← 兵庫県

【転 出】2名

西部：大島 優佑 福岡県
 小貫 琴和 埼玉県

【勤務先移動】10名

東部：杉山 哲一 自宅
 ← 沼津市立病院
 中部：荒川 周平 聖隷健康サポートセンターShizuoka
 ← 聖隷健康診断センター
 西部：高山 雄一 聖隷予防検診センター
 ← 聖隷健康サポートセンターShizuoka
 児玉 博英 自宅
 ← 渡辺整形外科
 児玉 博英 高安整形外科
 ← 自宅
 青木 茂生 聖隷健康診断センター
 ← 聖隷予防検診センター
 山下 俊明 自宅
 ← 聖隷浜松病院

山岡 真二 聖隷予防検診センター
 ← 聖隷浜松病院
 信岡 亮太 聖隷予防検診センター
 ← 聖隷浜松病院
 曾我 彩香 自宅
 ← サカイ脳神経外科

【退 会】10名

東部：山田 隆司
 鈴木 博寿
 中瀬 静登
 高柳 知里
 六分一浄海
 西部：山田聖之介
 宮本 一宏
 斎藤 隆二
 曾我 彩香
 角田 文哉

会員総数	1028名
東部	291名
中部	307名
西部	427名
県外	3名
(令和5年1月31日現在)	

【電 報】5件

三日市憲治 弔電
 竹山 有希 弔電
 市川 篤史 弔電
 伊吹 重敏 弔電

訃 報

中 瀬 静 登 様

令和4年11月16日 ご逝去
 謹んでご冥福をお祈りいたします。



- 10/ 4 大放技会報 No.346 大阪府診療放射線
技師会（9月30日発行）
- 10/ 4 かながわ放射線だより Vol.75 No.3
SEP.2022 300
- 10/ 4 東京放射線 2022年10月号 Vol.69 No.809
- 10/ 4 宮崎県放射線技師会 会誌 2022.09
Vol.111
- 10/11 放射線 やまぐち 2022 Vol.292
- 10/25 埼玉放射線 2022 No.4 埼玉県診療放
射線技会
- 11/ 8 東京放射線 2022年11月号 Vol.69 No.810
- 11/15 大分放射線 第129号 October 2022
- 12/ 1 かながわ放射線だより Vol.75 No.4
Nov.2022 301
- 12/ 5 福島放技ニュース 2022 11月25日号
- 12/ 5 大放技会報 No.347 大阪府診療放射線
技師会（11月30日発行）
- 12/ 5 兵庫県放射線技師会 会誌 2022.12.1
Vol.82-②
- 12/ 5 放射線 やまぐち 2022 Vol.293
- 12/ 7 東京放射線 2022年12月号 Vol.69 No.811
- 12/15 新潟県診療放射線技師会会報 第97号
2022.12.10
- 12/23 福岡県診療放射線技師会 会誌351号
2022.12.15
- 12/27 愛知県診療放射線技師会 会誌Vol.34 2
DEC.2022
- 1/ 4 東京放射線 2023年1月号 Vol.70 No.812
- 1/ 4 北海道放射線技師会 会報 2023年1月
- 1/ 4 京放技ニュース（京都府放射線技師会）
1/2023 通算752号
- 1/11 栃木県診療放射線技師会会誌 2023 No.114
- 1/20 AART会誌 令和5年 第60号 秋田県
診療放射線技師会
- 1/23 富山県診療放射線技師会 会報 Vol.101
2023

令和4年度 第3回 理事会 議事録

1. 開催日時 令和4年12月17日(土)
14:00~17:00
2. 場 所 技師会事務所+WEB会議
3. 出席者 (敬称略)
高橋 真・牛場 克明・佐藤 正明・
小林 秀行・中村 真也・河井 淑裕・
福地 大介・野沢 滋幸・菅原 和仁・
齋藤 忍・常葉 勇介・大多和純一・
中村 英明・神谷 正貴・廣澤 賢一・
寺田 理希・大倉 善郎・
山本 英雄(顧問)・和田 健(顧問)

欠席者

栗田 仁一

1. 会長挨拶

高橋会長

2022年第3回理事会をはじめます。

定款第6章の第34条に従いまして、私が議長を務めさせていただきます。

議事録につきましては、総務庶務の河井理事にお願いをいたします。発言者以外はマイクをオフにしてください。

2. 報告事項

1. 会長報告

はじめに、平成12年4月から平成16年3月の任期中で静岡県放射線技師会の会長職を務められた、中瀬静登様が11月16日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

JART報告

- ・9/16~18学術大会(神戸)ハイブリッドにて開催
- ・新型コロナウイルス ワクチン接種や検体採取の担い手確保等のための方策 別紙参照
- ・ファシリテータ養成講習会(e-learning) 10月3日(月) ファシリテータ養成講習会スタート
- ・「医療機器導入実態調査」説明会のご案内メールにて送信済
- ・レントゲン週間申請書類承認の件
- ・2023年度「本会と都道府県との業務委託契約」の締結
- ・2024年に沖縄にて日放技と技術学会合同各術大会を予定
- ・告示研修実技研修の医師派遣制度変更について、従来方法の医師選任について下記問題が日本医学放射線医学会よりあがっていた。
 - ①日程決定後では医師確保が難しく調整難航
 - ②2ヶ月前の打診で間に合わない
 - ③1ヶ月に複数回の研修計画の対応は難しい(特定の施設に負担)

日本医学放射線学会と日本診療放射線技師会で協議し医師派遣制度について、今後は、告示研修開催地担当者と指導管理責任者(会場に近い日本医学放射線学会の総合修練機関)間で日程調整。そのうえで開催計画を立て、開催計画申請後JARTより日本医学放射線学会へ依頼する。資料参照ください。また使用物品が研修施設に届かないなどの問題が生じている。予め手配し本事務所へ一時的に保管する体制を検討している。

- ・12/3 臨時総会開催 定款・総会議事規定・役員選任規定・役員報酬等並びに費用に関する改訂について

中日本報告

- ・11/26~27CCRTウインクあいち 720名(現地635名、オンデマンドのみ85名)参加
大盛況のうちに会が終了 愛知県の水口会長か

らお礼のメールがありました。11/14～オンデマンド配信

- ・第15回CCRT 福井県 2023/11/25, 26 アオッサ、16回岐阜県、17回三重県
- ・第41回JCRTに福井県が立候補 中日本地域としてバックアップしていく
- ・教育委員会にて 次年度の基礎講習：乳腺 告示研修は10回開催予定会長報告

会長報告

- ・9/10(土) フレッシュヤーズセミナー 藤枝市立総合病院 参加者は9名(同伴1名)
- ・杉山高会員の厚生労働大臣表彰に関し、藤枝市立総合病院からの問合せ
市の広報誌に掲載予定とのこと 功績調書を送付した
- ・静岡県医療政策課からの通知 詳細はメールにて送信済
- 1. 医療法施行規則等の一部を改正する省令の施行に伴う関係通知の改正について(通知)
- 2. 医療法施行規則等の一部を改正する省令の施行に伴う「関係学会等が作成するガイドライン」の周知について(通知)
- 3. 「診療用放射線照射器具を永久的に挿入された患者の退出及び挿入後の線源の取扱いについて」の改正について(通知)
- ・11/26、27開催メディメッセージ参加のお礼が協和医科から届きました。
参加：11/26(土) 約2,000人、11/27(日) 約3,000人 次年度は浜松アクトシティを予定している。西部地区役員の皆様、担当をお願いします。
- ・告示研修 12月10日 45名、11日 47名 藤枝市立総合病院
次回2023年2月25日、26日 静岡県立総合病院
- ・12/10畦元代議士より、記念式典に上川議員と深澤議員をお招きしたいとの申し出があり承諾しました。
- ・12/12 一般の方から、「放射線技師の方は、被

ばくしないのですか？」との問い合わせが事務所にあり、こちらから直接お電話でお話をいたしました。

以上となります。質問がなければ副会長報告へ移ります。

II. 副会長報告

東部(委員会報告)

東部 牛場副会長

2022/11/26,27メディメッセージ2022開催 入場者
26(土) 2000名27(日) 3000名

【委員会報告】

2022/11/19(土) 令和4年度原子力緊急時災害対策研修会開催

会場参加30名 ZOOM参加13名

2022/12/10(土) 第16回医療安全セミナーWeb開催 43名参加

2023/2/18(土) 第7回ワークライフバランス検討委員会研修会Webで開催予定

2023/1/31(火) 静岡県放射線技師会緊急時災害情報連絡訓練を実施予定。

静岡県原防災訓練については2023/1/31図上訓練、2/4実動訓練が実施される。実施にあたり12/12に第一回調整会議が開催され出席しました。本会对し住民の検査要員として3名の派遣依頼があり、災害対策委員より3名を派遣する予定です。例年同時期に本会においても連絡訓練を実施、今年は図上訓練に合わせて実施します。1月上旬には各施設に依頼状を発行する予定です。

中部(会務報告)

中部 佐藤副会長

報告事項はありません。

西部(部会報告)

西部 小林副会長

部会報告(9月～11月)です。

超音波部会

- ・第79回静岡県放射線技師会超音波部会研修会

日時：2022年10月22日(土) 13:30～17:00

場所：静岡県立総合病院 新棟2階 講義室

方法：会場参加型

参加者：会員24名 非会員3名 合計27名

MR I 部会

- ・第15回静岡県MR I 技術研究会

日時：2022年10月15日(土) 14:00～16:15

場所：B-nest 静岡市産学交流センター ペガサート6F プレゼンテーションルーム

方法：ハイブリッド開催

参加者：会員66名 非会員17名 企業1名
合計84名

アンギオ部会

- ・第55回静岡県放射線技師会アンギオ部会研修会

日時：2022年11月12日(土) 14:00～16:30

場所：静岡県放射線技師会事務所

方法：WEB配信

参加者：会員26名(県内23名、県外3名)

乳腺画像部会

- ・第36回乳腺画像部会研修会

日時：2022年11月26日(土) 14:00～15:45

場所：WEB

方法：WEB配信

管理士部会

- ・第49回放射線技師のためのセミナー

(2023/1/21) 準備

- ・原子力緊急時災害対策研修会について

(2022/11/19) 参加

乳腺部会については報告書が上がっていないため
詳細な人数は不明です。

高橋会長

乳腺部会に関してJARTへのポイント申請はどうなっていますか？

庶務会員管理 野沢理事

私の方へは部会から連絡が届いておりJARTへの申請は済んでいます。

高橋会長

では部会に対して報告書を早急に提出するように連絡をお願いします。

続いて常任理事報告へ移ります。

Ⅲ. 常任理事報告

総務 中村理事

活動報告です。5月に開催された学術大会広告料の請求を行い、依頼のあった賛助会員からの納金を確認しました。来年の年賀状を作成し投函しました。新春公開講演について、来賓者などの出席者に対し依頼状などの書類を送付するための準備を進めています。これについては協議事項の場で改めて説明します。

総務庶務 河井理事

公文書発番に対しての実績は示す通りで本年度は08号まで発番しております。PC類の購入実績です。事務所右側のデスクトップPC及びプロジェクター共に老朽化に伴い購入しました。費用はPC¥106,872、プロジェクター¥76,982、上記2点10月5日購入、ケーブル類¥1,180こちらは12月10日購入しております。今後も引き続きTeamsの運用について検討し、よりスムーズにハイブリッドにて理事会が機能していくよう注力していきます。

庶務一般 福地理事

庶務一般からの報告事項は特にありません。会員動静について。

(令和4年8月5日から令和4年12月7日まで)

・新入会申請 19名

杉山 明久(東部) 遠藤 光雄(東部)
大田 実希(東部) 佐伯 歩(東部)
杉山 泰樹(中部) 池田 安澄(中部)
梶山 晃資(中部) 野沢ゆうな(中部)
春谷 舜也(中部) 野村 朋矢(中部)
佐藤 征也(中部) 柴田 萌(中部)
井沢 彩乃(西部) 増田 侑真(西部)
清水 卓(西部) 遠藤世吏加(西部)
鈴木奈央子(西部) 朝比奈克至(西部)
小澤 明剛(西部)

・転入 3名

平 真己人(西部) 片岡 純也(西部)
松崎 翠(西部)

・転出 2名

大島 優佑(西部) 小貫 琴和(西部)

以上24名につきまして、定款第3章第6条に基づき、本理事会での承認をお願いします。

高橋会長

採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：19

(全会一致承認)

庶務会員管理 野沢理事

会員数と今年度の会費納入状況を報告致します。
2年会費未納者について、日放技より会員の自宅に除籍の通知が届きます。未納会費再請求により最終納入期限は令和5年1月31日になります。

年会費2年未納者が8名います。

東部 5名、中部 0名、西部 3名

県外 0名です。

県のみ会員では2年未納者は0名です。

会員数1030名、東部292名、中部307名、西部

428名、県外3名です。

会費は10月の納入分までで未納者は103名です。

会費納入率は90.2%(10月納入分まで)です。

高橋会長

2年未納者の氏名は把握されていますか？

庶務会員管理 野沢理事

把握済みです。

高橋会長

ではその旨を各副会長に連絡してください。

会計 斎藤理事

【活動報告】

- ・9月技師会事務所のPC、プロジェクターの購入
- ・10月会費徴収システム運用開始に伴い会費管理用に新規通帳を作成。各部会研修会参加費のシステム徴収分は振込み、現地徴収分はリストと合わせて部会委員が技師会事務所に届ける、以上の運用を開始している。上半期決算報告については後ほど行います。

常葉 編集理事

- ・経過報告

11/25(金)

Vol.32 No.2 2022(通巻215号) JURNAL 1115部発行

- ・Vol.32 No.3 2023(通巻216号) JURNAL発行に向けた今後の予定

2/14(火)・・・原稿期限

2/21(火)・・・編集委員会(初校)

3/7(火)・・・編集委員会(二校)

3/24(金)・・・発行(発送作業)

- ・Vol.32 No.3 2023(通巻216号) JURNALの目次予定(別紙参照)

原稿寄稿を随時お願いしていきますので、期日までに原稿の作成よろしくお願い致します。

※会告は4月から7月末までに開催されるものについて掲載が必要です。次年度事業計画（案）の作成前につき、会告の掲載は増減しますのでご了承下さい。

広報 菅原理事

【広報】

秋季公開講演に関する活動

- ・ 9/30 web申込フォーム掲載依頼
- ・ 10/3 静岡県、静岡新聞社・静岡放送 後援承諾
- ・ 11/3 秋季公開講演会開催
- ・ 11/14 静岡県、静岡新聞社・静岡放送 後援報告書提出

新春公開講演会に関する活動

- ・ 11/30 後援申請先 疾病対策課→医療政策課に変更の連絡
- ・ 12/5 静岡新聞社・静岡放送 後援承諾

【情報管理委員会】

- ・ 9月 事務所右側デスクトップPCとプロジェクター経年劣化に伴う性能低下確認。総務庶務河井理事・機器更新の手配を行う。
- ・ 10月 PCとプロジェクター 購入設置（しばらく旧PC併用利用の予定。）

セミナー会費徴収システム関連

- ・ 09/24 会費徴収システムクレジットカード決済一部利用可能
- ・ 10/25 MRI部会後のシステム改良のデモンストレーション実施
- ・ 11/28 乳腺画像部会後 不具合等、アシストデザイン改善策打診

ホームページ更新

- ・ 09/29 ワークライフバランス検討委員会 掲

載期間延期

- ・ 09/29 会告 令和4年度第7回告示研修（実技研修） ・ 令和4年度第8回告示研修（実技研修）
- ・ 11/12 静岡県放射線技師学会大会「演題募集」掲載
- ・ 11/28 第7回ワークライフバランス検討委員会 研修会Webセミナー
- ・ 11/14 会告 令和4年度第9回告示研修（実技研修） ・ 令和4年度第10回告示研修（実技研修）

求人情報掲載

- ・ 09/06 高仲循環器クリニック
- ・ 09/16 静岡県立病院機構
- ・ 11/1 公益財団法人 静岡県結核予防会
- ・ 11/18 医療法人社団 正心会 岡本石井病院
- ・ 12/10 医療法人社団いずみ会 メディカルはば伊豆高原

セミナー申込掲載

- ・ 09/14 令和4年度 第1回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会及び放射線セミナー
- ・ 09/18 第15回 静岡県MRI技術研究会
- ・ 10/3 令和4年度秋季公開講演会
- ・ 10/16 第55回 アンギオ部会研修会
- ・ 10/19 令和4年度原子力緊急時災害対策研修会
- ・ 10/28 第36回 乳腺画像部会研修会
- ・ 11/14 第16回医療安全セミナー
- ・ 12/5 第7回ワークライフバランス検討委員会以上です。

高橋会長

続いて地区選出理事からの報告に移ります。

Ⅳ. 地区選出理事報告

東部 大多和組織理事

メディメッセージは高橋会長・牛場副会長のご

協力のもと無事終了しました。ありがとうございました。

二日目の21日は胃がん従事者講習会とも重なってしまい事務局が手薄になりましたが無事開催できました。また廣澤理事にはZOOM配信に関してお力をいただき感謝申し上げます。

来年には第二回目の胃がん従事者講習会をZOOMにて予定しています。

高橋会長

どうもありがとうございました。住民の方々と交流を深められて非常に良かったと思います。

中部 中村組織理事

9/9 第二回幹事会 内容は胃がん従事者講習会打ち合わせ

10/1 放射線セミナー・胃がん従事者講習会を実施 参加者43名。内容は製薬会社からの情報提供と会員発表でした。

11/18 地区会ニュースを発行

今後の予定

1/20幹事会：内容は3/4開催予定の胃がん従事者講習会及び中部地区会総会に関してです。

西部 神谷組織理事

・社会活動報告

・日時：令和4年10月23日(日) 10:00～14:00

・場所：浜松市可美総合センター

・イベント名：第11回可美公園まつり2022

・活動内容：超音波骨密度装置での骨密度無料測定

・参加役員：7名(準備日含めると合計8名)

・来客数：110名(予定人数：3人/15分×4時間＝48名)

・勉強会報告

・日時：令和4年12月3日(土) 13:30～16:40

・場所：浜松市アクティシティコンgresセンター 2階21会議室

・活動内容

①令和4第1回胃がんX線撮影従事者講習会「ひと手間でレベルアップする胃部X線検査ひと手間でレベルアップする胃部X線検査」聖隷予防検診センター放射線課 朝比奈真一先生

②放射線セミナー「造影CT 技術に関する最近の話題」名古屋市立大学病院診療技術部放射線技術科 大橋一也先生

③第1回西部地区会勉強(令和4度第2回胃がん検診X線撮影従事者講習会)「明日からの診療ため我々放射線従事者にできること～消化管病変は臨床医にわかりくい～」浜松医科大学放射線診断学講座診療助教 川村謙士先生

・参加人数：140名(会員：107名非会員：33名)
(会場：10名・web：130名)

・レクリエーション報告

・内容：スマホアプリを用いたウォーキングイベント

・期間：10/20～11/20

・参加人数：13施設、86名

・最高歩数：952,089歩(29753歩/日)

・編集報告

・発行済み：2022年8月発行静岡県放射線技師西部地区会広報誌Vol.94

・発行予定：2023年1月発行静岡県放射線技師西部地区会広報誌Vol.95

・発行予定：2023年3月発行静岡県放射線技師西部地区会広報誌Vol.96

以上です。

V. 常設委員会理事報告

学術 寺田理事

第63回東海四県診療放射線技師学術大会プログラムが決定しました。今後の活動としては来年5月に開催される次回の学術大会におけるランチョンセミナーと公開講演の内容に関してです。演題

募集は始まっていますがまだ応募はありません。
15演題程度を想定しています。

企画調査 廣澤理事

10/5 企画調査委員会を開催しました。議題は以下の2点。

- ・3/18放射線技師研修会について決定事項の確認と役員選出。1月上旬にセミナー申し込みの開始を予定しています。
- ・来年度学術大会テーマについて候補を挙げました。12月の常任理事会にて最終3案に絞られましたので後ほど協議の場で決定をお願いしたいと思います。

次に監事報告です。

VI. 監事報告

栗田 監事（代理：高橋会長）

報告はありません。

大倉 監事

報告はありません。

高橋会長

顧問から。

山本 顧問

報告はありません。

高橋会長

表彰委員会に関して2点報告をさせていただきます。毎年JARTから出される勤続30年と50年表彰に関して、来年度の表彰対象者の推薦は11/18が締め切りでした。30年が9名、50年が2名対象であったため推薦書を提出しています。

県知事表彰に関しては、検討したものの間に合わなかったということで今回の選出はありません。残りに関してはまた協議事項で説明を差し上げます。

3. 協議事項

高橋会長

協議事項です。

3-1. 決算中間報告

会計 斎藤理事

貸借対照表から、今期の現金預金が8,400,242円、特定資産として記念講演積立金400,000円増加し800,000円。資産整備積立金は0円、事務所営繕取得準備資金は324,563円増加し7,108,563円、その他固定資産として建物減価償却193,276円減少、資産準備資金よりPCの購入、そのため什器備品が322,967円増加。以上より当年度資産合計34,439,142円となります。

続いて正味財産増減計算書へ移ります。経常収益として受取会費は正会員・賛助会員共に増加し388,000円増加、雑収益は広告収益が増加し210,004円増加、経常費用として事業費が879,569円増加、旅費に関して公益事業として学術大会に関して増加、消耗品は記念品などによって増加し、管理費は853,390円の増加。会議費はセミナーなどが会場で行われたため増加、通信費はホームページの管理運営費として33万円が計上されています。

当期の経常増減額について、経常収益9,065,668円から経常費用の6,321,408円を差し引いて増減額が2,744,260円、正味財産の期末残高が34,413,170円となります。

収支計算書

事業活動収入が2,105,832円減少し、予算に対しての事業支出が5,660,051円少なく事業活動支出が5,515,892円減少。次期繰越収支差額が8,434,846円となります。

当期は学術大会や理事会・各種会議などが開催され事業費管理費が増加していますが会議収入・広告収入も増加したため正味財産期末残高は732,502円前期と比較し残高が増加しています。

高橋会長

ちから会計の方からも特に問題なしと報告を受けています。会員増に伴い収入が増加していますので、会としてしっかりと使用していくことが必要と思います。

3-2. 令和5年 新春公開講演会について

総務 中村理事

1/14、14時よりホテルグランヒルズ静岡にて開催します。公開講演・記念式典・教育講演の3部構成で行うことになります。例年ですとオール際を行っておりますが今年は飲食なしの記念式典となります。

新春公開講演：会長より『社会の変化における診療放射線技師の変遷と将来像～県民へのメッセージ～』の題にて講演をいただく。座長は県立総合病院の早坂みさを会員に依頼している。

教育講演：衆議院議員のあぜもと先生より『国政活動報告～国会議員唯一の診療放射線技師として～』の題にて講演をいただく。

座長は佐藤副会長にお願いしてあります。

会長講演は中高生向けの講演内容ですので静岡市内の中学・高校に案内を送付しています。

公益社団法人化10周年記念式典：

式次第

13：30 開場

13：55 会長挨拶

14：00 公開講演

15：00 公益社団法人化10周年記念式典

1. 開式の辞

会長挨拶

祝 辞

県知事表彰

功労者表彰

閉式の辞

16：00 教育講演

16：50 閉会

大会長は高橋会長、開式の辞を佐藤副会長、閉

式の辞を牛場副会長、司会を小林副会長にそれぞれお願いしてあります。

来賓者

衆議院議員 畦元将吾

静岡県健康福祉部部長 八木敏裕

一般社団法人静岡県医師会会長 紀平幸一

公益社団法人静岡県病院協会会長 毛利 博

公益社団法人静岡県看護協会 会長 渡邊昌子

公益社団法人日本診療放射線技師会副会長

富田博信

祝辞もこの順でいただきます。

打診のありました衆議院議員2名についてですが、詳細は不明ですが上川陽子・深沢陽一議員と思われます。上川議員は大臣経験者で警護対象者となり、警察との連携などが必要となってくると考えられているのでご承知おきください。

来賓の挨拶の順番はこれでよろしいでしょうか。また議員お二人の順はどうでしょうか？

高橋会長

挨拶の順は問題ないと思います。議員お二人はいつお見えになるかもわからないのでいらした時点で対応したいと思います。

総務 中村理事

賛助会員については22名の方が参加いただけることとなっています。

功労者表彰について、当会の公益法人化にご尽力いただいた和田顧問と延沢氏をお招きし功労者として表彰します。お二人に案内を送付し、式典に参加いただけることを確認しています。本表彰に関しては高橋会長にお願いしています。

会場レイアウトについてです。

5階センチュリールームが会場で、エレベーターを降りて左手です。スクールタイプで最大108名の収容が可能で、各席の間に飛沫防止盤を設置いただきます。吊看板は会の途中で付け替えが不可能なため二つの会を併記して作成していま

す。垂れ看板も資料のように作成しました。ステージに向かって左から教育講演用の垂れ幕、国旗、スクリーン、吊看板、社旗、講演用の垂れ幕の順で配置しています。音響・プロジェクターはホテルのものを使用します。来賓控室としてサルビアを用意し、飛沫防止盤を設置します。また部屋をパーティションで2分し、部屋の手前を来賓、奥を事務局の控えスペースとして使用する予定でいます。

記念品は発注済みで1/10に事務所に納品される予定です。見積書も資料として添付しましたので確認をお願いします。

高橋会長

質問は？

佐藤副会長

来賓者の名前幕はどうしましょう？後ろの席は見にくいかもしれませんが着席場所がわかるように張っておくということでよいでしょうか。

高橋会長

県知事表彰に関して、今回はありません。厚生労働大臣表彰として本県から杉山先生が受けられています。JARTで表彰を受けていますが可能なら県技師会としても表彰し、皆さんにご披露したいと思っています。

山本顧問に関してもJARTで同様に表彰を受けていますが、JART富田副会長も今回いらしていただけるので、富田副会長から症状をお渡しいただける形で表彰の会を設けたいと思っていますがいかがでしょうか？

和田 顧問

県知事表彰について、県の八木部長から表彰すべきではないか。

高橋会長

今回は県知事表彰については残念ながらありません。これについて説明します。

後藤表彰委員長より、県知事表彰に関する内容については私の担当ではないとの回答がありました。65周年の際の表彰に関しては総務が執り行ったと理解しているということです。この点に関しては当然10年後の75周年と今後も続いていくことですので担当や内容に関して詰めていかなければなりません。そのようなこともあり、今回は代案として厚生労働大臣表彰についての案を出したかたちとなります。

和田 顧問

表彰委員会は今回、開催していないようでした。ですので、私としては表彰委員長が直接県の方へ外向き話を詰めていたと考えていました。しかしそうではなかったということですね。手違いということですね。

本来は表彰委員長が県庁へ外向き担当部署を確認し、〇〇さんをこのような事由で表彰したいのだがご検討いただきたい、とお願いをしなければならぬのが筋であると認識しています。

私が担当した65周年の際は2名をお願いに上がったところ最終的に1名しか対象とされませんでした。対象外となったもう1名については県技師会長名での功労賞として表彰する運びとなりました。

また当日健康福祉部部長が出席いただけるということなので、その方から表彰いただくというのが本来の流れであると認識しています。

前回の議事録では会長が渡すという文言になっていたがそれは違うと私は思います。県知事表彰の重みというのは県知事の代役として県から出席されている健康福祉部部長から表彰していただく、というのが本来の流れですから、相当前から人選をし、県の担当部署と複数回折衝しなければ回答を得られず実現しないと思います。今回の件をぜ

ひ今後に生かしてください。今回は前任者からの引継ぎがうまくできていなかったのではないのでしょうか。

山本顧問に対する表彰に関しては表彰委員会の方で議論するよう私から指示をしておきます。

高橋会長

ありがとうございます。とりあえず委員会を開催して検討してもらいます。

県知事表彰の代わりとして杉山・山本両氏をこの場で表彰することはいかがですか。

和田 顧問

表彰の重みが違います。ですから、わざわざこの場で表彰する必要はないと思います。山本顧問についてはやはり県知事表彰がふさわしいと私は考えています。杉山氏については別の問題で、技師会への貢献という点では表彰に値しない、というのが私の考えです。今回無理に表彰はやらなくていいのではないのでしょうか。もしくは会長名で功労表彰というのを別の方を選出し、表彰するのがいいのではないかと思います。

高橋会長

わかりました。来賓の挨拶の順番に関してはこれで問題はないのでしょうか？

和田 顧問

問題ないでしょう。富田副会長について、JARTから旅費の支給はないのですか。以前はありました。

高橋会長

今の体制では支給はしないということで連絡が来ています。ですので、こちらから支給するという形となっています。畦元先生への謝金についてはいかがでしょう。

和田 顧問

議員としての活動の一環ということでもいいのではないのでしょうか。秘書からは何か。

総務 中村理事

秘書からは不要と連絡が来ています。

和田 顧問

ではなしで問題ありません。手土産を渡す程度でよいのではないのでしょうか。

高橋会長

ありがとうございました。他になればこのような形で進めていきたいと思います。

総務 中村理事

県から部長さんの恰好に関する問い合わせがありましたので確認をお願いします。

- ・広報・マスコミ来訪の有無
- ・来賓挨拶の時間
- ・参加予定者人数
- ・服装の指定、マスク着用・色の指定の有無
- ・記念撮影の有無
- ・会場レイアウト
- ・台本や流れがわかるもの
- ・控室の有無

高橋会長

式典ですので礼服でお願いしたい。マスクの色の指定はありません。前回記念写真はいかがでしたでしょうか？

和田 顧問

前回はやっていないかと。

高橋会長

では今回もなしにしましょう。以上でよろしいですか。畦元先生は来られることで確定ですが、

他のお二人に関しては正直詳細が不明ですので、時期が近くなり、詳細が判明したら改めて連絡します。

3-3. 東海四県放射線技師学術大会について

小林副会長

第63回東海四県診療放射線技師学術大会会場下見報告

日時：2022年12月3日 16：30～17：30

会場：アクトシティ浜松コンgresセンター 3F

参加者：高橋、寺田、神谷、小林

第63回東海四県診療放射線技師学術大会

日程：2023年2月11日（土・祝）10：00～ 受付開始

開催方法：会場参加型（WEB配信は行わない）

会場：3Fおよび4F 43会議室

メイン会場 31会議室（336席）

講師控室 32会議室

会長会議 43会議室

役員控室 43会議室

会場はスクール形式で、336席のセッティング

動員を200くらいに設定

プロジェクター、音響は会場敷設の機材を使用

横断幕は横の幕はスクリーンの関係で使用しない

縦幕を教育講演、シンポジウム、会員発表、ラン

チョンセミナーの4本で作成

ひな壇を設置（7つ）

シンポジウムでは机をあげてシンポジウム対応

サブスクリーンを使用→現在行っているセッション

の表示および大会名を表示したい

演台を2つ確保（演者用、司会者用）

座長は机を使用

・32会議室

演者控室として使用

荷物を置く場所あり（窓際）

パーティーションを準備して分けるか？

→10枚予約しているので、あまれば使用可能

・3Fロビー

青丸コンセントの位置

エレベーターから入った位置を受付（机2本）

上部コンセント4つを使用し、メーカー展示の場所とする

・43会議室

会長会議および役員の荷物置き場、控室として使用

○その他

・メーカー協賛

会場（4社）：GEヘルスケアジャパン カイゲ

ンファーマ アミン コニカミノルタジャパン

広告のみ（5社）：キャノンメディカルシステム

ズ 伏見製薬 富士フィルム フィリップス

シーメンス

・発表者への連絡

会員発表、シンポジストへの抄録提出の依頼を

送付 1/10メ切

五島教授よりすでに抄録の提出あり（略歴も提出済）

・ランチョンセミナーの弁当の数

160を用意（確定）

ランチョンセミナーで150うち10は会長会議で使用

整理券をバイエル様でご準備をいただくことで確認済

・各種認定技師へのポイント申請について

1. CT：日本X線CT専門技師認定機構【認可】
種別Ⅱ-3 半日

講師単位数：1単位 受講者単位数：3単位

2. 日本救急撮影技師認定機構【認可】

出席：2ポイント

発表（筆頭者）：2ポイント

発表（共同研究者）：1ポイント

講演（筆頭者）：5ポイント

シンポジスト（筆頭者）：4ポイント

申請は不要との返信あり

3. 核医学：日本核医学専門技師認定機構【認可】（予定：通知書より単位数変更あり）

参加（1日当たり）：5単位

発表（筆頭者）：10単位

発表（共同研究者）：1単位

講演（筆頭者）、シンポジウム等：15単位

4. 日本血管撮影・インターベンション専門技師認定機構【認定不可】

- ・役員への大会委嘱状作成について
- ・事前登録における画面構成の確認について
- ・垂れ幕（縦）

4本をラクスルで発注予定（別紙参照）

- ・収支予算書

別紙参照

リーフレット

確認してください。QRからも登録できます。ポイント申請に関しては団体名だけでも掲載したいと思います。

申し込みフォーム

資料の通りです。

自動返信メール

冒頭に自動と記載されていますが、実際は自動ではなく、入金確認後に手動で行います。

収支予算

概算ですが収入52万円、支出のうち、会場費については会場に掲載の一覧より試算しており、およそ231,120円です。

抄録集は西部地区会で使用している会社でお願いする予定で35,000円。

その他役員日当交通費など含めまして支出合計52万円となっています。

垂れ幕について、資料の通り。

協賛主意書について、このような形で提出させていただきます。

組織図

大会長 高橋 真（会長）

実行委員長（兼：総司会進行）

小林 秀行（副会長）

聖隷健康診断センター

渉外接待（副会長・学術）

牛場正明：副会長

富士脳障害研究所附属病院

佐藤 正明：副会長

JA静岡厚生連清水厚生病院

寺田 理希：学術委員長

磐田市立総合病院

受付

野沢 滋幸（常任理事）兼務

聖隷健康サポートセンターshizuoka

平井 健太（会座長 兼）

静岡県立総合病院

春田 孝博（シ座長 兼）

中東遠総合医療センター

増田 裕司（シ座長 兼）

富士市立中央病院

八重樫 拓（ラ座長 兼）

磐田市立総合病院

会場システム

菅原 和仁（常任理事）

富士市立中央病院

中村 真也（常任理事）

静岡県立こども病院

神谷 正貴（西部理事）

浜松医科大学医学部附属病院

会場案内・マイク

河井 淑裕（常任理事）

藤枝市立総合病院

土井 龍典（西部地区会）

浜松医科大学医学部附属病院

岡部 修平（西部地区会）

聖隷浜松病院

アナウンス

河井 淑裕（常任理事）

藤枝市立総合病院

中島 祐子（西部地区会）

浜松医科大学医学部附属病院

黒田 紗弓（西部地区会）

中東遠総合医療センター

庶務

福地 大介（常任理事）

JA静岡厚生連静岡厚生病院

事務職員

清水 陽代、竹永 和代

写真

常葉 勇介（常任理事）

静岡市立清水病院

会計

事務職員

清水 陽代、竹永 和代

この中で事務職員の出席可否については未確認です。演者への講演料支払いについてはあらかじめ準備し、会計理事から事務職員へお願いします。

メンバー表はスライドの通りです。

交通費算出根拠・演者一覧についても表示通り

です。五島教授の交通手段はどなたかわかりますか？

神谷組織理事

徒歩で問題ないと思います。

小林副会長

シンポジストへの謝礼についてはQUOカードにしたいと思います。ランチョンセミナー講師については2000円程度の菓子折りを考えています。

抄録集

表紙に続き会長の挨拶文面、教育講演の抄録、略歴、各会員発表及びシンポジウムの抄録をそれぞれ1ページずつとして想定しています。広告は各社A5で依頼しており、協賛企業へのお礼のページを1ページ、最後の裏表紙内側に役員名簿、裏表紙にバイエルの広告をA4で1ページ、表紙裏表紙除いて全18ページを予定しています。ご確認いただき良ければ発注します。

マニュアルとアナウンスの台本の作成はこれから行っていきます。

高橋会長

当日の受付はどのような形で？

小林副会長

県内・外でブースを分けたいと思います。受付で名前を名乗ってもらい、入金者リストでチェックしていく形式で行います。参加予定者が150名程度なので手作業ですが大丈夫だと思います。

広報 菅原理事

前日までに入金者リストをあいうえお順に並べ替えた状態にしておきます。

高橋会長

事前登録未登録者に関しては当日その場で受け

付けて支払いしていただく形ですね。

寺田理事

必要物品などの準備はどうなっていますか？

小林副会長

細かいもの、文房具や社旗などについては事務所にあるものを持参する予定です。

寺田理事

ネームカードの準備は

小林副会長

これから作成します。

寺田理事

領収書と兼用ですか？

小林副会長

兼用とせず、領収書は会場で渡すつもりで考えています。

寺田理事

事前入金をしたにもかかわらず当日来ない人もいると思われそうですが。

小林副会長

そうですね。その可能性もあるのでメールで領収書発行を発行する形で考えます。参加証は当日で参加した方のみでいいでしょう。リマインドメールに領収書をつけようと思います。

寺田理事

垂れ幕の字が少し小さい気がするので少し調整をお願いします。可能な範囲で。

小林副会長

承知しました。対応します。

高橋会長

他に何かありますか？

山本 顧問

学生の扱いはどうなっていますか？

小林副会長

学生は無料でリーフレットにも記載済みです。

山本 顧問

シンポジウムの打ち合わせはどうしますか？

小林副会長

県技師会として依頼した方が良いでしょうか？

山本 顧問

シンポジストに依頼状を出す際に何うという形でどうでしょうか。または座長次第かと。これまでも会によってやったりやらなかったりであったかと記憶しています。

寺田理事

私としては少し早めに集まってもらってそこで打ち合わせする程度でもよいかと考えています。

神谷組織理事

私が以前シンポジストとして参加した際は会場で事前に行いました。もしそうするなら、あらかじめ時間を設定しシンポジストに参集いただく形でどうでしょうか。また、座長にメールである程度方向性について相談してはいかがでしょう。

寺田理事

事前に顔合わせしながら打ち合わせしてもらえば良いのではないのでしょうか。座長の二人にはメールで意向を確認する。どうでしょう？

高橋会長

特に決まりはないので座長の意向次第でよいか
と思いますのでそのように対応をお願いします。

他に何かありますか？

なければ次の事項へ移ります。

3-4. 来年度県学術大会のテーマ決め

スライドの通り3案上がっています。多数決を
取ります。

県技師会テーマ 候補

- 1, 県民とともに前に進める放射線技術
- 2, 放射線技術の貢献～より良い医療のために～
- 3, しましょうアップデート。さらなる信頼される
放射線診療のために。

1：6名, 2：9名, 3：4名,

以上の採決結果より、過半数となった2と決定
します。こちらを来年度の大会テーマとして準備
を進めていきます。

続いてもう一点です。

ある研究会から本会への協力依頼です。

3-5. NTRT全国X線撮影技術読影研究会第25回 静岡大会協力要請について

神谷組織理事

川崎医療大学の竹井先生から研究会の矢野副代
表を経由して会長へ打診があり、8/18に会長名
で許可をいただいた案件です。研究会のコンセプ
ト及び直近の開催内容はスライドの通りとなっ
ています。

実際の協力要請について、開催予定は6月末か
ら7月初旬、場所は浜松医大を手配中、形式はハ
イブリッドで会場参加者は50名程度、ZOOM参
加者は250名を想定。スタッフとして本会から5
－7名程度、二日間の拘束、手当は1万円です。
開催日前日の準備があるかもしれません。時間お
よび講演数などに関しては資料の通りです。事務

局からは静岡県技師会から2－3講演の依頼です。
講演時間は40－50分程度です。本会からスタッ
フの手配と講演者の選出をお願いしたいという内
容です。会場やZOOMの準備などは私が行います。

高橋会長

以前の常任理事会で一度話はさせていただい
ています。すぐの案件ではありませんが対応して
いかなければなりません。ただし本会の案件では
ないので予算は充てられません。スタッフは西部地
区で手配をお願いしたい。また講演の一般撮影担
当者での人選というのが難しいかもしれない。

神谷組織理事

過去の講演内容から考えても内容は多岐にわ
たっています。いまのところ講演の詳しい内容に
ついて指定してきていません。一般撮影、とい
うことだけです。講演時間もまちまちのようだが
おおそ45－60分程度と見込まれます。

高橋会長

交通費・謝金は当然研究会より出されるという
理解でよろしいでしょうか？

神谷組織理事

そのはずですが確認します。

高橋会長

一般撮影の関係で、東部地区で熱心に取り組
まれている方がいらっしゃったかと。

山本 顧問

下田の鈴木さんでしたでしょうか？

高橋会長

そうですね。熱心に活動されておりましたので適
任かと思います。ただ、こちらで行うのはあくま
で人選と打診までです。これ以降の交渉などは研

究会で担当してもらいます。会場準備スタッフは浜松医大を中心に西部地区の方をお願いします。

神谷組織理事

承知しました。本会で賄えない部分については地区会の方へ応援依頼をさせていただきたい。寺田学術理事、いかがですか？

寺田理事

特に異論はございません。

高橋会長

日程ですが6月は本会の総会もあるので6月末から7月初旬でお願いしたいかと思います。

神谷組織理事

大学の都合もありますので、7月1,2もしくは8,9あたりの土日で調整していこうかと思います。以上について研究会の方に報告させていただきます

高橋会長

質問は？

会計 斎藤理事

東海4県の予算について質問です。交通費は地区会選出の役員についても技師会からとして申請する形でよいですね。講演者に関する交通費は五島先生のみ。演者に対する講演料を現金としてお渡しするのは五島先生だけで他の方はQUOカード、以上の理解でよろしいですか？お渡しするタイミングはいつが良いでしょうか？

小林副会長

謝金のお渡しは渉外担当が行う。受領書を準備いただき、そこに署名をいただいて受け取りの証明とする。そこも含めてマニュアルを改めて作成します。

3-6. セミナー徴収システムについて

広報 菅原理事

今年度より導入したセミナー徴収システムについて現状報告します。

1, 郵貯に新たにセミナー時の入金専用口座を開設、そこに振り込むという形をとりました。部会ごとに判別できるように資料のように番号を振っています。各部会番号は以下の通り。

- 26 超音波部会
- 27 MRI部会
- 28 アンギオ部会
- 29 乳腺画像部会
- 30 管理士部会

2, 募集期間終了時について、

・募集期間終了時、ホームページセミナー申し込みから募集削除。振込期限終了時にホームページからpaypay QRコード、郵ちょ銀行振り込み、カード決済入力フォーム、終了した振り込み手段を削除する。

3, 振込確認終了の申込者様への対応について（アシストデザイン）

・セミナー2日前、振込終了日（22時）以降、最終入金確認作業を実施。

セミナー1日前、リマインドメールを送信し、その中にZOOMのURL、パスコード等を記載する。

4, 参加者名簿（入金情報含む）および振込金額決算書をアシストデザインが作成し「おおよそセミナー前日」までに情報管理委員長にメールにて送付する。

情報管理委員長はメール内容を確認後、セミナー責任者へメール送付

5, 技師会事務局へ「ZOOMのURL、パスコード」の問い合わせがあった場合の対応

システムトラブル等、技術的問題は情報管理委員長までご連絡をお願いいたします。

URL送信に関しての問い合わせについて 以下

- ・セミナー 1 日前に、リマインドメールを送信し、ZOOMのURLをお伝えいたします。
- ・入金確認・URLメール送信日以降（セミナー前日）お問合せがあった場合、以下をお願い致します。

- 1, 参加者名簿(入金情報含む)で入金を確認する
- 2, ZOOM セミナーURLを申込登録時のメールアドレスに送付する。

6, 参加証は、会場参加者には当日配布し、Web参加者には主催者がメール等にて対応（参加証明書の発行と送付方法はお任せをしております。）

ZOOMミーティング参加者についてご相談いただければレポート出力を検討します。

以上の流れとなります。具体的には土曜日開催のセミナーの場合は、木曜日の22時が振込の期限となります。リマインドについては1日前と当日午前も考えていますのでアシスト社に依頼します。参加者名簿はほぼ前日になります。

高橋会長

アシスト社から菅原理事の所に出す連絡と同時に、部会代表者方にも出してもらったほうが業務負担削減になるのではと思いますが可能ですか？

広報 菅原理事

可能だと思いますので調整します。

高橋会長

では運用が決まった時点で小林副会長に連絡をお願いします。

広報 菅原理事

6の参加証に関してはまだ決まっていません。主催者の責任でお願いします。また参加フォームについて資料の通り一部変更しています。有料の場合 “参加受講証明が必要な場合は主催者が準備する”旨の追記と「システムで参加確認はできませんので全員に事前送付されてしまいます。よって、参加確認が必要な場合セミナーには利用できません。」箇所を変更しています。

小林副会長

以上の流れについて分かりやすいようにオープンにしたほうが良いのではないのでしょうか。HPに参加者が把握できるように、いつリマインドが来るのか、URLが届かない場合はどこに連絡すればよいのか、領収書の件はどうなるか、などについて、一連の流れを参加者が確認できるよう提示したほうが良いかと。

広報 菅原理事

対応します。情報管理としての業務量削減のため、もう少し流れが舞核になった時点で各部会とアシスト社に業務移管していきたいと思います。

高橋会長

本システムが稼働したばかりでトラブルが散見されますが、HPに全体の流れを提示おけば今後はそれほど問題になることはないのではないかと思います。他には？

廣澤理事

3月のセミナーに関しては参加費の徴収はありません。本会のものではなく、我々が独自で契約しているZOOMで直接登録してもらう形とする予定です。技師会HPからZOOM登録画面にリンクをお願いしたいが可能でしょうか？

広報 菅原理事

問題ありません。URLが記載された会告だけ準備いただければ大丈夫です。

神谷組織理事

NTRT研究会についてですが、配信及び準備については開催県技師会に依頼するとの一文があります。研究会の方に私からはそれはできないと連絡はしています。ですがどうしても場合は本会に相談させていただくことがあるかもしれませんのでご承知おきください。

山本 顧問

ちから会計に以下の確認をお願いしたい。東海4県の会費収入の扱いについてです。これだけで別枠として扱うことでよかったかと思いますが、会計事務所と相談を。

会計 斎藤理事

今の会費徴収システムで部会とは別の形で振込むようにしないと問題ですね。他のものと混同しないように。

広報 菅原理事

本件専用の番号を振り、後から差し引きして計上できるようにします。

小林副会長

そうすれば本会のものとは切り離れた形で管理できますね。それで問題ないかと。

会計 斎藤理事

予算が不足する事態もあり得るという理解で？

高橋会長

あり得るので、その場合は4県で折半することになっています。

会計 斎藤理事

承知しました。そのように管理していきます。

高橋会長

他に報告事項・協議事項等ないので以上をもちまして令和4年第3回理事会を終了します。

※議長が第3回理事会の終了を宣言したので、令和4年12月17日午後5時00分理事会を閉会。

議事録作成 河井 淑裕

令和4年度 第4回 理事会 議事録

1. 開催日時 令和5年2月18日(土)
14:00~17:00
2. 場 所 技師会事務所+WEB会議
3. 出席者 (敬称略)
高橋 真・牛場 克明・佐藤 正明・
小林 秀行・中村 真也・河井 淑裕・
福地 大介・野沢 滋幸・齋藤 忍・
常葉 勇介・大多和純一・中村 英明・
神谷 正貴・廣澤 賢一・寺田 理希・
栗田 仁一・大倉 善郎・
山本 英雄(顧問)・和田 健(顧問)

欠席者

菅原 和仁

1. 会長挨拶

高橋会長

2022年度第4回理事会をはじめます。定款第6章の第34条に従いまして、私が議長を務めさせていただきます。

議事録につきましては、総務庶務の河井理事にお願いをいたします。発言者以外はマイクをオフにしてください。

2. 報告事項

1. 会長報告

会の初めに庄名誉会員と菅原常任理事のお父様がお亡くなりになられた。ご冥福をお祈りいたします。また東海4県学術大会はお疲れ様でした。参加者156名と大変盛り上がり、五島教授、各県会長からもお褒めの言葉をいただきました。また技師長さんにお礼の電話をさせていただき、みなさんとてもよい会だったという言葉いただきました。小林副会長をはじめ皆さんありがとうございました。それでは報告です。

JART報告

- ・2023-2024代議員選挙 今回の届出では代議員、補欠の代議員ともに定数内であったことを報告いたします。2年間にわたって総会、臨時総会での投票などが主な職務となります。
また、これにより都道府県において選挙の実施はないこともあわせて報告いたします。
代議員：高橋 真、牛場克明、佐藤正明、
小林秀行、中村真也、河井淑裕
補欠代議員：菅原和仁
- ・「令和6年度診療報酬改定」に向けて、下記の通りアンケート調査を実施中
<https://forms.gle/yvR3ZMG3ngxEjGLh9>
期間：令和5年1月13日(金)~2月19日(日)19時
- ・診療放射線技師のSTAT画像報告体制等について現状調査することを目的にアンケートを実施中
https://www.jart.jp/news/info/20230201_840.html
期間：令和5年2月1日(水)~3月13日(月)
- ・第39回日本診療放射線技師学術大会(熊本県)の演題募集について
募集期間：2023年2月20日(月)正午から
2023年4月28日(金)正午まで
- ・Network Now2月号に 静岡県告示研修開催報告が掲載されました。
<https://www.jart.jp/journal/networknow/index.html>

中日本報告

- ・令和7年度の第41回日本診療放射線技師学術大会の福井県が立候補
開催：①案 令和7年9月12日(金)~14日(日)
②案 令和7年9月19日(金)~23日(月)
- ・東海四県会長会議 会則の一部変更(会議名称変更、費用は各県で捻出 等)
次年度：愛知県 会場、日時未定
実際は会長以外も出席していますので名称を変更します。また学術大会開催経費はメーカーからの出資も得られにくい状況ですので今後は自

分たちで賄っていくことになります。また4県での折半ではなく、各県で責任をもって収支を計算し行っていきます。

会長報告

- ・レントゲン週間基金について メディメッセージ・体験授業について企画申請したが、体験授業が実施出来なかったため、補助金をすべてメディメッセージに組み込むことを申請し、承諾された。(37,000円)
- ・1/31 原子力災害緊急連絡訓練実施
- ・1/31、2/2 ちから会計事務所 次年度予算案の打ち合わせ
- ・3/2 17時30分～ 静岡県医療事故調査等支援団体連絡協議会・研修会 医師会主催（ハイブリッド）
- ・3/11 14時～ 第1回表彰委員会
- ・2/24 16時30分～ 各種団体代表会議 ホテルアソシア静岡 自民党静岡県第一選挙区支部：牛場副会長と会長とで参加以上。

Ⅱ. 副会長報告

東部（委員会報告）

東部 牛場副会長

- ① 1/31（火）原子力緊急時災害情報連絡訓練開催報告
10：00高橋会長 管理士部会
東部14施設 11：09 東部3施設 10：53
最終富士宮市立病院
中部13施設 11：46 中部2施設 10：20
最終榛原総合病院
西部13施設 11：23 西部3施設 10：25
最終袋井市民病院
- ② 2/4（土）令和4年度静岡県原子力防災訓練参加報告3年ぶり開催
UPZ域内の住民294名のサーベイ
避難退域時検査場所運営訓練に技師会より3名

の派遣要請

災害対策委員長 牛場 管理士部会 千葉、勝浦派遣

新東名 浜松SA下り 8：00-11：30

委員会報告事項

ワークライフバランス検討委員会研修会開催

第7回WLB検討委員会研修会

2/18(土) 14：00-16：00web

災害対策委員会R4年度第3回3会合同会議

3/10(金) 18：30-

企画調査委員会R4年度第3回企画調査委員会
会議 3/10(金) 19：30-

中部（会務報告）

中部 佐藤副会長

新型コロナに感染してしまいご迷惑をおかけしました。報告事項はありません。

西部（部会報告）

西部 小林副会長

部会報告（12月～2月）

☆超音波部会

- ・（予定）第37回乳画像部会研修会・第80回超音波部会合同研修会
日時：2023年2月25日（土） 14：00～
場所：WEB 方法：WEB配信

☆アンギオ部会

- ・（予定）第56回静岡県放射線技師会アンギオ部会研修会
日時：2023年3月25日（土） 14：00～17：00
場所：静岡県放射線技師会事務所
場所：WEB 方法：WEB配信

☆乳腺画像部会

- ・（予定）第37回乳画像部会研修会・第80回超音波部会合同研修会

日時：2023年2月25日(土) 14:00～

場所：WEB 方法：WEB配信

☆管理士部会

・第49回放射線技師のためのセミナー

日時：2023年1月21日(土) 13:30～17:10

場所：静岡県放射線技師会事務所 WEB配信

方法：WEB配信

参加者：38名（静放技会員29名、各都道府県会員4名、非会員2名、メーカー3名）

☆第63回東海四県診療放射線技師学術大会

日時：2023年2月11日(土) 10:00～16:00

場所：アクティシティ浜松コンgresセンター 3F

方法：会場型開催

参加者：156名（会員：静岡108名、愛知16名、岐阜16名、三重8名 非会員：7名 学生：1名）

続いて常任理事報告へ移ります。

Ⅲ. 常任理事報告

総務 中村理事

1/14開催の新春公開講演会 会員28名非会員37名計65名の参加 無事終了

来賓・賛助会員・表彰者に記念品を発送

東海4県役員に本人、所属長、施設長に委嘱状を発送

3月初めに賛助会員に対して来年度の契約とジャーナル掲載についての確認依頼出していきます。

総務庶務 河井理事

前回の常任理事会で確認いただいた令和5年度年間行事予定カレンダーに若干の修正があります。

発番は1件、第26回静岡県理学療法学術大会の後援申請に関する案件のみです。

次回発行のジャーナルに本理事会の議事録を掲載するため日程がタイトですが、皆さんご協力を

お願いします。

事務所のインフラについての整備状況について、新調したPCをメインに使用していく。事務員使用のPCも古いため新調したものに順次移行。現在撤去したPCの廃棄は資産管理台帳としての記録が必要かもしれないので確認中です。

庶務一般 福地理事

【報告事項】

- ・令和4年度事業報告原稿依頼を近日中にメールにて依頼します。締め切りは3月24日です。関係各位に於きましては原稿作成をお願いします。
- ・胃がん検診従事者講習会の県への報告を3月中～下旬に行いますので、各組織理事の方に於きましては講習会終了後、速やかに必要書類の提出をお願いします。

【会員動静】

(令和4年12月08日から令和5年01月31日まで)

- ・新入会申請 2名

小粥 守(西部) 細田 友行(西部)

- ・転入 0名

- ・転出 0名

以上2名につきまして、定款第3章第6条に基づき、本理事会での承認をお願いします。

高橋会長

採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

資料は必ず期限までに提出するようお願いします。

庶務会員管理 野沢理事

会員数と今年度の会費納入状況を報告致します。
総会員数1027名、東部290名、中部307名、西部427名、県外3名。

年会費未納者リスト2022年12月納入分までの資料で、2年未納者6名、1年未納者58名、合計64

名。納入率93.8%。納入率 東部94.5% 中部93.2% 西部93.7%

日本放射線技師会より令和4年度会員資格喪失者(除籍)は2月の理事会で承認され、4月1日が除籍退会日となります。

会員数及び、2022年度会費納入状況(会費は12月納入分まで)

総会員 会員数 未納者 納入率(%)

1027 (3) 64 [6] 93.8

地区別 東部 290 (0) 16 [3] 94.5

中部 307 (3) 21 [0] 93.2

西部 427 (0) 27 [3] 93.7

県外 3 (0) 0 [0] 100.0

(): 会費免除者 [] : 2年会費未納者

会計 斎藤理事

事務所の管理費について、水漏れが発生したため費用の捻出が必要との旨にて金額についてのアンケートが届いている。毎月1000円捻出可能と返答した。最終的な金額の決定は4月のマンション管理組合にて佐藤副会長が出席し決定される。

県からの委託事業で行われているデジタルマンモの関係です。クラウドパックスのライセンスが来年の1月末まで使用可能、積極的に活用を。本日も医師・技師とで同システム使用し講習会が実施されている。

高橋会長

各部会・地区会でも積極的に活用してください。

常業 編集理事

・総会、学術大会 原稿担当予定

表紙、裏表紙 編集理事

第12回定時総会式次第 総務理事

令和4年度事業報告 庶務一般理事※

会計報告 会計理事

監査報告 監事

令和5年度事業計画 会長

収支予算書 会計理事

学術大会プログラム 学術理事

発表演者、座長へのご案内 学術理事

賛助会員一覧 総務理事

事業報告は庶務一般理事が3月初旬に各理事、部会、委員会に原稿依頼。締め切りは3月下旬。会計報告は会計理事が会計事務所の方から原稿をもらいます。

監査報告は会計報告をもとに監査を4月上旬～中旬に行います。収支報告、監査報告が届き次第、メールにて松本印刷に送り、印刷作業を開始します。

学術大会プログラム、予稿集は学術委員会で作成します。

賛助会員募集を総務理事が3月上旬に募集し、下旬に締め切り。それをまとめ、議案集にリストを掲載する。

それぞれが担当した原稿を編集理事に送り、まとめて議案集の形にして印刷、製本します。5月初旬の発送に間に合わせるため、原稿ができ次第編集理事へご寄稿下さい。

各担当者で作成された原稿は編集では誤字脱字等の修正はしません。提出頂く際には間違いのないようにチェックまでお願いします。

定時総会決裁票ハガキは常任理事会で話し合い、文面を作成します。

「料金受取人払」を利用します。表面は郵便局へ申請し、有効期限の延長、承認番号・バーコードの発行など完了しています。

裏面の内容について協議をお願いします。ハガキ裏面のレイアウトについて開催形式が決まり次第、協議をお願いします。

・次号ジャーナル発行 3/24(金) 18:00～

同封書がありましたら事前に連絡の上、必要部数を発送前日までにご用意ください。

総会議決権行使使用はがきを2種類作成しました

のであとで協議をお願いします。

記念誌編集委員会は本理事会の後開催されます。

広報 菅原理事（代理：高橋会長）

【広報】

- ・ 1/11 2023年4～7月ジャーナルカレンダー 確認依頼
- ・ 2/8 ジャーナル行事予定カレンダー（令和5年4月～令和5年7月）原稿提出 新春公開講演に関する活動
- ・ 12/22 静岡県庁 ポスター配布 150部 その他公共施設への配布 150部
- ・ 1/4 HPにポスターを2枚追加掲示 第63回東海四県診療放射線技師学会大会に関する活動
- ・ 1/15 学会検索サイト（m3.com学会研究会）カレンダーへの登録依頼

【情報管理委員会】

- ・ 1/11 Microsoft 365 Business Standard 更新手続き（経費振込依頼）
- ・ 1/21 管理士部会セミナー サポート
- ・ 2/6 第56回アンギオ部会研修会 zoomスケジュール登録

セミナー会費徴収システム関連

- ・ 12/19 有料セミナー申込方法 説明画面作成
- ・ 1/5 有料セミナー申込方法の説明画面 掲載

ホームページ更新

- ・ 1/10 東海四県診療放射線技師学会大会 会告、ポスター掲載
- ・ 「第27回 静岡県放射線技師学会大会演題募集」ホームページの目立つ位置に移設
- ・ 2/14 第3回静岡県マンモグラフィ撮影技術研究会 ポスター掲載

求人情報掲載

- ・ 12/24 共立蒲原総合病院
- ・ 1/24 志太医師会検診センター
- ・ 1/25 静岡すずき整形外科 リハビリ & スポーツクリニック
- ・ 1/31 どい整形外科スポーツクリニック

セミナー申込掲載

- ・ 1/10 東海四県診療放射線技師学会大会 募集開始
- ・ 1/23 第37回乳腺画像部会・第80回超音波部会 合同研修会 募集開始
- ・ 1/30 第2回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会 第2回放射線セミナー 申込開始
- ・ 2/1 第2回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会 申込案内の訂正
- ・ 2/1 第16回静岡県MRI技術研究会 申込開始

高橋会長

地区選出理事からの報告に移ります。

IV. 地区選出理事報告

東部 大多和組織理事

- 1/28 東部地区第2回胃がん検診・放射線セミナーweb開催 40名の参加
- 2/10 第4回幹事会 来年度役員の確認
- 3月 通常総会のはがきで決済の予定

中部 中村組織理事

- 1/20(金) 第4回幹事会
第4回中部地区会幹事会開催、3/4の第2回放射線セミナー、胃がん検診X線撮影従事者講習会、令和4年度中部地区会総会について検討。
- 2/3(金) 地区会ニュース（新春号）、総会資料（議案書）郵送

令和4年度中部地区会総会は昨年同様、書面表決とさせていただきます。同封したハガキにて各議案の賛否を確認して評決することとしました。

今回の議案では令和5年度の会費免除を提案しました。認められれば令和5年度の地区会費は免除することになります。

COVID19の影響で本年度開催予定でした行事の中止、総会、講習会、セミナー、幹事会のZoom会議の活用により余剰金が発生しました。

健全な運営を行っていくためにも令和4年度中部地区会費納入済の会員は令和5年度分の会費請求を中止とする。

(令和4年度分会費を納入すれば令和5年度会費は免除)

2/17(金) 第5回幹事会、第2回胃がん講習会の直前打ち合わせ、総会の打ち合わせ

今後の予定

3/4(土) 令和4年度中部地区会、第2回胃がん検診エックス線撮影従事者講習会、第2回放射線セミナー、令和4年度中部地区会総会(書面表決報告会)を開催します。

プログラム

教育講演 「ピロリ陰性時代の胃がん検診のありかた」
焼津市立総合病院 消化器内科 渡邊 幸弘先生
施設発表 「静岡赤十字病院の胃検査数の現状について」 静岡赤十字病院、本村奈穂 技師
メーカー講演 「Aquilion Serveの御紹介」

キヤノンメディカルシステムズ社 清水 真太郎 様
施設発表 「Aquilion Serveの使用経験」
焼津市立総合病院 岩倉 圭佑 技師

4/28 令和5年度第1回幹事会予定、令和5年度の年間予定、第1回胃がんセミナーの内容などについて話し合います。

7月中 地区会ニュース夏号発行

西部 神谷組織理事

東海4県学術大会に5名が役員として参加

3/4 西部勉強会総会(勉強会はweb、明日リハーサル)、3/20 第4回幹事会

7/1、2 NTRT 浜松医大で開催 講師依頼の鈴木会員は保留中、もう1名は大学の福岡会員に長尺関係についての講演を依頼

V. 常設委員会理事報告

寺田学術理事

新春公開講演会・東海4県学術大会とお疲れさまでした。新春公開講演会は学生をターゲットにしており問い合わせも何件か受けたものの時期が悪く、多くは参加いただけなかったのが残念でした。学校への案内配布が遅かったのか、今回は県の協賛の関係で遅くなったが今後改善すべきかと思う。保健所から学校に案内の配布などでもできるとの話であったのでそのような術も今後検討していきたい。

プログラムが早めに決まっていただけに残念であった。今後に活かしたい。

廣澤企画調査理事

活動報告はありません。今後の予定です。

3/10 第3回企画調査委員会開催
会議内容

令和4年度県放射線技師研修会最終打ち合わせと令和5年度の講演内容

3/18上記研修会開催、事前登録10名前後のみのため、積極的に参加をお願いします。

次に監事報告です。

VI. 監事・事務職員・顧問報告

栗田 監事

報告はありません。

大倉 監事

報告はありません。

事務

2名に対して弔電をうっていますが菅原理事の件に関してはいかがいたしましょう？

高橋会長

規約では会員は弔電のみとなっているが、理事会で承認をいただきお花をお送りしたい。採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

庄先生は高橋が個人的にお通夜に参列します。

山本 顧問

二つの大きな事業お疲れさまでした。

JART代議員選出の方々、2年間よろしく願います。私はJART総会運営委員長を担当しています。任期は2025年3月までとなり、県技師会とは違うので注意してください。総会開催はほぼwebかと思われます。これまでは参加によって手当として2,200円が支給されています。年に1－2回程度の開催で6月総会が主たるものとなります。

和田 顧問

先ほど話の出ました備品に関してですが、諸規定内の経理規定第28条：保管管理の項に記載があります。その中で庶務理事は物品のうち備品台帳を設け記入整理するとの記載となっており、10万円以上の物品が対象です。廃棄については廃棄日時、事由を付け、会長・会計理事の承認を得た旨記載し廃棄となります。県監査などで台帳の存在に関して問われる可能性あるので準備をお願いします。

高橋会長

対応します。

報告は以上です。

3. 協議事項

高橋会長

協議事項です。

3.1 令和5年度事業計画（案）承認の件について

「はじめに」の箇所を読み上げます。

新型コロナウイルス感染症が確認されてから3年が経過し、新しい生活様式を取り入れ日常を取り戻そうとしている矢先の2022年2月24日、突如としてロシアがウクライナへの侵攻を開始し、世界に強い衝撃を与えました。この日を境に、非日常の出来事が連日メディアで配信されるようになりました。多くの子供を含む民間人が犠牲となっている現状を見るにつけ、日ごろ人命救助を使命としている我々はいたたまれない気持ちになります。また、この戦争により世界経済も不安定となり、これまで経験したことのない社会情勢となっています。このような状況が一刻も早く終結し、平和が訪れることを願うばかりです。不安が多い状況下ではありますが、本会も様々な変革を行い、2022年度の事業活動を推進してまいりました。県民の皆様へは、年3回の公開講演会やふれあい広場、メディメッセージを通じ、直接お話をさせていただきながら放射線に関する正しい情報、健康増進推進のための情報を提供することができました。会員の皆様へは、静岡県放射線技師学術大会、東海四県診療放射線技師学術大会、部会研修会、委員会研修会などの多くを会場型で実施することが出来、久しぶりに会員同士、顔を合わせた交流も実現できました。2023年1月には、公益法人化10周年記念式典を会場型で開催し、上川陽子衆議院議員、深澤陽一衆議院議員など多くの来賓に出席を頂き、更に、畦元将吾衆議院議員には診療放射線技師への期待を込めた貴重な講演を賜り、盛大に開催することができました。

2023年度も昨年の事業を継承し、告示研修（令和3年厚生労働省告示第273号研修）、各種研修会、学術大会など、会員の技術向上を図ってまいります。県民に向けては、魅力ある内容で公開講演会を開催し、ふれあい広場での広報活動やホームページを通じて、放射線の正しい情報や被ばく相談も実施してまいります。更に、静岡県との連携

を踏まえた静岡県原子力災害時防災訓練へ積極的に参画し、診療放射線技師の役割を深めてまいります。また、日本診療放射線技師会で検討がなされているSTAT画像報告（緊急異常所見報告）に関するラダー教育や、性腺防護の国際動向を踏まえた対応や正しい放射線の知識を国民に伝える事業に関して、日本診療放射線技師会と連携を図ってまいります。

本会は、診療放射線技師としての資質の向上と職業倫理の高揚に努め、安全で質の高い医療の提供を行い、県民の医療に対する期待に応えていくことを目指しています。

2023年度事業内容は、下記に示す通りです。公益目的事業の更なる推進に向けて関連の職種や県民に参加を広く呼び掛けてまいります。

以上。

日程が決まっているところなどがあれば教えてください。東部ふれあい広場はいかがでしょう。

大多和理事

日時・場所など詳細未定です。

高橋会長

可美公園祭りはいかがでしょうか。やはりこちらも未定ですかね。

牛場副会長

原子力防災訓練に関して、場所は未定でお願いします。中部電力協力のもと行われます。

高橋会長

メディメッセージは「西部地区市民を対象」としているが「県民対象」と記載します。

神谷理事

可美公園はスキップしても良いでしょうか？

高橋会長

県からの補填で行う事業となるのでできる限り実施をお願いしたいのですが。

神谷組織理事

NTRTもあり西部地区の負担が大きく、可能であればスキップしたいのが本音です。

小林副会長

山本前会長時代は地区会でおこなっていた。当初は県の公益事業としては計上されていなかったと記憶している。数年経過してほかの医療職も参加していることから公益事業として認められるようになったという経緯があります。

以前西部で実施した時までは各地区会で行っていた。このような形で公益事業として認められるのであればそれで問題ないのかもしれないが、私個人として、元々は公益事業に計上することがそもそもどうなのかという思いがある。

高橋会長

体験活動などを通じてのレントゲン週間事業としての事業でもある。

小林副会長

そうなると常任が関わらなければならない可能性も。県技師会から地区会に20万円補填されているのと乖離してしまう。

高橋会長

JARTにも申請している案件です。結局ふれあい広場とメディメッセージとも両方やらなければならない。

神谷組織理事

そうなんです。スキップできれば大変助かります。

山本顧問

西部地区で検討してもらえればいいのではないかな。

高橋会長

メディアメッセージを公益事業としての記載はします。

寺田理事

実際どのような形ですか？

高橋会長

技師会が依頼を受け承認し、各地区会スタッフにお願いして全20名ほど動員する。

寺田理事

依頼を受けるのは県技師会？

高橋会長

そうです。看護協会など他の医療関連団体もすべて賛同をして県がバックアップしている形です。会の主催は協和医科器械が執り行っている。

寺田理事

また地区会で検討しましょう。

神谷理事

明後日の幹事会で相談します。

佐藤副会長

このような催しは、私が常任をやっていた十数年前は中部地区のふれあい広場だけであった。県技師会が主体で各部会や各委員会に協力をいただき対応していたが現在は各地区会が主体ですか？

高橋会長

公2事業として各地区会に活動していただいている。今年度の具体的な実施内容を教えてください。

牛場副会長

今年度は沼津のキラメッセにて各医療関連団体が出展しています。本会としては本物の医療を体験いただく、というコンセプトで仕事内容の紹介、検診の説明・紹介、画像の提示なども行いました。他にも医療職志望の学生などへの啓発、患者さんとのふれあいの場となっていると思います。MRIの体験もありました。

高橋会長

装置のパネルや模型などはメーカーが手配してくれ、ほとんどの準備は主催側がやっています。

牛場副会長

こちらとしては人員を動員して出向いて実際に行うだけです。

神谷理事

日程などはどのように？

大多和理事

この時期ですと日程は決まっているはずかと。6－7月頃に会長経由に話はあったかと記憶しています。それ以降はメーカーと直接やりとりしてきました。

神谷理事

可美公園と日程が近いので非常に困惑している。以前はどうしたのでしょうか？

小林副会長

両方実施しました。前はコロナ前で4月頃話があって骨子もほぼ出来上がっていた。各団体に関してもほぼ決まっていた。東部地区への打診が遅くなったのはコロナ禍であることが影響していると思う。来年度の日程・場所は決まっているはず。聞いてみてはどうでしょうか。

神谷理事

地区会で検討し、また報告する。

高橋会長

それでは事業計画案の採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

3.2 令和5年度収支計画(案)承認の件

斎藤理事

予算案ですが、令和3年度および4年度を参考に作成をしています。前期までの期間で、本来であれば公1事業に含まれるべきジャーナル発行に伴う経費が公2事業として計上されていました。そのため今期より同事業を公1事業に移行するため公1、公2事業の経常費用が大きく変更となっています。また今年度より変更となった部会研修費収入を受取負担金に含んでいます。以下列举します。

・公1事業

受取負担金：部会研修費徴収分 200,000円追加し、450,000円

給料手当：事務員増員と時給UP 37,000円追加し、257,000円

福利厚生費：事務員増員分 3,000円追加し、33,000円

会議費：ジャーナル発行関連事業分 60,000円追加し、453,000円

旅費交通費：ジャーナル発行関連事業分 80,000円追加し、230,000円

通信運搬費：ジャーナル発行関連事業分 293,000円追加し、396,000円

消耗品費：昨年度の実績額にあわせて 300,000円減額し、150,000円

印刷製本費：ジャーナル発行関連事業分 1,270,000円追加し、1,470,000円

賃借料：昨年度の実績にあわせて 200,000円減額し、270,000円

・公2事業

給料手当：事務員増員と時給UP 11,000円追加し、85,000円

福利厚生費：事務員増員分 1,000円追加し、11,000円

会議費：ジャーナル発行関連事業分 60,000円減額し、73,000円

旅費交通費：ジャーナル発行関連事業分 80,000円減額し、320,000円

通信運搬費：ジャーナル発行関連事業分 153,000円減額し、30,000円

印刷製本費：ジャーナル発行関連事業分 1,270,000円減額し、130,000円

・公3事業

給料手当：事務員増員と時給UP 11,000円追加し、85,000円

福利厚生費：事務員増員分 1,000円追加し、11,000円

旅費交通費：ジャーナル発行関連事業分 150,000円減額し、50,000円

・相互扶助事業

給料手当：事務員増員と時給UP 11,000円追加し、85,000円

福利厚生費：事務員増員分 1,000円追加し、11,000円

・経常収益

正会員受取会費：会員数にあわせ増額

受取負担金：部会研修費として増額

・経常費用

給料手当、福利厚生費、事務員増員と時給UP分で増額

旅費交通費、消耗品費、賃借料、会議費：昨年度実績額に合わせて減額

経常収益計 11,631,500円

経常費用計 11,554,300円

経常増減差額 77,200円

これまでの事業費内訳を本来あるべきものに変更する公益事業内での変更なので公益事業比率

に変更はなく、今回は67.4%です。

高橋会長

ジャーナル関連事業がこれまで公2事業に入っていた。本来は公1でないといけない。指摘を受けて今回から変更することとなった。147万円相当の額が移ったことになり、結果的に公1の数値がかなり大きくなっている。公益事業の中身時代は何も変わっていない。また部会から頂いた会費納入分が20万円ほどあり、次年度からはそれを受け取り負担金という形で計上することとした。以上が要旨です。

和田顧問

私の会長時代と違って公益1、2、3と事業を分けて出しているのが会員にはわかりにくいかもしれない。場合によっては会員向けに全体を通した会計予算書の方が、馴染みがあって理解しやすいかもしれない。会計事務所と相談して会員向けにどのように出したらよいか一度議論した方がいいのではないかと。会員向けにも細かく提示したいならそれでもいいが、税理士としては公益事業分をいかに担保するかという点が大きな狙いになっている。それをするために細分化しているのだと思うが、会員としてはどうでしょう。

高橋会長

今回はこれをすべて提示することにします。一つ一つ丁寧に説明したほうが良いのではないかと考えている。

和田顧問

わかりました。10周年記念誌予算はどこに？前回の決算の中では2万程赤字になっている。その中で記念誌という項目がなかった。これから記念誌を発行するにあたり、5年度の予算に入れているわけではないということです。

高橋会長

10周年記念式典と記念誌分とを3年間かけて計120万円積み立てている。収支予算書にこれは入らず別枠になっている。引き続き80周年記念誌を作成して必要があり、それに関しても積み立てをしていく算段をとっている。

和田顧問

承知しました。

高橋会長

今回はこのような形で進めさせていただきたい。採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

3.3 特定費用準備資金の積み立て（案）承認の件について

斎藤理事

5年後80周年記念事業のための積み立てで、上限を150万で作成しています。今回の式典を参考に規模が拡大することによる+50万円で計上しました。

山本 顧問

300万円くらい必要かと思います。

中村理事

前回の周年記念事業は150万円の予算、これに飲食があり100万円程の赤字となっている。合計250万円程かかったようです。記念誌は別かと思われます。65周年の際の積み立てに関しては400万円となっています。

高橋会長

この額の積み立ては可能でしょうか？

斎藤理事

記録を確認したところ、前は400万円の積み立てをしていて会議費などで結果的に280万程度かかっています。式典そのものは150万円程度です。

高橋会長

食事・会費はどうなっていますか？収入として会費があるのでは？

和田顧問

飲食代は、会費を徴収して賄っている。技師会費からの捻出はない。

山本顧問

来賓などの関係で会として負担している分がかなりあるので。

高橋会長

どのような形式でやるか、式典の後に本来であれば懇親会を開きたい。今よりも経費は上がるだろうし、300万円は必要かと。そうすると年間60万円の捻出は可能なのか？会計事務所と相談を。

斎藤理事

理事会としては金額の上限と期間の承認をとる必要があるという規約になっています。

高橋会長

上限300万円を5年間で積み立てていくという案に関して採択をとります。公益法人として節目を大事にしていかなければならないことをご理解いただきたい。

採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

引き続き会計事務所と協議していきます。

会計に関しては以上です。

3.4 はがきによる書面採決の件

高橋会長

まず開催方法に関して、会場の都合から現地開催のみの予定であったが前日夕方5時半から9時まで準備可能と確定しました。8時半から役員が会場に入れて9時から受付を開始できる。となるとweb配信も可能かと。総会開始時間を9：20でどうでしょうか。

寺田学術理事

片付け・撤収は大丈夫でしょうか？前日から準備できるのでwebはすぐに使えると考えてよいか。

高橋会長

撤収は40分あれば問題ないと聞いている。17時撤収は決定している。Webもすぐ使えると思う。9：20総会開始で配信もできるはず。

寺田学術理事

そういうことでしたら、総会を50分確保し9：30開始の16：20に全予定終了でスケジュールしてあるが、これが10分前倒しになるということですね。16：10終了でプログラムを組みます。承知しました。

高橋会長

以上よりhybrid形式で行いたいと。公開講演も小山先生が高校生に対してのメッセージ発信していただけるという事もありぜひ配信をしたいと考えている。ご理解をお願いします。これを前提にははがき採決について協議したいと思います。

常葉理事

会場型開催とHybrid開催との2案作成しました。

高橋会長

議案が第1号議案しかないが事業報告に関する議案は？

斎藤理事

今年度の議案集では第1号議案は令和3年度計算書類等一式の件との記載が、第2号議案が理事改選に伴う承認の件、第3号がその他となっている。事業計画案の審議についての記載はない。

山本 顧問

事業計画案については理事会承認のみでよい。審議・報告も不要。議案集に載せるだけでよい。以前はすべて行っていたが公益法人となってからは変わっている。

高橋会長

ということは第1号議案とその他のみでよいということでしょうか？特定資金については？理事会承認と総会決議どちらでしょうか？

山本 顧問

総会ですかね。

高橋会長

では第2号議案で特定資金を、第3号議案でその他。このようにいきましょう。

和田顧問

第1号議案は令和5年度ではなく令和4年度ですね。

高橋会長

修正します。ほかには？

小林副会長

はがき採決に関して20分で勘定して間に合いますか？総会運営会議の時間なども確保しなくてよいのでしょうか？

山本 顧問

はがきは予め数えているので、後は会場にいる

人数分だけ数えられればいいので大丈夫かと。

高橋会長

ですので、はがき採決で6割程度確保できていないといけない。

小林副会長

少し早めに総会を始めた方が無難でしょうか？

寺田学術理事

私もそう思います。20分では厳しいかと。

高橋会長

全予定終了時間の問題だけです。

寺田学術理事

いまは全予定終了が16：20です。中はいくらでも調整できます。

高橋会長

撤収は40分で可能という事です。

寺田学術理事

では今の想定通り9：30総会開始、16：20全予定終了でどうでしょうか。午後のセッションの休憩時間はない案です。

高橋会長

ではそのようにしましょう。

斎藤理事

特定資金に関して、理事会承認でよいと会計事務所より言われています。はがきでの承認は不要という事です。前回10周年に関しても採決されておらず議案集への記載のみとなっています。

高橋会長

では第1号議案のみでよいという事です。令

和4年度事業報告についてはがき採決で行うことの承認をとりたいと思います。

山本顧問

定款第19条に署名決議権の行使等の項があり、「やむを得ない事由にて出席できない場合は書面又は電子的記録をもって議決権を行使することができる」との記載があるので、書面又は電子的記録でやることをこの場で決めればよいという事になります。また、本来は議決権の行使と委任に関してはそれぞれ別物として扱わなければならないということがJARTの総会で私も初めて認識しました。

高橋会長

今回の件は委任の項が抜けていますね。

小林副会長

同定款の第2項に委任についての記載がある。本来は委任の形に関しても体裁を整えておかねばならないと読み取れる。

高橋会長

とりあえず今回はがきか電子的方法かについての採決をとります。はがきでやるしか術はないのではがきで行う事について採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

ではがき採決で実施します。内容に関してはもう少し詰めていきます。

3.5 総会・学術大会の件について

先ほども話が出ましたが時間についてはこのように決まりました。プログラムの確認をします。10時半学術大会開始ですね。

寺田学術理事

先ほど話のあったように9時半総会開始、全プログラム終了が16：20の予定でいいですね。学術大会は10時半開始、演題も20演題と非常に多く、各セッション均等に振り分けることができました。ランチョンセミナーはAIの現状についてメーカー2社、キヤノンとフィリップスの2社から30分ずつ計1時間、主意書も送り承諾を口頭で得ています。公開講演は学生向けに名古屋大学の小山先生に快諾頂いています。派遣依頼書も事前に確認いただき問題ない旨報告いただいている。後は押印し事務所から発送いただく。

座長はランチョンセミナー・公開講演は学術の方から選出し、各セッションで一部決まっていないところに関しては佐藤副会長・中村組織理事とで決定をお願いします。

佐藤副会長

CTのセッションは富士市立からも話が上がっているが、かぶらないかが心配です。

寺田学術理事

私はほかには打診していないのでそちらで決めてもらって大丈夫です。あまり遠方からでないほうが良いかもしれません。ジャーナルに掲載できるように早めに決めてください。施設であまり偏らないようにしていただき、それなりに頑張っている方を選定してください。

佐藤副会長

中村組織理事と進めていきます。

神谷理事

一つ提案です。スライドの4：3制限はそろそろやめてはいかがでしょうか？

小林副会長

会場のスクリーンが対応しているか、設備次第

ですね。会場に確認してみましょう。早々に確認をお願いします。

佐藤副会長

承知しました。

寺田学術理事

演題の採択通知は未だ出していないのですが、本理事会終了後に出しますのでご承知おさください。

斎藤理事

特別資金の承認に関する書面がありました。経理規約にて理事会承認でよいと記載ありますので、本理事会採決で問題ないと思います。

高橋会長

では、はがきは第2号議案なくその他のみ、という形となります。

中村理事

総会の式次第を作成しましたのでご確認をお願いいたします。

高橋会長

第2号議案はないのでその他のみですね。

中村理事

会告もお願いします。9：20開始に変更します。

中村組織理事

「あざれあ」はカタカナでなくひらがなです。「キヤノンメディカル」の「ヤ」も大きい「ヤ」のようです。

高橋会長

対応をお願いします。

3.6 その他

牛場副会長

メディメッセの企画報告が上がっています。確認をお願いします。

高橋会長

先ほどの話の中でふれあい広場をやめてこれにしたという経緯があるようでしたので、もしそうなら東部地区で費用を負担いただきたく思います。助成金の26,000円に関しては使用していただいて構わない。17,000円に関してはなしで、差額でマイナスとなっている14,040円を東部地区会で負担いただきたいと思います。

牛場副会長・大多和理事

承知しました。地区会会計と調整します。

小林副会長

管理士部会から至急の企画申請が上がっています。勉強会実施のためのアンケート実施についてです。費用は郵送代のみ、内容は臨床実習に対するアンケートとなっています。3月から実施したいとのことで実施に関して承認をいただきたいと思います。

斎藤理事

管理士部会からこの内容ですか？放射線技師のためのセミナーで。

高橋会長

管理士部会ではなく企画調査委員会案件のようにも思えるが、この積極的な行動を否定したくはないので、前向きにとらえたいかと思います。主意書の提出を依頼しましょう。実施に関しての採択を取ります。

反対：0・保留：0・賛成：20

(全会一致承認)

寺田学術理事

学術大会関係の企画申請書を上げたが残り開催する地区会では対応をお願いします。Webで行う旨を関係者に案内します。会場の入場者数に制限は設けない方向で進めます。

中村組織理事

総会議長の選出がまだですので早急に決定していきます。マニュアル等もこれから準備していきます。次回の常任の際に小林副会長と打ち合わせをしていきます。

高橋会長

他に報告事項・協議事項等無いようなので以上をもちまして令和4年第回理事会を終了します。

※議長が第回理事会の終了を宣言したので、令和5年2月18日午後5時00分理事会を閉会。

議事録作成 河井 淑裕

令和5年度 静岡県放射線技師会事業計画(案)

開催予定日	令和5年度静岡県放射線技師会事業計画	開催日	令和4年度静岡県放射線技師会事業経過
令和5年	医療被ばく相談【常設】	令和4年	医療被ばく相談【常設】
4月		4月	
23日	第1回 理事会	23日	第1回理事会
5月		5月	
28日	第12回 (公社)静岡県放射線技師会定時総会 (静岡市 あざれあ)	29日	第11回(公社)静岡県放射線技師会定時総会(浜松市 プレスタワー)
28日	第27回 静岡県放射線技師学術大会 (静岡市 あざれあ)	29日	第26回 静岡県放射線技師学術大会(浜松市 プレスタワー)
未定	第1回告示研修(実技研修)		
未定	第2回告示研修(実技研修)		
6月		6月	
10日	第84回(公社)日本診療放射線技師会定時総会	4日	第1回告示研修(実技研修) 静岡県立総合病院
未定	第50回 放射線技師のためのセミナー	5日	第2回告示研修(実技研修) 静岡県立総合病院
		11日	第83回(公社)日本診療放射線技師会定時総会
		18日	第47回 放射線技師のためのセミナー
7月		7月	
未定	第3回告示研修(実技研修)	16日	日本放射線技師会75周年事業
未定	第4回告示研修(実技研修)	23日	第3回告示研修(実技研修) 富士宮市立病院
28日	ジャーナルVol.33 No.1発行	24日	第4回告示研修(実技研修) 富士宮市立病院
		29日	ジャーナルVol.32 No.1発行
8月		8月	
26日	第2回理事会	27日	第2回理事会
9月		9月	
29日～	第39回日本診療放射線技師学術大会(熊本)	10日	第12回新人教育セミナー(フレッシュャーズセミナー)
10月1日	静岡ふれあい広場(静岡市)	16～18日	第38回日本診療放射線技師学術大会 (神戸コンベンションセンター WEB併用)
未定	第13回 フレッシュャーズセミナー(未定)		
未定	第81回 超音波部会研修会		
未定			
10月		10月	
7日	第1回放射線セミナー・胃がん検診X線撮影従事者講習会(中部)	1日	第1回放射線セミナー・胃がん検診X線従事者講習会(中部)
未定	可美公園まつり(西部)	15日	第15回MRI技術研究会
未定	原子力緊急時災害対策研修会	15日	第5回告示研修(実技研修) 静岡医療科学専門学校
未定	第57回アンギオ部会研修会	16日	第6回告示研修(実技研修) 静岡医療科学専門学校
未定	第17回 静岡県MRI技術研究会	22日	第79回 超音波部会研修会
未定	第5回告示研修(実技研修)	23日	可美公園まつり(西部)
未定	第6回告示研修(実技研修)		
11月		11月	
25～26日	第15回中部放射線医療技術学術大会(福井県)	3日	秋季公開講演会
未定	秋季公開講演会	5～6日	第14回中部放射線医療技術学術大会(愛知県)
未定	第1回放射線セミナー・胃がん検診X線撮影従事者講習会(東部)	12日	第55回アンギオ部会研修会
未定	第38回乳腺画像部会研修会	19日	原子力緊急時災害対策研修会
24日	ジャーナルVol.33 No.2発行	25日	ジャーナルVol.32 No.2発行
未定	メディメッセ2023(西部)	26日	東部地区第1回放射線セミナー、第1回胃がん検診従事者講習会
		26日	第36回乳腺画像部会研修会
		26～27日	メディメッセ2022(キラメッセ沼津)
12月		12月	
9日	第17回医療安全セミナー	3日	西部地区会勉強会・第1回放射線セミナー・胃がん検診X線従事者講習会(西部)
16日	第3回理事会	10日	第16回医療安全セミナー
未定	西部地区会勉強会・第1回放射線セミナー・胃がん検診X線従事者講習会(西部)	10日	第7回告示研修(実技研修)藤枝市立総合病院
未定	第7回告示研修(実技研修)	11日	第8回告示研修(実技研修)藤枝市立総合病院
未定	第8回告示研修(実技研修)	17日	第3回理事会
令和6年		令和5年	
1月		1月	
13日	新春公開講演	14日	公益法人移行10周年記念式典(静岡市)
未定	第52回 放射線技師のためのセミナー	14日	公益法人移行10周年記念誌発行(静岡市)
13日	アール祭	14日	新春公開講演会
未定	第2回放射線セミナー・胃がん検診X線撮影従事者講習会(東部)	21日	第49回 放射線技師のためのセミナー
未定	原子力災害想定情報伝達訓練	28日	東部地区第2回放射線セミナー・胃がん検診X線撮影従事者講習会
未定	基礎技術講習(乳房撮影)	31日	静岡県放射線技師会緊急時災害情報連絡訓練
2月		2月	
11日	第64回東海四県放射線技師学術大会(愛知県)	4日	静岡県原子力防災実動訓練
17日	第4回 理事会	11日	第63回東海四県放射線技師学術大会(静岡県)
未定	静岡県原子力防災実動訓練	18日	第7回ワークライフバランス検討委員会研修会
未定	第8回ワークライフバランス検討委員会研修会	18日	第4回理事会
未定	第39回乳腺画像部会研修会	25日	第37回乳腺画像部会・第80回 超音波部会 合同研修会
未定	第9回告示研修(実技研修)	25日	第9回告示研修(実技研修) 静岡県立総合病院
未定	第10回告示研修(実技研修)	26日	第10回告示研修(実技研修) 静岡県立総合病院
3月		3月	
2日	中部地区総会	4日	第45回西部地区総会
2日	第2回 放射線セミナー(中部)	4日	第2回放射線セミナー・胃がん検診X線従事者講習会(西部)
2日	第2回 胃がん検診X線撮影従事者講習会(中部)	4日	中部地区総会
未定	東部地区通常総会	4日	第2回放射線セミナー・胃がん検診X線従事者講習会(中部)
未定	第46回西部地区総会	11日	第16回MRI技術研究会
未定	第2回 放射線セミナー(西部)	11日	第61回東部地区通常総会
未定	第2回 胃がん検診X線撮影従事者講習会(西部)	18日	静岡県放射線技師研修会
未定	第18回MRI技術研究会	24日	ジャーナルVol.32 No.3発行
未定	静岡県放射線技師研修会	25日	第56回アンギオ部会研修会
22日	ジャーナルVol.33 No.3発行		
未定	第58回アンギオ部会研修会		

太字の事業は、日本放射線技師会主催事業・■は土曜日・■は日曜・祭日

行事予定カレンダー (2023年4月～2023年7月)

4 月			5 月			6 月			7 月		
1	土		1	月		1	木		1	土	
2	日		2	火	編集委員会 総会議案集発送(仮)	2	金		2	日	
3	月		3	水	憲法記念日	3	土		3	月	
4	火		4	木	みどりの日	4	日		4	火	
5	水		5	金	こどもの日	5	月		5	水	
6	木		6	土		6	火		6	木	
7	金		7	日		7	水		7	金	
8	土		8	月		8	木	第5回 常任理事会(事務所)	8	土	
9	日		9	火		9	金		9	日	
10	月		10	水		10	土		10	月	
11	火		11	木	第3回 常任理事会(事務所)	11	日		11	火	編集委員会(二校)
12	水		12	金		12	月		12	水	
13	木	第1回 常任理事会(事務所)	13	土		13	火		13	木	第7回 常任理事会(事務所)
14	金		14	日		14	水		14	金	
15	土		15	月		15	木		15	土	
16	日		16	火		16	金		16	日	
17	月		17	水		17	土		17	月	海の日
18	火		18	木		18	日		18	火	
19	水		19	金		19	月		19	水	
20	木		20	土		20	火		20	木	
21	金		21	日		21	水		21	金	
22	土	第1回 理事会	22	月		22	木	第6回 常任理事会 (Web会議)	22	土	
23	日		23	火		23	金		23	日	
24	月		24	水		24	土		24	月	
25	火		25	木	第4回 常任理事会 (Web会議)	25	日		25	火	
26	水		26	金		26	月		26	水	
27	木	第2回 常任理事会 (Web会議)	27	土		27	火	編集委員会(初校)	27	木	第8回 常任理事会 (Web会議)
28	金		28	日	第12回(公社)静岡県放射 線技師会 定時総会 第27回静岡県放射線技師 学術大会	28	水		28	金	編集委員会(発送)
29	土	昭和の日	29	月		29	木		29	土	
30	日		30	火		30	金		30	日	
			31	水					31	月	

*都合により変更になる場合があります。県技師会・各地区会の広報誌もしくは静岡県技師会ホームページにてご確認ください。

*日放技主催の生涯学習セミナー・ADセミナー等は、JARTまたはNetwork Nowをご覧ください。

編集後記

今月よりいよいよマスクの着用が、個人の判断に委ねられるようになりました。さらに5月には、コロナの分類が2類から5類へと引き下げられるとのことで、実に3年越しに長いトンネルの出口に近づいて光が見えてきたような気がします。少しずつかつての日常が戻りつつあるのを実感できて、感慨深い思いを感じる今日この頃です。

常葉

NHK大河ドラマ「どうする家康」が始まり、毎週楽しみに観ています。静岡県には「駿府城公園」や「久能山東照宮」など家康ゆかりの地が多く残っています。私の通勤途中にも「薩摩土手」や「瑞龍寺」などがあります。みなさんも近くの家康ゆかりの地を探してみてもいいのではないでしょうか？

遠藤

「200X年、ホールは大当たりの炎に包まれた」のセリフで沢山の人を魅了し、また沢山の魔人を作り出した伝説の機種パチスロ北斗の拳が、20年の時を経て復活すると聞きました。毎日アホの様に打ちに行っていたことが懐かしいです。暇が出来たら、打ちに行きたいところですが、一度行ったらまたハマりそうなので辞めときます。皆さんパチンコは適度に楽しむ遊びですから、やりすぎには注意しましょうね（笑）

福地

編集委員会の日の楽しみの一つにお弁当があります。コロナ流行以前は出前を注文していたのですが、ここ数年はお弁当を用意していただいています。幕の内から焼肉弁当、から揚げ弁当などバラエティに富んでおり、とても嬉しいです。今日はとんカツ弁当をおいしく頂こうと思います。

杉山

畑で採れた野菜を初めて無人販売してみました。人通りの多くないところなのであまり売れませんでした。が、売れた数と売上高に相違はありませんでした。日本は平和ですね！今回はサトイモでしたが、次回はタケノコに挑戦してみます。

堀

私の両親は90代、そんな父も昨年亡くなりました。残された母親も96才になりました。長生きは運がいいからと思うことが、たびたびあります。病気がケガをした時には家族がすぐ病院に連れて行きました。早期発見や早期治療の大切さを知ることができました。

三輪

会誌「しずおかジャーナル」Vol.32 No.3 2023

令和5年3月25日発行

発行所：〒420-0064 静岡市葵区本通1丁目3-5 フェリス本通り202

公益社団法人 静岡県放射線技師会

発行人：高橋 真

編集者：常葉 勇介

印刷所：松本印刷株式会社 〒420-0054 静岡市葵区南安倍1丁目1番18号

TEL(054)255-4862 FAX(054)253-2309

事務所案内

執務時間：月曜日～金曜日 午前10時より午後1時まで

TEL(054)251-5954

執務時間外は留守番電話にてお受けいたします。

FAX(054)251-9690

URL <http://shizuhogi.jp>

E-mail address：info-shizuokahousya@shizuhogi.jp